

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第586集

野沢^{のぞわ}Ⅱ遺跡・舟渡^{ふなと}Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査

2011

岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター
(財)岩手県文化振興事業団

野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査

序

岩手県には、旧石器時代から連続と続く数多くの遺跡が残されております。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、経営体育成基盤整備事業に関連して平成21年度に発掘調査を行った北上市更木新田地区に所在する野沢Ⅱ遺跡および舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。発掘調査によって、この地域に平安時代の集落跡が存在していたことが明らかになりました。他にも縄文～弥生時代・近世の遺構や遺物が見つかっており、長きにわたって生活に利用されていた場所であることも判りました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財行政に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター・北上市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成23年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田克典

例 言

- 1 本報告書は、岩手県北上市更木に所在する野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、経営体育成基盤整備事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室（現岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センター）との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。なお、費用負担は岩手県教育委員会が岩手県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室に農家負担分を補助している。
- 3 本遺跡の調査成果は、すでに「平成21年度発掘調査報告書」（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第571集）において発表しているが、内容については本書が優先する。
- 4 岩手県遺跡登録台帳に登録されている野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の遺跡番号と遺跡略号は、次の通りである。

野沢Ⅱ遺跡	遺跡番号	ME46-2306	遺跡略号	NZⅡ-09
舟渡Ⅰ遺跡	遺跡番号	ME46-1390	遺跡略号	FTⅠ-09
舟渡Ⅱ遺跡	遺跡番号	ME46-2314	遺跡略号	FTⅡ-09
- 5 今回調査を行った舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡は、岩手県教育委員会が作成した「岩手県遺跡情報検索システム（花巻・北上地方振興局管内）」においてそれぞれ別遺跡として登録されており、本来は別遺跡として章立てし、報告すべきものであるが、今回の調査区が両遺跡に挟まれた遺跡範囲外部分を含むこと、また今回の調査結果を受けてこれまでの遺跡範囲の見直しが行われることとなったが、本報告書作成期間内にその結果が判らないことから、今回は舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡としてまとめて報告する。
- 6 野外調査の面積・期間・担当者は、次の通りである。

野沢Ⅱ遺跡	4,500㎡	平成21年4月10日～8月5日	菅 常久・溜 浩二郎・山田めぐみ
舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	11,847㎡	平成21年5月11日～11月13日	菅 常久・山田めぐみ
- 7 室内整理の期間・担当者は次の通りである。

野沢Ⅱ遺跡	平成21年11月2日～平成22年3月31日	溜 浩二郎・山田めぐみ
舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	平成21年11月2日～平成22年3月31日	菅 常久・山田めぐみ
- 8 遺物の鑑定は、次の機関に依頼した。

石材鑑定	：花崗岩協会
炭化材同定	：木炭協会
- 9 基準点測量は、株式会社キタテックに委託した。
- 10 野外調査と室内整理にあたっては、次の方々の御協力と御指導をいただいた（敬称略）。

北上市教育委員会

- 11 本報告書の編集については、溜浩二郎が行った。各章の執筆については第Ⅰ章「調査に至る経過」は岩手県南広域振興局農政部北上農村整備センターに原稿を依頼し、執筆していただいたものである。第Ⅱ章～Ⅳ章は溜、第Ⅴ章は山田が執筆・柱穴状土坑・溝跡、それ以外を菅が執筆した。
- 12 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡周辺の地理的環境	
1	遺跡の位置	1
2	地形と地質	2
3	遺跡周辺の歴史的環境	2
III	調査の経過と方法	
1	野外調査の経緯	9
2	野外調査の方法	9
3	室内整理の手順と方法	11
IV	野沢Ⅱ遺跡	
1	遺跡の立地	13
2	基本土層	13
3	調査の概要	13
4	検出した遺構	14
5	出土遺物	44
6	まとめ	57
V	舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	
1	遺跡の立地	59
2	基本土層	59
3	調査の概要	62
4	検出した遺構	62
5	遺構外出土遺物	115
6	まとめ	137
	報告書抄録	209

表 目 次

1表 周辺の遺跡一覧…………… 8	第9表 墓塚出土遺物一覧表…………… 109
<野沢Ⅱ遺跡>	第10表 縄文・弥生土器観察表…………… 129
第2表 柱穴状土坑一覧…………… 34・35	第11表 古代土器観察表…………… 131
第3表 縄文・弥生土器観察表…………… 53	第12表 土製品観察表…………… 133
第4表 古代土器観察表…………… 54	第13表 陶磁器観察表…………… 134
第5表 石器観察表…………… 55	第14表 石器観察表…………… 134
第6表 石製品観察表…………… 56	第15表 石製品観察表…………… 135
第7表 陶磁器観察表…………… 56	第16表 金属遺物観察表…………… 135
<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>	
第8表 柱穴状土坑観察表…………… 92	

図 版 目 次

第1図 遺跡の位置…………… 3	第21図 3～5号溝跡…………… 31
第2図 地形分類図…………… 4	第22図 6～9号溝跡…………… 32
第3図 周辺地形と調査範囲…………… 5	第23図 1号井戸跡…………… 33
第4図 周辺の遺跡分布図…………… 7	第24図 柱穴状土坑 (P P 1～10)…………… 36
第5図 グリッド配置図…………… 10	第25図 柱穴状土坑 (P P 11～22)…………… 37
第6図 凡例図…………… 12	第26図 柱穴状土坑 (P P 23～45)…………… 38
<野沢Ⅱ遺跡>	第27図 柱穴状土坑 (P P 59～131)…………… 39
第7図 基本土層…………… 13	第28図 柱穴状土坑 (P P 46～58・132 ～137)…………… 40
第8図 1号住居跡 (1)…………… 14	第29図 性格不明遺構 (1)…………… 41
第9図 1号住居跡 (2)…………… 15	第30図 性格不明遺構 (2)…………… 42
第10図 2号住居跡…………… 16	第31図 遺構配置図…………… 43
第11図 3号住居跡 (古段階)…………… 18	第32図 遺構内出土遺物 (1)…………… 45
第12図 3号住居跡 (古段階・新段階)…………… 19	第33図 遺構内出土遺物 (2)…………… 46
第13図 4号住居跡 (1)…………… 20	第34図 遺構内出土遺物 (3)…………… 47
第14図 4号住居跡 (2)…………… 21	第35図 遺構内出土遺物 (4)…………… 48
第15図 5号住居跡 (1)…………… 22	第36図 遺構内出土遺物 (5)…………… 49
第16図 5号住居跡 (2)…………… 23	第37図 遺構外出土遺物 (縄文・弥生土器)…………… 50
第17図 5号住居跡 (3)…………… 24	第38図 遺構外出土遺物 (弥生土器・ 土師器)…………… 51
第18図 1号獨立柱建物跡…………… 25	
第19図 1～3号土坑…………… 27	
第20図 1・2号溝跡…………… 30	

第39回遺構外出土遺物(石器・石製品・
陶器)……52

<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>

第40回 基本土層	59
第41回 遺構配置図(1)	60
第42回 遺構配置図(2)	61
第43回 1号住居跡(1)	63
第44回 1号住居跡(2)	64
第45回 2号住居跡	65
第46回 3号住居跡	67
第47回 4号住居跡	68
第48回 5号住居跡	69
第49回 1号焼成遺構	70
第50回 1号焼土	71
第51回 1~4号土坑	78
第52回 5~9号土坑	79
第53回 10~15号土坑	80
第54回 16~21号土坑	81
第55回 22・23号土坑	82
第56回 1~3号溝跡	93
第57回 4・5号溝跡	94
第58回 6・8号溝跡	95
第59回 7・9・12号溝跡	96
第60回 10・11号溝跡	97
第61回 13~16号溝跡	98
第62回 17~19号溝跡	99

第63回 20~22号溝跡	100
第64回 23・24号溝跡	101
第65回 25~28号溝跡	102
第66回 29~31号溝跡	103
第67回 柱穴状土坑(PP1~27)	104
第68回 柱穴状土坑(PP28~65)	105
第69回 墓域・1号墓墳	110
第70回 2~4号墓墳	111
第71回 5~8号墓墳	112
第72回 9~12号墓墳	113
第73回 13~16号墓墳	114
第74回 遺構内出土遺物(1)	116
第75回 遺構内出土遺物(2)	117
第76回 遺構内出土遺物(3)	118
第77回 遺構内出土遺物(4)	119
第78回 遺構内出土遺物(5)	120
第79回 遺構内出土遺物(6)	121
第80回 遺構内出土遺物(7)	122
第81回 遺構外出土土器(縄文・弥生1)	123
第82回 遺構外出土土器(縄文・弥生2)	124
第83回 遺構外出土土器(縄文・弥生3)	125
第84回 遺構外出土土器(縄文・弥生4)	126
第85回 遺構外出土遺物(古代土器・ ミニチュア・陶磁器・土製品・石器)……	127
第86回 遺構外出土遺物(石器・石製品・ 金属遺物)……	128

写真図版日次

写真図版1 航空写真	143
写真図版2 出土陶磁器	144
<野沢Ⅱ遺跡>	
写真図版3 調査区近景・基本土層	145
写真図版4 1号住居跡	146
写真図版5 2号住居跡	147
写真図版6 3号住居跡(古段階)	148
写真図版7 3号住居跡(古段階)	149

写真図版8 3号住居跡(新段階)	150
写真図版9 4号住居跡	151
写真図版10 4号住居跡	152
写真図版11 5号住居跡	153
写真図版12 5号住居跡	154
写真図版13 1号掘立柱建物跡・1・2号 柱穴列	155
写真図版14 1~3号土坑	156

写真図版15	1号井戸跡、 性格不明遺構……………	157	写真図版43	20・21号溝跡……………	185
写真図版16	1・2号溝跡……………	158	写真図版44	19・22・23号溝跡……………	186
写真図版17	3・4号溝跡……………	159	写真図版45	24～26号溝跡……………	187
写真図版18	5・6号溝跡……………	160	写真図版46	27～29号溝跡……………	188
写真図版19	7～9号溝跡……………	161	写真図版47	30・31号溝跡……………	189
写真図版20	遺物出土状況……………	162	写真図版48	1～6号墓塚……………	190
<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>			写真図版49	7～11号墓塚……………	191
写真図版21	航空写真、調査区近景……………	163	写真図版50	12～16号墓塚、墓域全景……………	192
写真図版22	基本土層……………	164	<野沢Ⅱ遺跡>		
写真図版23	1号住居跡……………	165	写真図版51	遺構内出土土器(1)……………	193
写真図版24	1号住居跡……………	166	写真図版52	遺構内出土土器(2)……………	194
写真図版25	2号住居跡……………	167	写真図版53	遺構内出土土器(3)……………	195
写真図版26	2号住居跡……………	168	写真図版54	遺構外出土土器……………	196
写真図版27	3号住居跡……………	169	写真図版55	石器……………	197
写真図版28	4・5号住居跡……………	170	写真図版56	陶磁器……………	198
写真図版29	1号焼成遺構、1号焼土……………	171	<舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡>		
写真図版30	1～4号土坑……………	172	写真図版57	遺構内出土遺物(1)……………	199
写真図版31	5～8号土坑……………	173	写真図版58	遺構内出土遺物(2)……………	200
写真図版32	9～12号土坑……………	174	写真図版59	遺構内出土遺物(3)……………	201
写真図版33	13～16号土坑……………	175	写真図版60	遺構内出土遺物(4)、 遺構外出土土器(1)……………	202
写真図版34	17～20号土坑……………	176	写真図版61	遺構外出土土器(2)……………	203
写真図版35	21～23号土坑……………	177	写真図版62	遺構外出土土器(3)……………	204
写真図版36	1～3号溝跡……………	178	写真図版63	遺構外出土土器(4)、 土製品……………	205
写真図版37	4・5号溝跡……………	179	写真図版64	石器(1)……………	206
写真図版38	6・7号溝跡……………	180	写真図版65	石器(2)、石製品、 金属遺物(1)……………	207
写真図版39	8・9・13号溝跡……………	181	写真図版66	金属遺物(2)……………	208
写真図版40	10～12号溝跡……………	182			
写真図版41	14～16号溝跡……………	183			
写真図版42	17・18号溝跡……………	184			

I 調査に至る経過

野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡は、「経営体育成基盤整備事業更木新田地区」のは場整備に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本地区は北上市の北東、花巻市との市境に位置し、現況は小区画・不整形な水田で、なおかつ幅員狭小な農道となっていることから、作業効率が悪く、また用排水兼用の土圃溝水路のため、用水不足や排水不良となっており、維持管理に支障を来しているところである。このため、本事業地区においては、大区画は場整備を実施することで、農作業の効率化、生産コストの削減、生産性の向上等を図り、農地集積による安定した経営体および担い手農家の育成を目的として事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、北上地方振興局農村整備室から平成17年10月11日付北地農整第460号、県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室から平成18年11月9日付北総農整第580-1号、平成19年2月23日付北総農整第580-2号「経営体育成基盤整備事業更木新田地区に係る埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成17年10月12日～平成19年2月27日にかけてそれぞれ試掘調査を実施し、工事に着手するには舟渡Ⅰ遺跡、野沢Ⅰ・Ⅱ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成18年3月31日付教生第1887号、平成19年1月31日付教生第1474号、平成19年3月7日付教生第1660号「経営体育成基盤整備事業更木新田地区予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」によりそれぞれ回答してきた。

その結果を踏まえ、当農村整備室は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成21年4月8日付で財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

なお、岩手県県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室は、岩手県広域振興局再編に伴い、平成22年度より岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センターとして事業継続がなされている。

（岩手県県南広域振興局農政部北上農村整備センター）

II 遺跡周辺の地理的環境

1 遺跡の位置

野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡が所在する北上市更木新田地区は、北上市北東部の北緯39度20分02秒～39度20分02秒、東経141度08分25秒～141度09分09秒の地点に位置し、北上山地の北西端部、北上川左岸に立地する。遺跡は国土地理院発行の5万分の1地形図「花巻」NJ-54-13-16（盛岡16号）および「北上」NJ-54-14-13（一関13号）の図幅に含まれる。

北上市は県東盛岡市から南方約47kmの距離にあり、総面積は437.55㎡。北に花巻市、南に金ヶ崎町、東に奥州市、西に西和賀町が隣接する。古くから交通の要衝として栄え、藩政時代の黒沢尻は北上川舟運の南部藩最南端の商港であった。平成3年4月に旧北上市、和賀町、江釣子村の3市町村が合併し、現在の北上市となった。

2 地形と地質

遺跡は北上市と花巻市の東側を蛇行し、南流する北上川左岸に立地し、地形的には北上川河谷平野に載る。この平野は北上川の流路変遷の過程を示す谷底平野及び氾濫平野や自然堤防、旧河道などで構成され、一様に低平ではない低地が発達している。この北上川河谷平野を境にして東西で地勢は大きく異なり、対照的な様相を呈する。北上川より東側は早池峰山（標高1,914m）を最高峰に剣ヶ峰（1,827m）・中岳（1,679m）・鶏頭山（1,445m）・毛無森山（1,427m）などの高山が東西に連なった「早池峰連峰」を形成する北上山地が広がるが、遺跡周辺は北上山地の西縁丘陵地域で、比較的なだらかな山地が広がり、水乞山（287m）・物見山（294m）・明神岳（356m）・館山（329m）などの低山が概ね標高300m前後、丘陵地は標高150～300mの中小起伏山地帯が広がっている。また地質は花崗岩類・蛇紋岩・安山岩で構成される古生層と砂層・頁岩で構成される鮮新層を基盤とする山地や丘陵地が入り組んで発達している。対して北上川西側は、急峻で起伏の大きな奥羽山脈が分布し、その東側の断層崖下には奥羽山脈から発した急勾配の河川が北上川へ合流する。ゆえに砂礫の堆積は若しく、扇状地性台地が発達している。

表層地質においても地形同様北上川河谷平野を境として東西で対照的な様相を呈している。北上山地側では第三紀の安山岩質岩石が大部分を占め、奥羽山脈側では沖積世の砂礫層を挟むように第四紀のロームが広がっている。遺跡のある北上川河谷平野は未固結堆積物である沖積世の砂礫層で構成されている。

参考文献

- 岩手県企画開発室（北上山系開発）1976 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 花巻』
 岩手県企画開発室（北上山系開発）1976 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 北上』

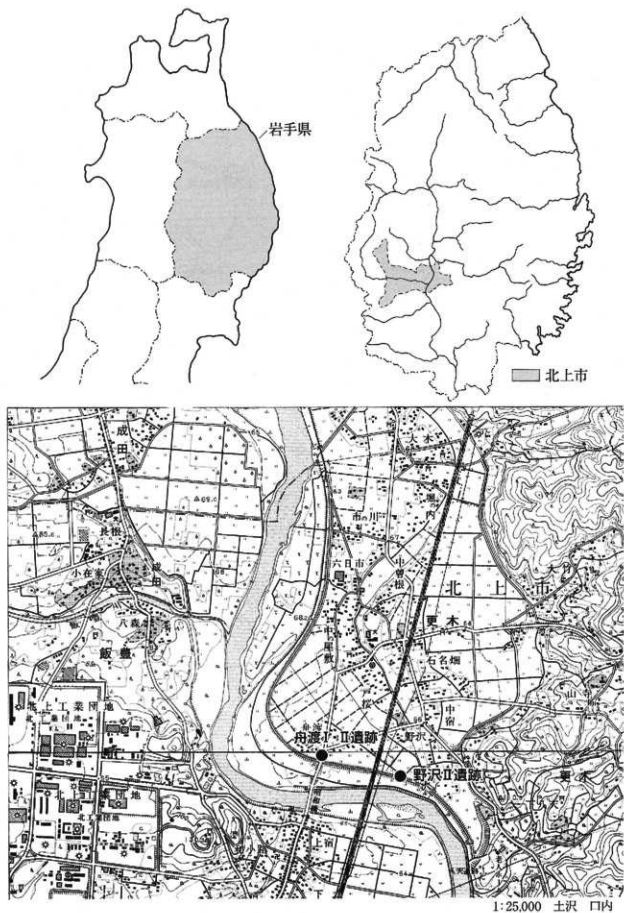
3 遺跡周辺の歴史的環境

(1) 北上市の遺跡

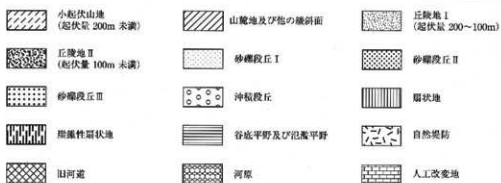
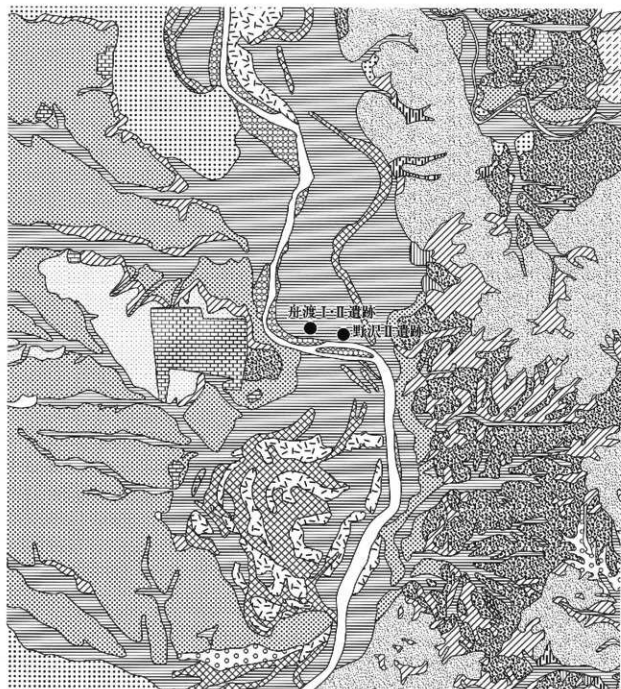
平成21年3月現在、岩手県教育委員会が作成した「岩手県遺跡情報検索システム（花巻・北上地方振興局管内）」によれば、北上市内では508箇所の遺跡が登録されている。全体の31%にあたる158遺跡は複数の時代にまたがる複合遺跡である。時代別みると旧石器時代13遺跡、縄文時代279遺跡、弥生時代26遺跡、古墳時代6遺跡、奈良・平安時代257遺跡、中世96遺跡、近世21遺跡で、縄文時代と奈良・平安時代の遺構・遺物が見つかった遺跡は周知されている遺跡全体の半数をそれぞれ超えている。遺跡のある北上川の沖積平野上には主に古代の集落遺跡が多く、東側の北上山地縁部にあたる丘陵地上には縄文時代の遺跡や中世城館があり、全体としては、沖積平野に占地する縄文時代の遺跡は段丘あるいは山地に位置する遺跡に比べて少ない傾向にあり、沖積平野上にある遺跡では縄文時代の遺物は散布した状態で出土することが多い傾向がある。

(2) 周辺の遺跡

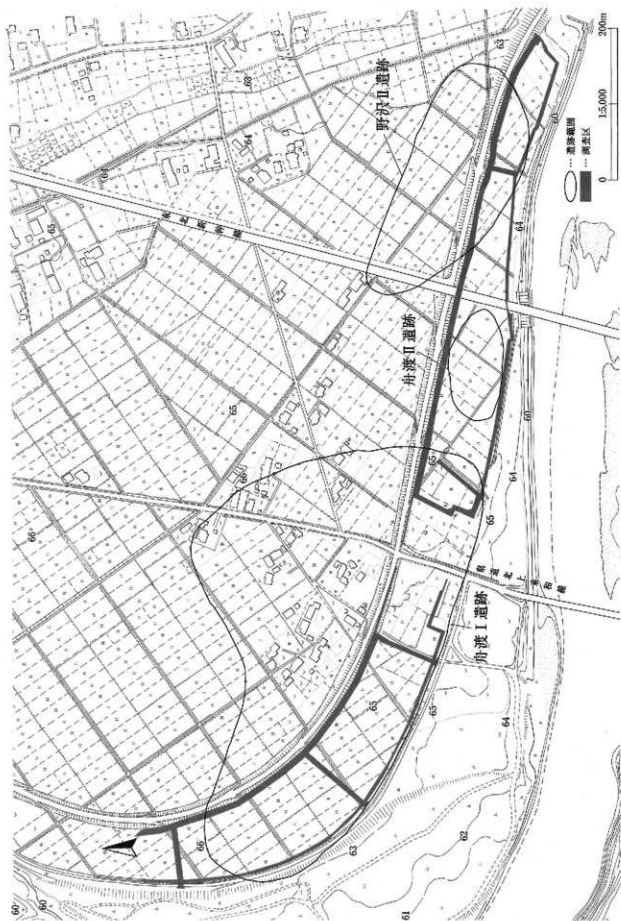
東木地区とその周辺には、縄文時代から近世にかけての遺跡が多く分布している。特に平安時代の集落跡や中世城館跡が多く見受けられるが、そのなかには縄文時代・弥生時代などを含む複合遺跡もあり、古来より人々が生活の場として利用し続けていたことがわかる。周辺の遺跡（第4図）には北



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図



第3図 周辺地形と調査範囲

上市の遺跡と併せて今回の事業に関連して調査が行われた花巻市の遺跡も含めた76遺跡を掲載した。

ここでは、調査を行った更木地区とその周辺の遺跡を中心に時代ごとに概観していきたい。

縄文時代の遺跡では国指定史跡になっている八天遺跡が代表的な遺跡である。八天遺跡は北上川中流域左岸の段丘上に形成された縄文時代中期後半から後期にかけての集落跡であり、巨大な円形の大形住居跡や500基を超える土坑群が見つまっている。特に円形大形住居跡は、円形住居としては縄文時代最大級の例である。土坑からは仮面に用いられたと思われる土製の耳・鼻・口といった土製品、大量の焼人骨が発見されている。更木地区周辺には、他にも童子洞遺跡、神行田遺跡、根岸遺跡など多くの縄文時代の遺跡が見つまっている。

弥生時代の遺跡では戸桜遺跡、六日市遺跡、黒岩宿遺跡などが遺物散布地として知られている程度であるが、今回調査を行った野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡でも弥生時代前期を中心とする遺物が少量ながら見つかった。また野沢Ⅱ遺跡では堅穴住居跡が1棟見つまっていることから、北上川流域の微高地に集落が点在していた可能性が考えられる。

古墳～奈良時代までは日立った遺跡はないが、律令国家の支配下に置かれる9世紀以降になると再び北上川流域を中心として多くの集落が営まれるようになる。平安時代の集落跡は9世紀から10世紀にかけてのものが多く、今回の事業に関連して調査が行われた遺跡では平成19年度に調査が行われた山口遺跡、小川屋敷遺跡、六日市遺跡、平成20・21年に調査を行った野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡で堅穴住居跡等が見つまっている。他にも今回調査が行われた更木地区の沖積地には未調査ではあるが、中の屋敷Ⅰ・Ⅱ遺跡、石名畑遺跡、大森遺跡などがある。また、11世紀には国見山廃寺を中核として寺院が建てられるが、更木地区周辺の古代寺院跡としては大竹廃寺跡と白山廃寺跡がある。大竹廃寺跡は更木地区大竹の標高180mの山頂付近に所在し、桁行5間、梁間4間の巨大な堂宇の跡が検出された。金堂跡と推定されているその堂宇からは、土師器や須恵器、須恵系土器などの遺物の他に鉄鏡も出土している。白山廃寺跡は、白山権現の十一面観音像を鎮守とした寺院である。移動されている礎石もあるが、桁行き約11間、梁行き約5間、礎石が径4尺という瓦葺きの経蔵をもった11世紀頃の寺院であることがわかっている。

中世になると更木地区には和賀郡を治めていた中世領主である和賀氏の本城であったとされる更木館があったが、開田工事によってその形状が失われているため詳細は不明である。和賀氏は黒岩城から更木館に移り、最後に二子に地に城を構えたといわれている。それが、和賀氏の最後にして最大の城館であった二子城跡（飛勢城跡）である。平成19年に調査が行われ、北上川右岸の成田地区で調査した成田岩田堂館遺跡のある地域も、二子城跡の攝手としての機能を果たしていたとされ、古くから馬場野という地名も残っている。また、和賀氏の家臣であった成田藩内の居館があったと伝えられており、建物跡も検出されている。二子城跡は、天正18年（1590年）の奥州仕置によって、和賀氏が追放されるまで本城としての役割を果たしていた。周辺には家臣屋敷や寺社、城下町も存在し、政治的・経済的にも重要な役割を担っていたと考えられている。県内最大の中世墓である五輪壇遺跡は、和賀領主の墓である可能性が高いとされている。土壇の上には五輪塔が建てられ、その土壇の中に何体もの火葬骨がおさめられている。そして、その土壇を囲むように二重の堀が巡るという大規模な墓である。中世の墳墓には、他にも上川端塚群、四十九里Ⅲ遺跡などがある。上川端塚群は、方形や円形の塚が8基以上現存しており、土葬墓で中世末～近世前半のものとして推定されている。

近世においては、調査例が少なく、調査されていても遺跡内に散在する程度で詳細は不明な場合が多い。今回、調査を実施した野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ遺跡・舟渡Ⅱ遺跡からは、近世の掘立柱建物跡や建物を構成していたと思われる柱穴や近世陶磁器が見つっており、近世以降も生活の場として利用さ



第4図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧

No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など	No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
1	徳貞田	散布地・集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器等	41	大竹庵寺跡	寺院跡	平安	土師器・須恵器・鉄鏡
2	駒板	散布地・集落跡	縄文・古代	縄文土器、石器、陶磁器	42	山口	散布地	平安	土師器
3	大木	集落跡	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器	43	小川原敷	散布地	平安	土師器・須恵器
4	沖井	集落跡	古代	竪穴住居跡・土師器・銅	44	市の川Ⅰ	散布地	平安	土師器・須恵器
5	成田Ⅰ	散布地	古代	土師器・須恵器	45	市の川Ⅱ	散布地	平安・近世	土師器・陶磁器
6	成田Ⅱ	散布地	古代	土師器・須恵器	46	六口市	散布地	平安・近世	弥生土器
7	成田Ⅲ	散布地	平安	土師器	47	中の屋敷Ⅰ	散布地	平安	土師器
8	小学校西	集落跡	平安	土師器・須恵器・方頭太刀残欠	48	中の屋敷Ⅱ	散布地	平安	土師器
9	成田一里塚	一里塚	近世	一里塚2基	49	石名畑	散布地	平安	須恵器
10	下成田	散布地	平安	縄文土器・須恵器	50	大森	散布地	平安	土師器・須恵器
11	成田館	城跡跡	中世		51	童子瀬	散布地	縄文	縄文土器(後期)、石器
12	成田	散布地	古代・縄文	縄文土器・土師器・須恵器・土坑	52	鶴山	散布地	縄文	縄文土器、石器
13	成田岩田堂館	散布地・城跡跡	縄文・古代・中世	縄文土器・石器	53	栗木館	城跡跡	中世	腰郭・堀切
14	二子城跡	散布地	中世・縄文	堀・帯郭・縄文土器・陶磁器	54	戸板	散布地	平安・近世	土師器・陶磁器・弥生土器・縄文土器
15	伊勢	散布地	近世		55	舟渡Ⅰ	散布地	縄文・平安	土師器・石器
16	伊子沢	集落跡	平安	竪穴住居跡・土師器・須恵器	56	舟渡Ⅱ	散布地	近世	陶磁器(美濃産)・腰郭跡、盛があったとされる
17	塚館	散布地	平安	土師器・竪穴住居跡	57	野沢Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器(後期)・土師器・須恵器
18	上川端塚跡	墳墓	中世	墳丘	58	中宿	散布地	縄文	縄文土器・石皿・石斧
19	上川端Ⅰ	散布地	平安	土師器・須恵器	59	野沢Ⅱ	散布地	平安	土師器
20	上川端Ⅱ	散布地	古代	土師器	60	八天北	散布地	平安	土師器
21	五輪塚	墳墓	中世	土壇・樹溝	61	梅ヶ沢館	城跡跡	中世	-
22	南田Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器	62	羽久保館	城跡跡	中世	-
23	南田Ⅱ	集落跡	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器・竪穴住居跡	63	大玉館	城跡跡	中世	空堀・主郭・腰郭
24	瀬向Ⅰ	散布地	縄文・古代	土師器・須恵器・石匙	64	卜欠野館	城跡跡	中世	主郭・堀
25	瀬向Ⅱ	集落跡	古代	土師器・須恵器	65	八天	集落跡	縄文	縄文土器・石器・竪穴住居跡・土製品
26	鳥喰Ⅰ	集落跡	古代	土師器・須恵器	66	平沢堀ノ内	城跡跡	中世	
27	鳥喰Ⅱ	散布地	古代	土師器	67	三坊木	散布地	平安・縄文	縄文土器・土師器・須恵器
28	西川目	集落跡	古代	土師器・須恵器	68	三坊木館	城跡跡・散布地	中世・縄文	縄文土器・土師器・須恵器
29	明神Ⅰ	散布地	古代	土師器	69	湯沢Ⅰ	散布地	古代	土師器・須恵器
30	明神Ⅱ	散布地	古代	土師器	70	湯沢Ⅱ	散布地・城跡跡	縄文・中世	縄文土器(中期)
31	高屋Ⅰ	散布地	古代	須恵器	71	神打田	散布地	縄文	縄文土器(中期・晩期)・石器
32	高屋Ⅱ	散布地	古代	須恵器	72	湯集Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器・かわらけ
33	二子一里塚	一里塚	近世	一里塚2基	73	湯集Ⅱ	散布地	古代	土師器・須恵器
34	中島	散布地	古代	土師器	74	白山庵寺跡	寺院跡	平安	布目瓦・かわらけ・礎石・建物跡
35	岡島	散布地	古代	土師器・須恵器	75	黒岩城跡	散布地・城跡跡	縄文・中世・平安	縄文土器(中期)・かわらけ・陶磁器・堀・主郭・外郭
36	根野野	散布地	古代	土師器	76	黒岩館	集落跡	縄文・弥生・平安	縄文土器・弥生土器・かわらけ・常滑
37	下川端	集落跡	平安	土師器・須恵器					
38	尻川	集落跡	平安	土師器・須恵器					
39	中村	集落跡	平安	縄文土器・土師器・須恵器					
40	大木廻の内	散布地	平安	土師器					

れていたことがわかった。

参考文献

北上市 1968『北上市史』第1巻 原始・古代(1)

(財)岩手県歴史文化財センター 2008『市の川遺跡・市の川Ⅱ遺跡・山口遺跡・小川原敷遺跡・六口市遺跡・八天北遺跡』

岩手県歴史文化財調査報告書第343集

Ⅲ 調査の経過と方法

1 野外調査の経緯

野沢Ⅱ遺跡

- 4月10日 調査開始。現場設営・環境整備。
- 4月27日 基準点設置。
- 6月16日 航空写真撮影実施。
- 7月3日 調査終了確認。
- 8月5日 調査終了。

舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡

- 5月11日～15日 重機による表土除去を開始した。
- 6月22日～30日 重機による表土除去作業を再開した。
- 7月17日 人力による遺構検出作業を開始した。
- 9月25日 調査区東側の航空写真撮影実施。
- 9月29日 調査区東側の部分終了確認。
* 現地公開を実施。
- 10月2日 調査区東側の調査終了。
- 11月6日 調査区西側の部分終了確認。
- 11月10日 航空写真撮影実施。
- 11月13日 調査終了。現場撤収。

(*終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの3者による)

2 野外調査の方法

(1) グリッドの設定

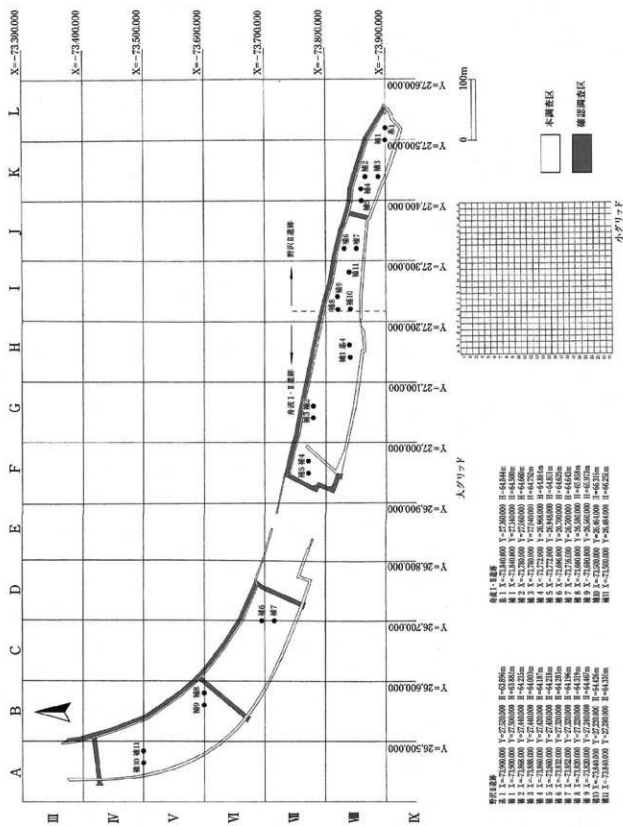
平面直角座標第Ⅹ系の $X = -73,100,000$ 、 $Y = 26,400,000$ を原点として 100×100 mの大グリッドを設定し、これを25等分し、 4×4 mの小グリッドとしている。調査原点は昨年度調査を行った野沢Ⅰ・野沢Ⅱ・舟渡Ⅰ・戸桜遺跡の原点より西に100mの位置となっている。大グリッドの呼称は原点を起点に南方向へⅠ～Ⅹ、東方向へA～L、小グリッドの呼称は南方向へ1～25、東方向へa～yとしている。小グリッドの呼称はⅠAⅠaとなる。

(2) 基準点の設定

遺構の実測に利用するため調査区内に基準点および補助点を株式会社キタテックに委託して打設した。座標値はいずれも世界測地系によるもので、各遺跡の基準点および補助点の成果値と杭高は第5図に示したとおりである。

(3) 表土除去と遺構の検出

各遺跡の調査に先立って、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による事前の試掘調査が実施されている。この試掘により調査対象区内の水田・畑・未舗装道路などに盛土・耕作土が厚く堆積し、



第5図 グリッド配置図

その下に古代の遺構・遺物が包蔵されている層が確認されたため、表土除去は重機で行い、その後人力による遺構検出を行った。また、古代の遺構・遺物がない箇所についてはさらに重機で下層まで掘り下げ、縄文時代の遺構・遺物の有無を確認した。

(4) 遺構の精査と実測

調査で検出された遺構は以下の手順で調査を進めた。

本調査区

竪穴住居跡・焼成遺構は4分法で十坑・焼土遺構は2分法で行い、埋土の堆積状況の確認を行いながら掘り下げた。柱穴状十坑については検出時に柱痕を確認し、光波トランシット使用による平面図に作成後、セクションベルトを設け、断面確認→完掘の順で作業を行った。

確認調査区

原則検出時の写真撮影および平面図作成後、最小限の断面確認を行ったが、柱穴状十坑については検出のみの調査である。

(5) 遺物の取り上げ方

遺物の取り上げは遺構内と遺構外に大別し、遺構内出土遺物については遺構名と相対的層位(検出面・上位・中位・下位・底面)を記し、遺構外出土遺物についてはグリッドおよび出土層位を記して取り上げたが、この際、グリッドを跨いで取り上げたものについてはグリッド名を複数記した。また、取り上げに際しては事前に必要に応じて平面図の作成および写真撮影を行っている。

(6) 写真撮影

調査記録用にデジタル一眼レフカメラ(Canon EOS50D)1台、モノクローム6×7cm判カメラ1台を使用した。撮影にあたって、整理時の混乱を防ぐため撮影内容を記入した撮影カードを対象遺構撮影前に撮影している。その他、調査期間中にセスナ機による航空写真撮影を3回実施した。

3 室内整理の手順と方法

(1) 作業経過

各遺跡の室内整理期間は前述の例言のとおりで、整理作業は出土遺物の洗浄と遺物の仕分けは野外調査と平行して現地および室内で行った。また、土器の接合・復元作業・実測図作成・拓影作成などの作業は室内で行った。整理担当者はこれらの作業の確認・点検と平行して、図面合成・原稿執筆・各種観察表の作成等の作業を実施した。

(2) 遺物

現場で洗浄した遺物の注記作業から開始し、続いて接合・復元を行った。その過程で本書に掲載するものを抽出し、それらの実測図を作成、トレースした。抽出にあたっては遺構内のものについては小破片でもなるべく掲載するようにした。遺構外のものについては出土地点・層位などを考慮して選別した。実測と平行して、これらを撮影し、合わせて登録作業を行った。

(3) 遺構

実測図を点検・合成しながら遺構の検討を行った。その後、第2原図を作成し、そのトレースを行った。また、野外調査で撮影した遺構の写真も整理し、台帳登録をしている。その後、掲載するものを抽出し、トリミングなどを行った後に写真図版とした。

(4) 掲載図

掲載している遺構の縮尺は平面図・断面図ともに竪穴住居跡・掘立柱建物跡は1/50、住居内カマドの断面図は1/25、土坑・焼土・井戸跡は平面図・断面図ともに1/40、柱穴状土坑の平面図は1/100、溝跡は平面図は1/50・1/100、断面図は1/50とした。また、遺物掲載は土器・礫石器は1/3、剥片石器・土製品・石製品・金属遺物は1/2を基本とした。ただし、一部異なるものもあるため、各図にスケールおよび縮尺を付した。写真図版については縮尺不定である。また、図中において竪穴住居内の土坑・柱穴、掘立柱建物跡・柱穴列を含む柱穴状土坑は「PP」、土器は「P」、石器・礫は「S」、遺構内出土の掲載遺物は()内に掲載番号を表記した。スクリーントーンの使用は凡例図(第6図)のとおりであるが、これ以外の使用については使用箇所に用例を表記した。各遺構の計測値表記については土坑類は長軸×短軸、竪穴住居跡は同時期に使用されているカマドの主軸(煙道部)方向に平行する面×主軸と直交する垂線を有する面である。

(遺構)



焼土



炭化物・材

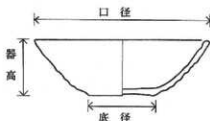


柱痕



礫

(遺物)



須恵器

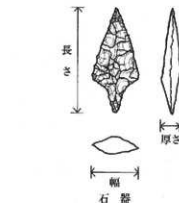


黒色処理



回転ナダ

土器



石器



ミガキ



ヘラナダ



ヘラケズリ

第6図 凡例図

IV 野沢II遺跡

1 遺跡の立地

北上川によって形成された自然堤防上に立地する。遺跡の標高は64m前後で、調査前の現況は水田・畑等である。

2 基本土層

ⅢJ21uグリッドの南側壁面を基本土層とした。調査区内においては全体に地形の起伏により、後世の整地造成の影響で、遺構検出面であるⅢ層が削平され、なくなっている場所もあるが、元来の層序は北上川の洪水による影響を受けた堆積層で以下の順である。Ⅰ層は耕作土でⅡ層は黒褐色シルトが堆積するが、時期は不明である。Ⅲ層は暗褐色シルトで2層に分層され、上層(Ⅲa)が古代以降の堆積層、下層(Ⅲb)が主に弥生時代の遺物を含む堆積層である。Ⅳ層以下からは遺構・遺物は見つからない。

Ⅰ層：3層に分層される。いずれも灰黄褐色シルトで耕作土である。層厚は30cm前後である。

Ⅱ層：10YR3/2 黒褐色シルト 粘性あり しまりあり炭化物1%未満含む。層厚0~12cm。

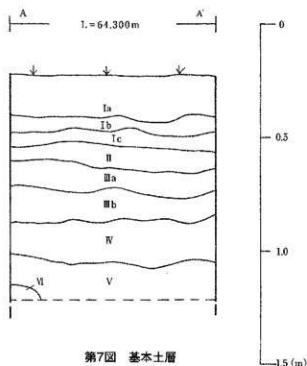
Ⅲa層：10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりあり 明褐色焼土粒(7.5YR5/6 径3mm)を1%未満含む。古代面。

Ⅲb層：10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 縄文・弥生土器出土。

Ⅳ層：10YR4/1 褐色粘上質シルト 粘性あり しまりあり 層厚8~14cm。

Ⅴ層：10YR3/2 黒褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 層厚12~24cm。

Ⅵ層：10YR4/3 泥い黄褐色シルト やや砂質 粘性ややあり しまりあり



第7図 基本土層

3 調査の概要

本遺跡の調査は昨年実施されているが、今回の調査はその南側に隣接した箇所である。全体面積は4,500㎡のうち本調査区が2,210㎡、確認調査区が2,290㎡で確認調査区では遺構検出後に半裁のみを

行った。

4 検出した遺構

検出した遺構は竪穴住居跡5棟（弥生1棟、古代4棟のうち平安3棟・詳細不明1棟）、土坑3基（弥生1基、近世2基）、溝状遺構9条（平安1条、近世以降8条）、井戸跡1基（近世以降）、柱穴状土坑137個で、他に性格不明遺構が1基ある。

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡（第8・9図、写真図版4）

<位置・検出・重複関係> W116u・16vグリッドに跨って位置する。検出はIV層であるが、Ⅲb層を掘り込んでいる。遺構の南側が調査区外へと延びている。

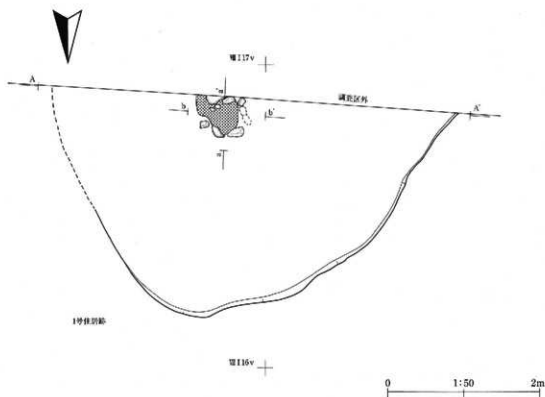
<形状・規模> 遺構の南側が調査区外にあるため、形状・規模の詳細は不明であるが、調査した部分から形状は円形状であると推測される。

<埋土> 埋土は自然堆積で上～中位は暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。

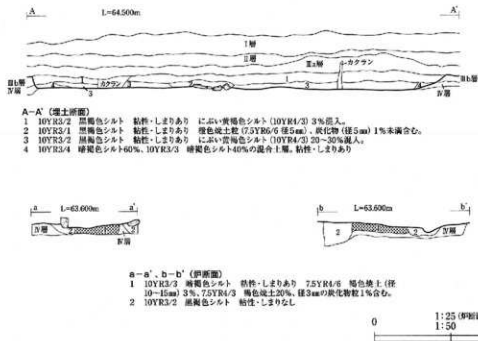
<床面・壁面> 床面はほぼ平坦であるが、一部が攪乱を受けている。壁面は東壁・西壁ともに直立気味に立ち上がるが、西壁の方が緩く傾斜している。壁高は東壁16cm、西壁20cmである。

<炉> 住居の中央部にあたる部分に構築されていると考えられ、大きさ6～22cmの自然礫を方形に配置した石囲炉である。構成礫を含む炉の規模は約60×56cmで囲みの内側に燃焼により褐色に変化した焼土粒や炭化物が散布している。

<遺物> 遺構の認識が遅れたため、遺構内からの出土遺物は確認できなかったが、検出時に周辺か



第8図 1号住居跡(1)



第9図 1号住居跡(2)

らは弥生時代前期の土器片が出土している。

時期 遺構の検出状況から弥生時代前半に属する可能性が考えられる。

2号住居跡(第10・32図、写真図版5・51)

<位置・検出・重複関係> WJ21x・21y・22x・22yグリッドに跨って位置する。IV層で検出したが、遺構の延びる南側壁面の土層観察により、Ⅲb層を掘り込んでいることが確認された。遺構南半は調査区外へと延びている。

<形状・規模> 遺構の大半が調査区外のため、詳細な規模は不明であるが、調査した部分から形状は方形状と推定される。

<埋土> 埋土の上～中位は暗褐色シルト、下位はにおい黄褐色シルトを主体とし、壁面付近に黒褐色シルトが堆積する。

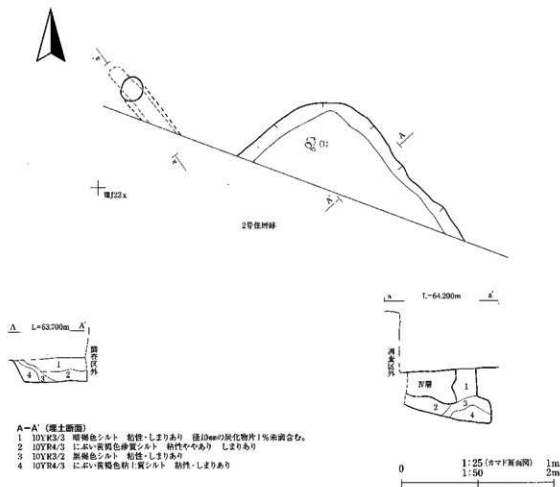
<カマド> 煙道～煙出部の一部のみ検出した。煙道部は割り貫き式の構造で調査した煙道部の規模は長さが約100cm、最大幅が約31cmで、住居北西壁面側からおよそN-50°-Wの方向に延び、先端部に向かって約13度傾斜して下る。煙出部の開口部径は約31×30cmを測り、深さ44cmで煙道部上面にあたるが、煙道部はさらに20cm北西方向へと延びる。

<床面・壁面> 床面には黒褐色シルトと褐色シルトの混合土によって8～26cmの厚さで貼り床が施され、確認できた壁面は南東・北東壁で垂直～やや外傾気味に立ち上がる。壁残存値は南東壁が38cm、北東壁が32cmである。

<遺物> 1が北西壁付近の埋土中～下位付近で出土した。球胴甕の胴部下～底部の破片で、調整は外面はヘラケズリ、内面はハケメが施されている。

時期 調査した箇所が遺構全体の一部のため詳細時期は不明である。

4 検出した遺構



A-A' (掘土断面)

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 径10mmの炭化物片1%を調査む。
- 2 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり
- 4 10YR4/3 におい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり

a-a' (カマド断面)

- 1 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性なし しまりあり 黒褐色焼土粒 (7.5YR2/2 径5~8mm) 3%を含む。
- 2 10YR4/2 におい黄褐色シルト 粘性・しまりあり 黒褐色焼土粒 (7.5YR2/2 径10~20mm) 15~20%を含む。
- 3 10YR4/3 におい黄褐色シルト50%、炭化物30%、黒褐色焼土粒 (7.5YR2/2 径20mm) 20%の混合土層。粘性・しまりあり
- 4 7.5YR3/1 黒褐色シルト50%、黒褐色焼土粒 (7.5YR2/2 径20mm) 10%の混合土層。粘性・しまりなし

第10図 2号住居跡

3号住居跡 (第11・12・32・33岡、写真図版6~8・51・52)

〈調査経過〉 本遺構は確認調査区にあるため、検川をのみ調査予定であったが、遺構確認面が表土直下であることや検出した際に遺物が土中に多く残った状態で出土したこともあり、精査を行うこととなった。精査の途中で住居の使用が新旧2時期あることが判明した。

古段階

〈位置・検出・重複関係〉 ⅧK10c・10g・11e・11gグリッドに跨って位置し、表土下のIV層で検出した。重複している遺構はないが建て替えによる再構築の形跡が確認された。遺構の北側は調査区外へと延びる。

〈形状・規模・主軸方向〉 遺構北側が調査区外のため、全体は不明である。形状は方形状であると考えられるが東西側の壁面に対し、南壁面がやや歪んでいる。規模は遺構北側が調査区外のため調査

した部分のみであるが、東西3.54m、南北3.14mである。カマドに準じた主軸はS-78°-Eの方向である。

<埋土> 新住居の床面から旧住居床面（新住居貼床土）までは約8～14cmで、埋土は上～中位が暗褐色シルト、下位が黒褐色シルトを主体とする堆積である。

<床面・壁面> 床面はほぼ平坦で、4～14cmの厚さで貼り床が施されている。壁高は南壁28cm、西壁34cm、東壁34cmである。

<カマド> 東壁面の南側に構築されている。床面に明確な焼成痕は確認できないが、袖部を含めた約134×110cmの範囲に赤褐色焼土粒を含む炭化物の拡がりを確認した。カマドは袖部以外は崩壊した状態であったが、煙道部の構造は割り貫き式で長さは約130cm、最大幅が約30cmで、住居側から煙出部へ約12度傾斜して下る。煙出部は円形で規模は開口部が約36×32cm、深さは108cmである。

<土坑> 3基検出した。P P 1・2は円形であるが、P P 3は不整形な形状を呈する。土坑内から出土した遺物はない。

<遺物> 2～10が出土した。2～9は土器で2・6はカマド煙道部、4はカマド内、3・5・7は住居床面、8・9は貼床土から主に出土した。すべて破損した状態である。2は土師器坏、3は須恵器坏でロクロ成形による。2の体部外面下端にはケズリ調整が施されている。4～7は土師器甕で器面調整は外面が口縁部はヨコナデ、胴部はヘラナデとヘラケズリ、内面には3・4・6・7がヘラナデ、5がハケメが施されている。また7の底部外面には木葉痕が確認できる。8は口縁部破片であるが器種は不明、9は須恵器甕の胴部破片である。10は磨石で床面から出土した。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半～末葉頃と考えられる。

新段階

<位置・検出> ⅢK10e・10g・11e・11gグリッドに跨って位置し、表上下のIV層で検出した。旧住居を東側に拡張して構築されたものである。また、南壁の一部にも拡張したあとが認められる。

<形状・規模・主軸方向> 遺構の北側が調査区外のため、全体は不明であるが、形状は方形状であると考えられるが東西側の壁面に対し、南壁面がやや歪んでいる。規模は遺構の北側が調査区外へと延びるため調査部分のみであるが、東西4.30m、南北3.14mである。

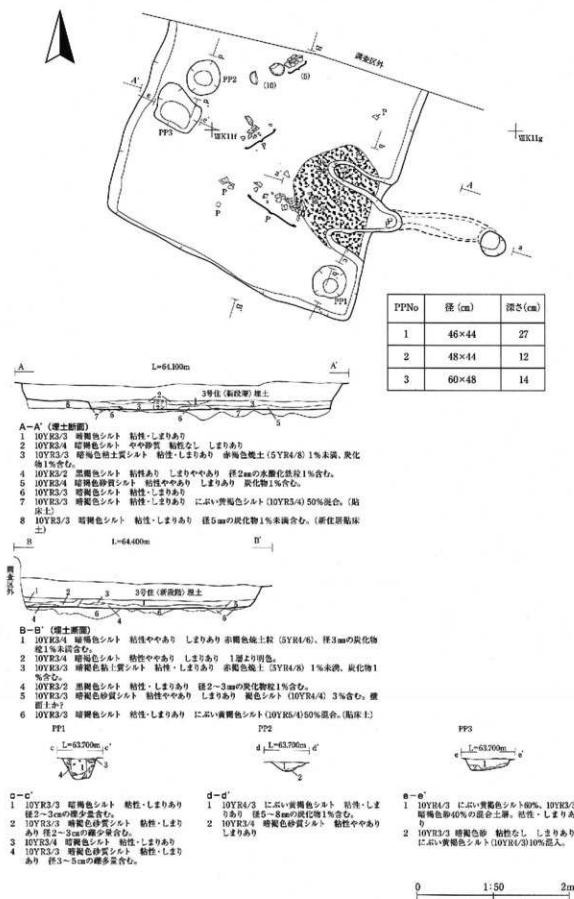
<埋土> 埋土は暗褐色シルトをした堆積で、中位に黒褐色シルトが混入している。

<床面・壁面> 床面はほぼ平坦で、暗褐色シルトを貼り床としている。壁高は南壁18cm、西壁22cm、東壁24cmで、いずれも外傾気味に立ち上がる。

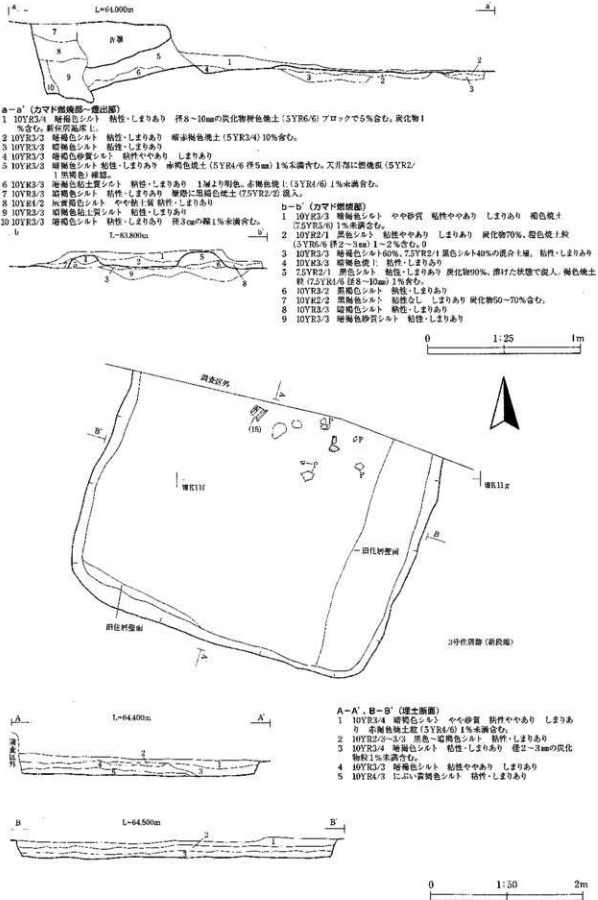
<カマド> 調査した部分でカマドは見つっていないが、遺物の出土状況から北側壁面に構築されていた可能性が高い。

<遺物> 11～17が出土した。12・13・15が床面、他は埋土中からの出土である。また12・15はカマドと考えられる場所に近いところからの出土である。11～14は坏で11が土師器、12～14は須恵器である。いずれもロクロ成形によるもので11・12・14の底部外面には回転系切り痕が認められる。また、14の底部外面には刻線が三叉状に施され、さらに接地面には赤色付着物が認められる。15・16は土師器甕で15はやや歪んだ器形をし、器面調整は口縁部内外がヨコナデ、胴部は外面がヘラナデ・ヘラケズリ、内面はヘラナデ、底部外面にはケズリが施されている。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半～末葉頃と考えられる。



第11図 3号住居跡(古段階)



第12図 3号住居跡(古段階・新段階)

4号住居跡(第13・14・33・34図、写真図版9・10・52・53)

<位置・検出・重複関係> Ⅱ16v・16wグリッドに跨って位置し、Ⅲb層で検出した。本遺構の南西壁面が1号住居跡と重複し、これを切っていた可能性があるが、1号住居のプランが炉を確認するまで気づかなかったこともあり、壁面の切り合いは明確ではない。

<形状・規模・主軸方向> 遺構南側が調査区外のため、遺構全体の詳細は不明であるが、形状は方形形状であると考えられる。規模は東西3.66m、南北3.20m(残存計測値)である。カマドに準じた主軸方向はS-76°-Eである。

<埋土> 埋土は自然堆積で上位が暗褐色シルト、中～下位が灰黄褐色シルトを主体とし、壁際に明褐色焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色シルト層が堆積している。

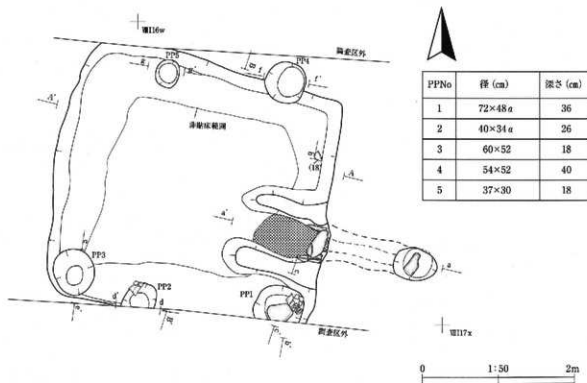
<床面・壁面> 床面には緩い凹凸はあるがほぼ平坦で、中央部の貼り床が暖味なのに対し、壁際は溝状の掘り込みになっており、深さ4～14cmで貼り床が施されている。壁はいずれも内湾気味に立ち上がり、壁高は北壁26cm、西壁30cm、東壁26cmである。

<カマド> 遺構全体を確認していないが、東側壁面の中央～やや南寄りに構築されている。カマドの袖部・天井部には大きき約18～28cmの細長い礫を用いて芯材とし、これに灰黄褐色・暗褐色のシルトを覆い貼り付けて構築されている。カマドの袖部内側の約98×54cmの範囲に赤褐色焼土の疵が確認され、焼土の厚さは最大で5cmを測る。煙道部の構造はくり貫き式で、規模は長さが約80cm、最大幅が約20cm、高さが約10～14cm、焚き口側から煙出部に向かって、約4度傾斜して下る。煙出部はピット状を呈し、開口部の形状は楕円形で、規模は約56×42cm、深さは54cmである。底面に向かい北側にやや傾斜している。

<土坑類> 5基検出した。PP1・2の底面からは土器片が出土している。

<遺物> 18～23が出土し、18は床面、19・20はカマド周辺、19・21～23はPP1の埋土からそれぞれ出土した。18はロクロ成形による土師器坏、19～23は土師器甕でいずれもロクロは使用されていない。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半～末葉頃と考えられる。



第13図 4号住居跡(1)



第14図 4号住居跡(2)

5号住居跡(第15～17・34図、写真図版11・12・53)

<位置・検出・重複関係> WJ18q・18rグリッドに跨って位置し、ⅢB層で検出した。重複する遺構はない。本遺構の検出にあたっては、煙出部検出後に半敷し、煙道部の方向を確認することで、住居のおおよその位置は把握できたが、煙出部と同レベルで住居本体のプランは確認できなかった。

<形状・規模> 遺構の北壁東部が調査区外であるが、形状は兩丸方形を呈し、規模は東西3.92m、南北3.80mである。

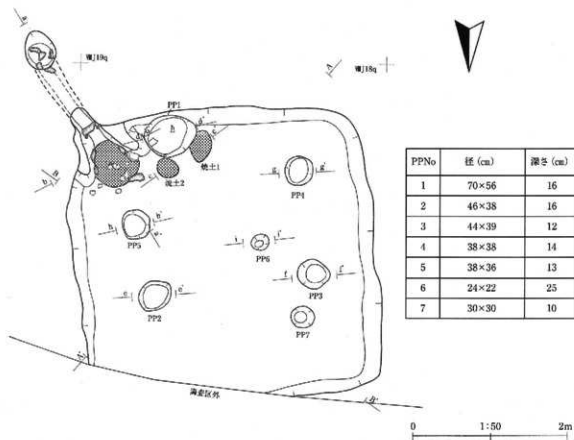
<埋土> 埋土は自然堆積で上位が暗褐色シルト、中位が黄橙色火山灰(十和田a降下火山灰と考えられる)を含む暗褐色シルト、下位に明黄褐色粘土を多く含む暗褐色シルトが堆積している。

<床面・壁面> 床面はほぼ平坦で、床面全体に厚さ4～18cmで貼り床が施されている。壁はいずれも内湾・外傾気味に立ち上がり、壁高は北壁31cm、南壁37cm、東壁29cm、西壁45cmである。

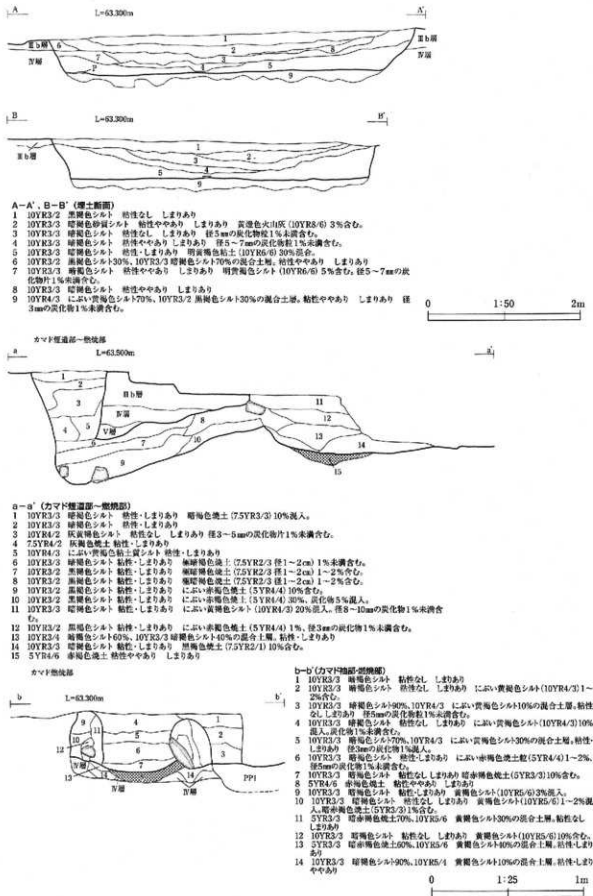
<カマド> カマドは南東部壁面隅に構築されている。カマドの軸方向はS-31°-Eである。カマドには大きさ約20～30cmの礫を芯材として用い、黄褐色シルト混じりの暗褐色シルトを貼り付けて構築されている。カマド袖部内側の約60×60cmの範囲が赤褐色に焼け、焼上の厚さは最大で7cmある。煙道部の構造は割り貫き式で、規模は長さが約110cm、最大幅が約29cm、高さが約26～28cm、焚き口側から煙出部に向かって約19度傾斜して下る。煙出部の開口部は楕円形で規模は約52×40cm、深さは75cm、煙出部の底面には大きさ20～30cmの礫が混入し、煙道部も含め、底面にはにぶい赤褐色焼土、炭化物が多く混入している。

<土坑類> 7基検出した。PP1は貯蔵穴、PP2～7は柱状土坑と考えられる。

遺物 24～29が出土した。26は埋土中からの出土であるが、他はカマドおよびその周辺の床面から出土した。24～26はロクロ成形の坏で24は土師器、25・26は須恵器で24の内面は黒色処理が施され

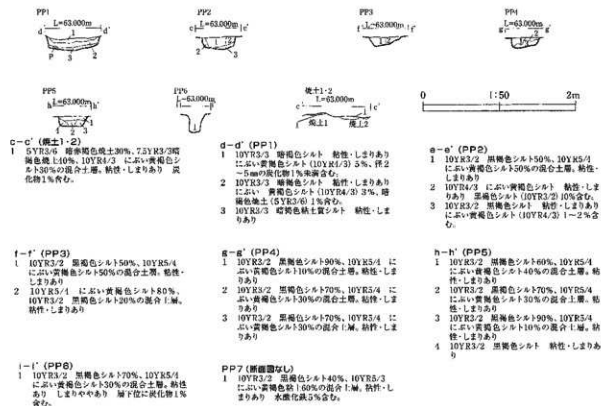


第15図 5号住居跡(1)



第16図 5号住居跡(2)

4 検出した遺構



第17図 5号住居跡(3)

ている。27~29は土師器甕で28はロクロ成形で底部外面に回転糸切り痕が認められる。27・29は非ロクロ成形によるもので27は筒型で細長い器形である。

時期 出土した遺物の特徴から9世紀後半~末葉頃と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (第18図、写真図版13)

<位置・検出・重複関係> W19d・19e・20d・20eグリッドに跨って位置する。表土下のⅢb層で検出し、周辺からは縄文土器が出土した。確認調査区に跨って位置するが、全て完掘した。

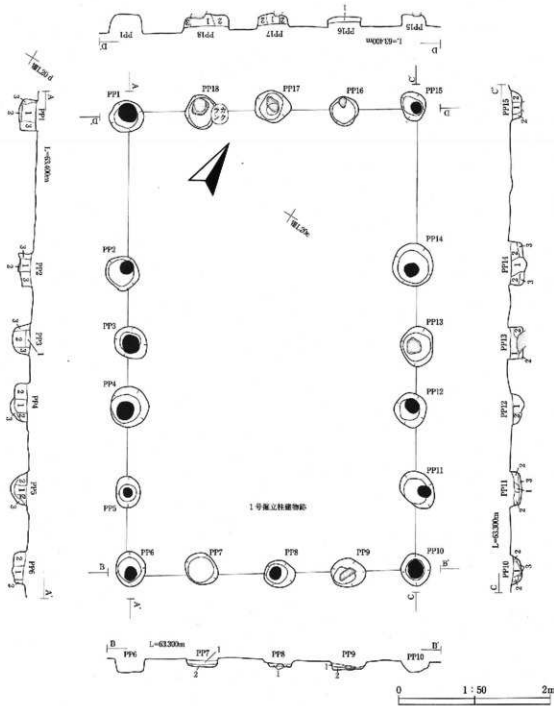
<平面形・規模> 4×5間で、建物の方向はN-32°-Wである。規模は桁行き6.10m、梁間3.80m前後である。

<柱穴> 18個検出した(PP1~18)。各柱穴の規模は下記の表のとおりである。

<遺物> なし。

時期 出土遺物がないので不明であるが、周辺から出土した遺物から近世の遺構と考えられる。

PPNo	径 (cm)	深さ (cm)	柱径径 (cm)	PPNo	径 (cm)	深さ (cm)	柱径径 (cm)
1	45 × 43	16	24	10	42 × 38	14	25
2	46 × 42	19	18	11	54 × 40	15	18
3	47 × 40	24	23	12	41 × 42	18	18
4	51 × 52	26	23	13	51 × 42	20	18
5	42 × 32	25	12	14	38 × 34	24	18
6	56 × 40	18	18	15	36 × 34	16	16
7	46 × 40	12	12	16	38 × 36	11	18
8	40 × 36	9	13	17	48 × 40	18	15
9	44 × 38	11	18	18	46 × 40	22	16



- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>PP1
 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄15%含む。
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 水酸化鉄50%含む。
 3 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄15%含む。</p> <p>PP2
 1 10YR1/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 層下に水酸化鉄30%含む。
 2 10YR4/1 褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 水酸化鉄25%含む。
 3 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 層下にやや砂質土を含む。</p> <p>PP3
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄25%含む。
 3 10YR1/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄15%含む。</p> <p>PP4
 1 10YR1/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 層上-中に水酸化鉄30%含む。
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄30%含む。
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりややあり 水酸化鉄20%含む。</p> | <p>PP5
 1 10YR4/1 褐色粘土質シルト 粘性あり しまりなし 層下に水酸化鉄10%含む。
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 水酸化鉄7%含む。
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりややあり 水酸化鉄15%含む。</p> <p>PP6
 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 層中-下に水酸化鉄25%含む。
 2 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性ややあり しまりあり</p> <p>PP7
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
 2 10YR3/3-3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)が30%混入。</p> <p>PP8
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりややあり</p> <p>PP9
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり
 2 10YR3/3-3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)が30%混入。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第18図 1号孤立柱建物跡

4 検出した遺構

P10				下に水酸化鉄3%含む。
1	10YR3/4 暗褐色シルト	粘性ややあり	しまりあり	灰黄褐色粘土質シルト
	(10YR4/2)を20%含む。			2
2	10YR4/4 褐色砂質シルト	粘性ややあり	しまりあり	灰黄褐色粘土質シルト
	(10YR3/4)を40%含む。			3
3	10YR4/4 暗褐色シルト	粘性しりやあり		
P11				
1	10YR3/4 暗褐色シルト	粘性ややあり	しまりあり	
2	10YR3/4 暗褐色シルト	粘性なし	しまりあり	
3	10YR3/3-4 暗褐色砂質シルト	粘性しりやあり		
P12				
1	10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト	粘性しりやあり	水酸化鉄30%含む。	
2	10YR4/4 暗褐色シルト	粘性しりやあり	礫層上部にはふい黄褐色砂質シルト	
	(10YR1/3)を50%含む。			
P13				
1	10YR4/1-4/2	礫層-灰黄褐色シルト	粘性なし	しまりあり
2	10YR4/3	ふい黄褐色砂質シルト	粘性あり	しまりややあり
P14				
1	10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト	粘性あり	しまりなし	礫上に褐色土プロット
	(10YR4/4 径20～50mm)3%、中-小でにはふい赤褐色(10YR4/3)を30%、面			
2	10YR4/2	灰黄褐色粘土質シルト	粘性しりやあり	褐色粘土質シルト(10YR4/4)9%含む。
3	10YR3/4	暗褐色シルト	粘性しりやあり	
P15				
1	10YR4/1	暗褐色シルト	粘性ややあり	しまりなし
2	10YR4/4	暗褐色シルト	粘性ややあり	しまりあり
	黄褐色砂質シルト10%含む。			
P16				
1	10YR3/4	暗褐色シルト	粘性なし	しまりあり
P17				
1	10YR4/2-4/1	灰黄褐色-暗褐色シルト	粘性あり	しまりなし
	水酸化鉄3%			
2	10YR4/2-4/1	灰黄褐色-暗褐色シルト	粘性ややあり	しまりあり
	水酸化鉄1%含む。			
P18				
1	10YR3/4	暗褐色シルト	粘性なし	しまりあり
2	10YR3/3-3/4	暗褐色シルト	粘性ややあり	しまりあり
3	10YR3/3-3/4	暗褐色シルト	粘性ややあり	しまりあり

(3) 土 坑

1号土坑(第19図、写真図版14)

〈位置・検出・重複関係〉 WIK24hグリッドに位置し、IV層で検出した。重複する遺構はない。

〈平面形・規模〉 形状は円形で、規模は約0.84×0.82mである。

〈埋土〉 埋土の中央部上～中位部分には明赤褐～褐色焼土があり、下位はふい黄褐色シルト混じりの暗褐色シルトが堆積している。底面までの深さは16cmである。

遺物 なし。

時期 検出状況等から弥生時代前期の遺構である可能性が考えられる。

2号土坑(第19・35図、写真図版14・56)

〈位置・検出・重複関係〉 WIL25kグリッドに位置し、表土下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。遺構の南側は調査区外へと延びる。

〈平面形・規模〉 規模は東西が約2.14m、南北は調査した部分で1.32mである。

〈埋土〉 埋土の大部分は裸混じりの暗褐色・黒褐色を主体とする層で、底面にグライ化した箇所が一部確認された。

遺物 埋土から陶磁器が3点出土した(30～32)。他に縄文土器、上師器の破片も少量出土した。

時期 近世に属する遺構である。

3号土坑(第19・35図、写真図版14・56)

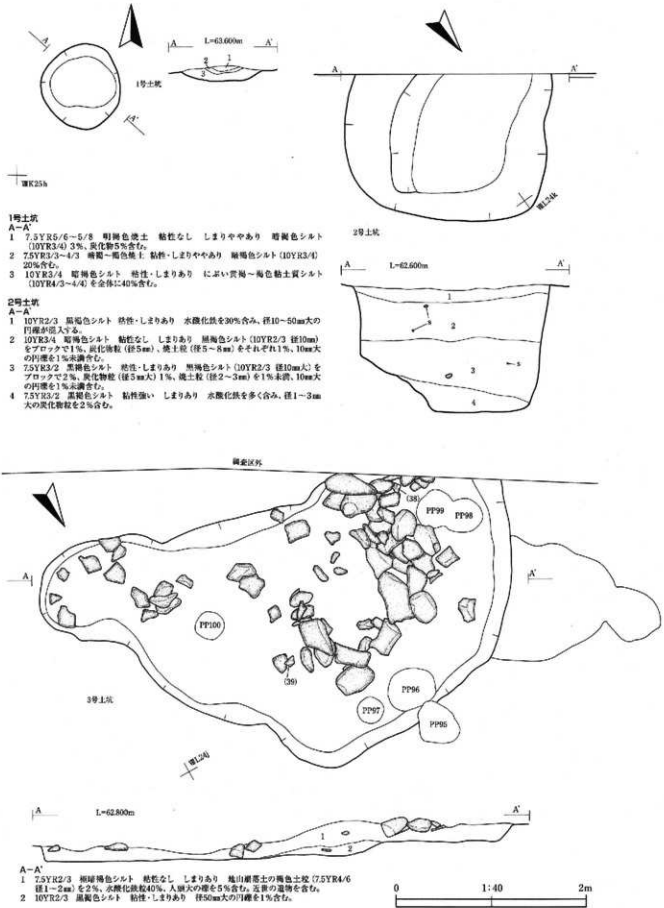
〈位置・検出・重複関係〉 WIL23j・24j・24kグリッドに跨って位置する。表土下のⅢa層で検出した。柱穴状土坑P P95～100と重複し、これらを切る。遺構の南西側は調査区外へと延びる。検出時に大きさ10～20cmの扁平な形をした礫が多く混入しているのを確認した。

〈平面形・規模〉 平面形は瓢箪状の不整形な形状を呈し、調査区内での計測値は北西-南東が4.92m、北東-南西が3.14mを測る。

〈埋土・底面〉 埋土の大部分が極暗褐色を主体とする層で、中央部の底面付近に一部黒褐色シルトが堆積している。また、層中には水酸化鉄粒と礫が多く含まれ、礫は最大で50cmを超えるものもある。底面は全体に凹凸があり、北西側が高く、礫が密集して出土する北西端-中央部分までは傾斜して下り、中央-南東端まではほぼ平坦である。

遺物 中央から西側に磨痕を確認できる扁平な礫が集中して出土し、砥石38～41もこれに含まれる。また埋土中から陶磁器の破片(33～37)も出土している。

時期 近世に属する遺構である。



1号土坑

A-A'

- 1 7.5YR5/6-5/8 暗褐色壤土 粘性なし しまりややあり 暗褐色シルト (10YR3/4) 3%、炭化物5%含む。
- 2 7.5YR3/4-4/3 暗褐色土 粘性なし しまりややあり 暗褐色シルト (10YR3/4) 20%含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり じょう質層～褐色粘土質シルト (10YR4/3-4/4) を全体に40%含む。

2号土坑

A-A'

- 1 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 水酸化鉄を30%含む、径10-50mm大の円礫が混入する。
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 黒褐色シルト (10YR2/3 径10mm) をブロックで1%、炭化物粒 (径5mm)、焼土粒 (径5-8mm) をそれぞれ1%、10mm大の円礫を1%未調査含む。
- 3 7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり 暗褐色シルト (10YR2/3 径10mm大) をブロックで2%、炭化物粒 (径3mm大) 1%、焼土粒 (径2-3mm) を1%未調査、10mm大の円礫を1%未調査含む。
- 4 7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性強い しまりあり 水酸化鉄を多く含む、径1-3mm大の炭化物粒を2%含む。

A-A'

- 1 7.5YR2/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 焼土質土の褐色土 (7.5YR4/6 径1-2mm) を2%、水酸化鉄を40%、人糞大の礫を5%含む。互層の遺物を含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり 径50mm大の円礫を1%含む。

第19図 1～3号土坑

(4) 溝 跡

調査区全体で9条検出した。時期は古代1条、近世以降7条、不明1条である。遺構から出土した遺物はない。

1号溝跡（第20図、写真図版16）

<位置・検出・重複関係> W12m・3m・2n・3nグリッドを跨いで位置し、表上下のⅢa層で検出した。2号溝と重複し、これに切られる。遺構の南北端が調査区外へと延びる。確認・本調査区に跨っており、確認調査部分は検出のみの調査である。

<規模・形態・方向> 遺構の一部のため全体の規模は不明であるが、調査した部分での規模は長さ9.72m、上幅80～96cm、下幅42～64cm、方向は北西-南東方向で、底面の高低差はほとんどない。

<埋土> 埋土全体が暗褐色シルトを主体とした堆積である。層中には褐色シルトが粒状・ブロックで混入するが、下位に多い。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

2号溝跡（第20図、写真図版16）

<位置・検出・重複関係> W12n・2oグリッドを跨いで位置し、表上下のⅢa層で検出した。1号溝と重複し、これを切る。遺構の北東端が調査区外へと延びる。確認・本調査区に跨っており、遺構の北西側約1.8mが本調査区である。

<規模・形態・方向> 遺構の一部のため詳細は不明であるが、調査した部分での規模は長さ9.20m、上幅28～50cm、下幅18～38cm、方向は南西-北東方向で、両端部底面の比高差は約8cmで、北東端が低い。

<埋土> 上位～中位は暗褐色シルト、下位は黒色シルトを主体とする層の堆積である。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

3号溝跡（第21図、写真図版17）

<位置・検出・重複関係> W14c・5c・5dグリッドを跨いで位置し、表上下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。確認・本調査区に跨っており、遺構の南東端約30cmが本調査区である。

<規模・形態・方向> 規模は長さ6.84m、上幅22～42cm、下幅18cm、方向は北西-南東でほぼ直線に延びる。両端部底面の比高差は約32cmで、南東端が低い。

<埋土> 層全体が褐色シルト混じりの黒褐色シルトである。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

4号溝跡（第21図、写真図版17）

<位置・検出・重複関係> WJ7n～p・8p・8q・9q・9r・10r・10sグリッドを跨いで位置し、表土下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。確認・本調査区に跨っており、遺構の南東端約5mが本調査区である。

<規模・形態・方向> 遺構の両端が調査区へ延びるため、全体の規模は不明であるが、調査した部分の計測で長さ27.75m、上幅28～84cm、下幅28～44cm、方向は北西-南東でほぼ直線に延びる。両端部底面の比高差は約10cmで、南東端が低い。

< 埧土 > 層全体が黒褐色シルト混じりの灰褐色シルトである。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

5号溝跡 (第21図、写真図版18)

< 位置・検出・重複関係 > ⅦJ7n～p・8p・8q・9q・9r・10r・10sグリッドを跨いで位置し、表七下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。確認・本調査区に跨っており、遺構の南東側約半分が本調査区である。

< 規模・形態・方向 > 遺構の両端が攪乱および調査区外へ延びるため全体の規模は不明であるが、調査した部分で長さ17.80m、上幅16～36cm、下幅10～22cm、方向は北西-南東でほぼ直線に延びる。底面の比高差は約10cmで、南東側に向かって下がっている。

< 埋土 > 層全体が暗褐色シルト混じりの黒褐色シルトである。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

6号溝跡 (第22図、写真図版18)

< 位置・検出・重複関係 > ⅦL20g・21g・21h・22h・22iグリッドを跨いで位置し、表上下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。確認調査区のため、検出のみの調査である。

< 規模・形態・方向 > 規模は長さ5.80m、上幅28～40cm、下幅26～30cm、方向は北西-南東でほぼ直線に延びる。調査した部分での底面の比高差は約4cmで、南東側に向かって下がっている。

< 埋土 > 上～中位は褐色土がブロックで混入する黒褐色シルト層、下位は暗褐・黒褐色シルト混合層である。

時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。

7号溝跡 (第22図、写真図版19)

< 位置・検出・重複関係 > ⅦJ19sグリッドに位置し、Ⅲb層で検出した。重複する遺構はない。遺構の南端は調査区外へ延び、また北端は攪乱のため、切られている。

< 規模・形態・方向 > 調査した部分の規模は長さ3.98m、上端幅28～32cm、下端幅8～16cm、南端部から北北東におよそN-12°-Eの方向でほぼ直線上に延びる。両端の底面比高差は約6cmで、北北東端が低い。

< 埋土 > 上～中位は黒褐色シルトにふい黄褐色シルトが混入する層。下位は黒褐色シルトと黄褐色シルトの混合土層である。

時期 検出状況などから古代に属する可能性がある。

8号溝跡 (第22図、写真図版19)

< 位置・検出・重複関係 > ⅦI16xグリッドに位置し、Ⅲa層で検出した。重複する遺構はない。遺構の両端が調査区外へ延びている。

< 規模・形態・方向 > 調査した部分の規模は長さ3.58m、上端幅14～36cm、下端幅10～20cm、南端部から北北東にN-18°-Eの方向で小さく蛇行しながら延びる。両端部の底面比高差は約14cmで南端が低い。

< 埋土 > 上～中位は暗褐色シルト、下位はふい黄褐色粘土質シルトと暗褐色砂質シルトの混合土層である。

時期 検出状況などから古代以降と考えられるが詳細は不明である。

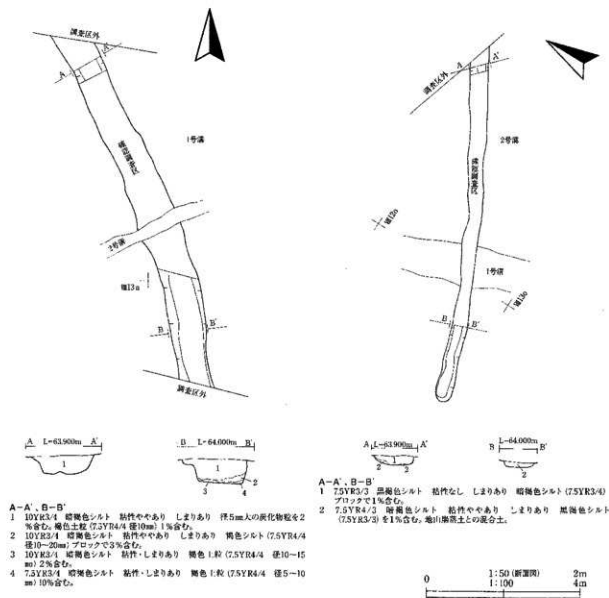
9号溝跡 (第22図、写真図版19)

<位置・検出・重複関係> Ⅷ115s・16sグリッドに位置し、表土下のⅢa層で検出した。重複する遺構はなく、両端部は調査区外へ延びている。

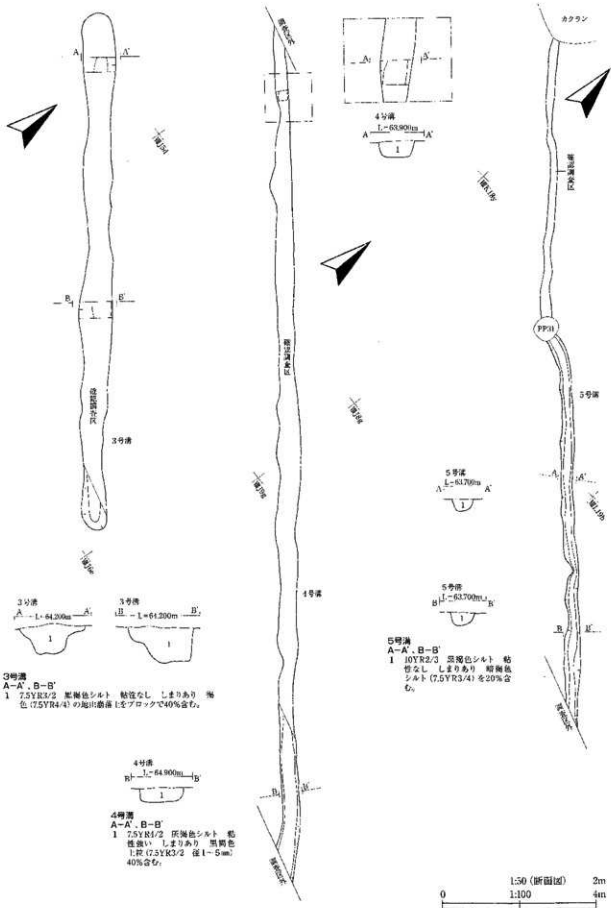
<規模・形態・方向> 調査した部分の規模は長さ3.50m、上幅76～92cm、下幅60～68cmでほぼ南北方向に延びる。両端の底面比高差は約3cmで、北端が低い。

<埋土> 上～中位にはふい黄褐色土粒が微量混入する暗褐色シルト層で、下位は暗褐色砂質シルト・粘上質シルトの混合土層である。

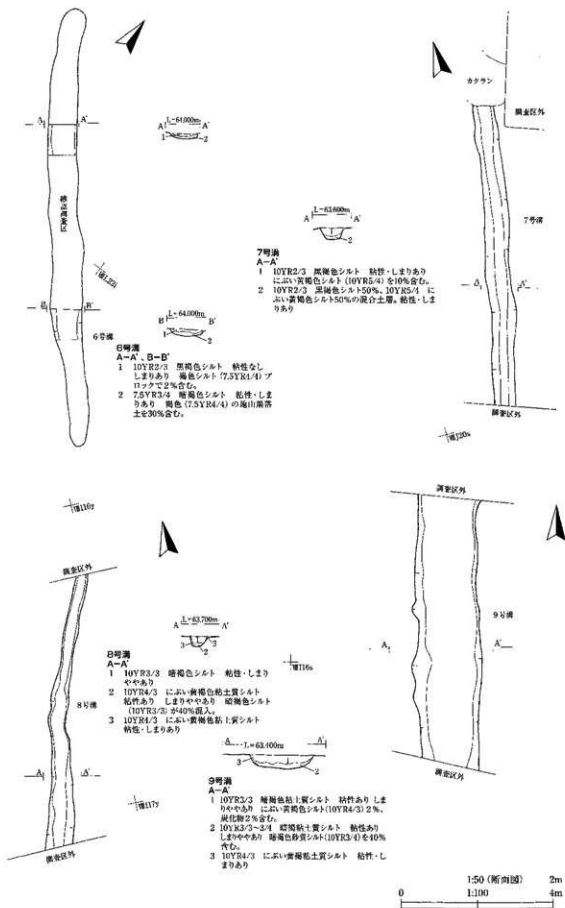
時期 検出状況などから近世以降に属すると考えられる。



第20図 1・2号溝跡



第21図 3~5号溝跡



第22図 6～9号溝跡

(5) 井戸跡

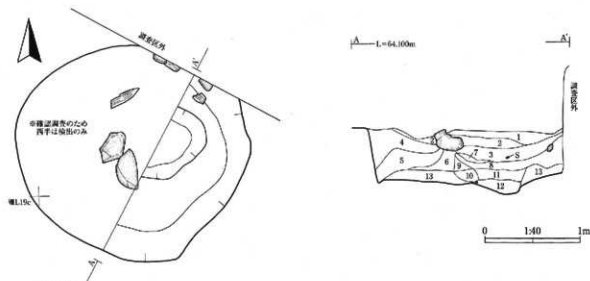
1号井戸跡 (第23図、写真図版15)

<位置・検出・重複関係> ⅧL18d・19dグリッドを中心に位置し、表土下のⅢa層で検出した。重複する遺構はない。遺構の北側一部が調査区外へと延びる。確認調査区に位置するため、調査手段は半截のみである。

<平面形・規模> 形状は円形で、規模は径2.32×2.08mである。中央からやや北側の部分は径約0.8mほどのピット状の掘り込みになっており、その上部からは大きさ約40cmほどの礫や木片が出土している。

<埋土> 埋土の上位が暗褐色シルトで、それ以下は黒褐色シルトを主体とする堆積層である。遺構南側は水酸化鉄を多量に含む。底面までの深さは約54cmであるが、ピット状を呈する部分は68cmとやや深くなっている。

時期 時期を特定できる遺物が見つかっていないため詳細は不明であるが、検出状況等から近世以降と考えられる。



1号井戸跡

A→A'

- 1 75YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 5-10mm大の礫1%、水酸化鉄粒30%含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり 5mm大の炭化物粒1%、水酸化鉄粒1%含む。
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまりややあり 1mm大の炭土粒を1%未満、5mm大の礫を1%未満含む。近世以降の遺物を含む。
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりややあり 2層より砂質、1mm大の炭化物粒を1%含む。水酸化鉄粒は2層より多く含む(2%)。
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強い しまりややあり 2-5mm大の炭化物粒を2%含む。4層より水酸化鉄粒を多く含む(4%)。
- 6 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強い しまりあり 黒褐色砂質シルトが40%混入。水酸化鉄粒を1%含む。
- 7 7.5YR3/2 暗褐色シルト 粘性强い しまりあり
- 8 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりややあり 1mm大の炭化物粒1%、水酸化鉄粒30%含む。
- 9 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強い しまりややあり 砂50%混入。
- 10 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまりややあり 20mm大の小礫を1%含む。
- 11 10YR3/2 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり 10mm大の小礫を1%含む。砂50%混入。
- 12 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりややあり 20-30mm大の小礫50%混入。
- 13 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりあり 黒褐色シルトが1%混入。

第23図 1号井戸跡

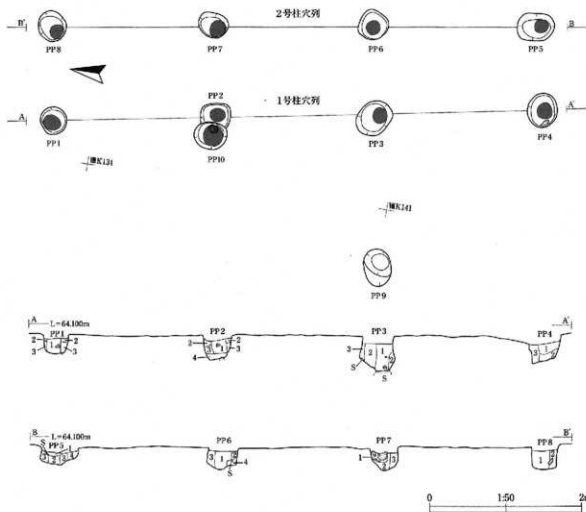
(6) 柱穴状土坑 (第24～28・36図、写真図版13・56)

調査区北東部を中心に137個検出した。このうち91個は確認調査区のため検出のみで未掘削である。またPP1～4(1号柱穴列)、PP5～8(2号柱穴列)は規則的な配列をなし、柱間距離はPP1～4が各2.16m、PP5～8が各2.14mを測る。各柱穴の規模・埋土等は第2表のとおりである。

第2表 柱穴状土坑一覧

No	径 (cm)	深 (cm)	検出面 標高 (m)	柱径 (cm)	備考	No	径 (cm)	深 (cm)	検出面 標高 (m)	柱径 (cm)	備考
1	36 × 34	26	64.05	20	1号柱穴列	36	29 × 28		63.35	14	
2	40 × 32 a	33	63.91	18	1号柱穴列	37	37 × 35		63.38	23	
3	51 × 40	46	63.91	19	1号柱穴列	38	50 × 45		63.38	26	
4	46 × 40	38	63.92	20	1号柱穴列	39	39 × 36		63.36	20	
5	49 × 36	23	63.93	18	2号柱穴列	40	48 × 42		63.40		
6	38 × 36	29	63.92	20	2号柱穴列	41	42 × 37	26	63.52	16	
7	40 × 33	30	63.92	20	2号柱穴列	42	29 × 23	21	63.51	13	
8	41 × 37	31	63.95	18	2号柱穴列	43	62 × 62		63.47		
9	49 × 37	28	63.87			44	76 × 66		63.49	36	
10	44 × 34 a	14	63.88	26		45	40 × 33		63.42		
11	30 × 26		63.95	18		46	72 × 64		63.36	19	
12	32 × 26		63.96	16		47	51 × 43		63.31	18	
13	26 × 22		63.94	13		48	40 × 33	34	63.29	14	
14	38 × 34		63.98	24	42が出土	49	45 × 37	14	63.20	22	
15	26 × 26		63.95	14		50	36 × 33		63.22	16	
16	42 × 30 a	25	63.90		PP17と重複	51	37 × 31		63.23	12	
17	49 × 39	20	63.91		PP16と重複	52	38 × 34		63.19	13	
18	43 × 37		63.94			53	48 × 46		63.16	22	
19	30 × 27		63.95			54	37 × 35	14	63.16	12	
20	39 × 31		63.70	26		55	38 × 36		63.18	21	
21	42 × 36		63.71	29		56	28 × 26		63.14	18	
22	33 × 29		63.76	10		57	40 × 40	15	63.19	17	
23	24 × 23	14	63.50	14		58	38 × 34		63.11	14	
24	46 × 35		63.40	24		59	48 × 38		62.87	16	
25	43 × 34		63.43	20	43が出土	60	46 × 42		62.82		
26	46 × 30		63.46	23		61	48 × 39		62.73	23	
27	30 × 30	28	63.58	14		62	22 × 22		62.73	16	
28	38 × 36	38	63.57	14		63	44 × 34		63.72		
29	26 × 25		63.50	13		64	39 × 33		62.76		
30	63 × 60		63.51	27	44が出土	65	31 × 30		62.73		
31	65 × 58	52	63.49	18		66	42 × 39		62.75	18	
32	34 × 29		63.44	17		67	40 × 35		62.74	16	
33	51 × 44		63.37	22		68	36 × 34		62.76		
34	41 × 34		63.39	20		69	32 × 32		62.76	14	
35	33 × 32		63.37	14		70	30 × 27	19	62.82	14	

No	径 (cm)	深 _± (cm)	検出面 標高 (m)	柱径 (cm)	備考	No	径 (cm)	深 _± (cm)	検出面 標高 (m)	柱径 (cm)	備考
71	46 × 46	50	62.89	18		105	45 × 44		62.67	16	
72	44 × 38	24	62.84	16	PP73と重複	106	36 × 30		62.42		
73	44 × 41	49	62.82	19	PP72と重複	107	58 × 54		62.40		
74	48 × 39	20	62.81	17		108	36 × 34		62.21	21	
75	43 × 30		62.75			109	39 × 31		62.18	12	
76	38 × 34		62.76			110	29 × 28		62.18	16	
77	40 × 28 a		62.74		PP78と重複	111	38 × 29		62.24	12	
78	34 × 34		62.74	17	PP77と重複	112	40 × 37		62.33	15	
79	56 × 50		62.74			113	34 × 32		62.34	20	
80	31 × 27		62.55		45が出土	114	44 × 34		62.36		
81	42 × 30		62.61			115	32 × 26		62.36	14	
82	31 × 30		62.64	20		116	40 × 28		62.38	18	
83	26 × 24		62.59	12		117	56 × 53		62.42		46が出土
84	33 × 33		62.59	12		118	38 × 36	19	62.41	14	
85	39 × 31		62.63	20		119	48 × 42		62.24		
86	24 × 22		62.64	16		120	40 × 38		62.20		
87	30 × 28		62.70	16		121	44 × 34		62.20	21	
88	46 × 32	30	62.68	14		122	30 × 25		62.19	16	
89	36 × 32		62.69			123	36 × 36		62.30	22	
90	40 × 36	33	62.70		PP91と重複	124	39 × 34		62.34	16	
91	49 × 39 a	18	62.69		PP90と重複	125	34 × 34		62.37	15	
92	44 × 43	18	62.69	19		126	51 × 40		62.20		
93	64 × 52	13	62.65			127	56 × 40		62.19	27	
94	40 × 33	16	62.59			128	43 × 40		62.21		
95	50 × 42	15	62.68			129	46 × 42		62.36	20	
96	52 × 42	26	62.48			130	58 × 49		62.24	23	
97	28 × 28	15	62.46			131	46 × 36		62.51	28	
98	40 a × 36	26	62.60		PP99と重複	132	38 × 37	38	63.36	17	
99	42 × 30 a	18	62.55		PP98と重複	133	34 × 28	21	63.36	11	
100	30 × 29	16	62.29			134	34 × 28	24	63.35	12	
101	32 × 28		62.65			135	36 × 32	14	63.35	16	
102	36 × 35		62.66	18		136	32 × 28	18	63.34	18	
103	38 × 34		62.66			137	28 × 20	16	63.21	12	
104	29 × 29		62.50	16							



1号柱穴列 (A-A')

PP1

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりなし にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 20%混入。
- 2 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりなし にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 40%混入。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり

PP2

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりなし
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 5%混入。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 10%混入。
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり

PP3

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 径1~4cmの燻炭入。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 層全体にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 10%含む。
- 3 10YR4/3-3/3 にぶい黄褐-暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり

PP4

- 1 10YR3/3-4/4 暗褐色シルト 粘性なし しまりややあり 炭化物1%含む (10YR4/3) を5% 炭化物を1%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) を5% 炭化物を1%含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり

2号柱穴列 (B-B')

PP5

- 1 10YR4/2-4/3 灰黄褐-にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまりややあり 暗褐色シルト (10YR3/3) 50%混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりややあり
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性あり しまりややあり 暗褐色シルト (10YR3/3) 10%混入。

PP6

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 5%混入。
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 40%混入。
- 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性ややあり 1層が30%混入。径2~4cmの燻30%混入。

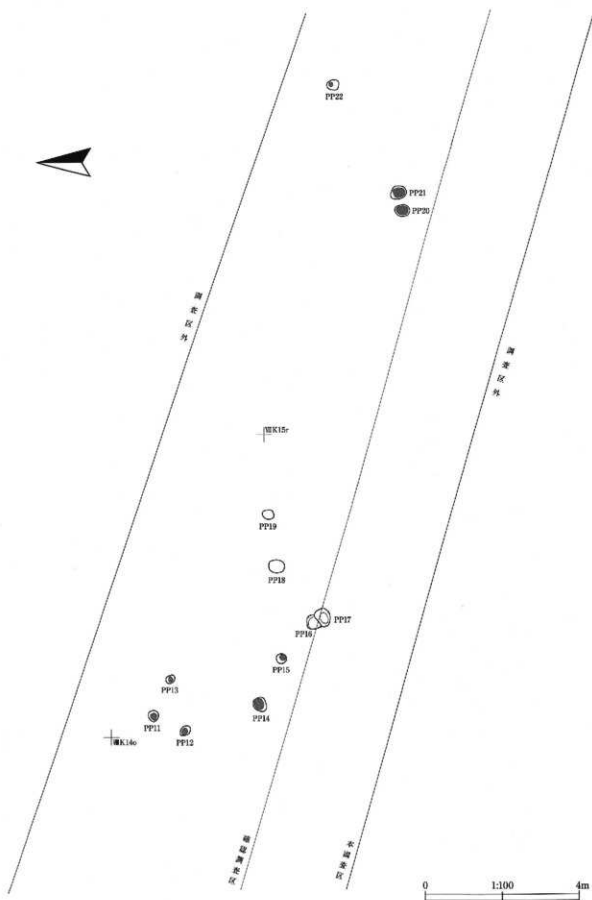
PP7

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 10%含む。
- 3 10YR3/3-4 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 40%含む。

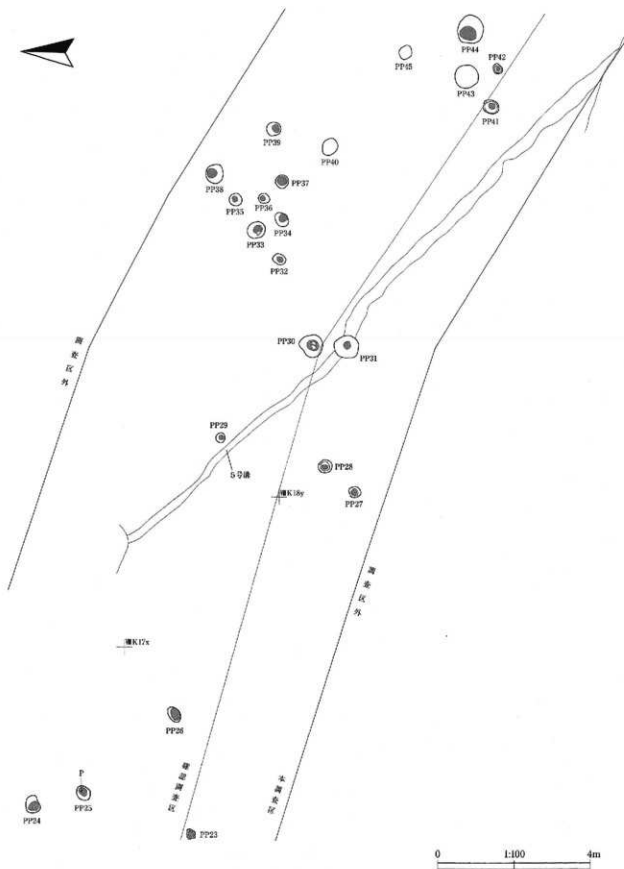
PP8

- 1 10YR3/3-4 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり
- 2 10YR4/3-3/3 にぶい黄褐-暗褐色シルト 粘性なし しまりあり

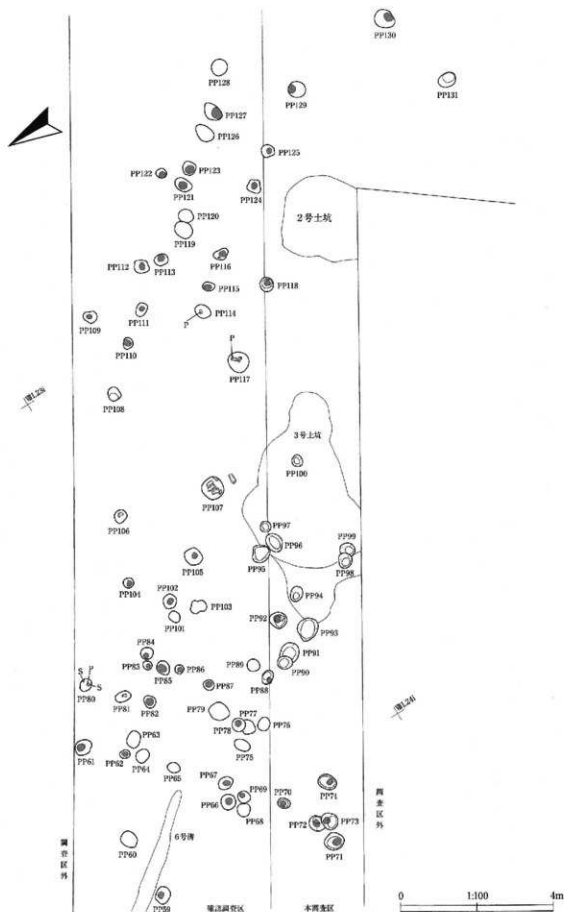
第24図 柱穴状土坑 (PP1~10)



第25図 柱穴状土坑 (PP11~22)

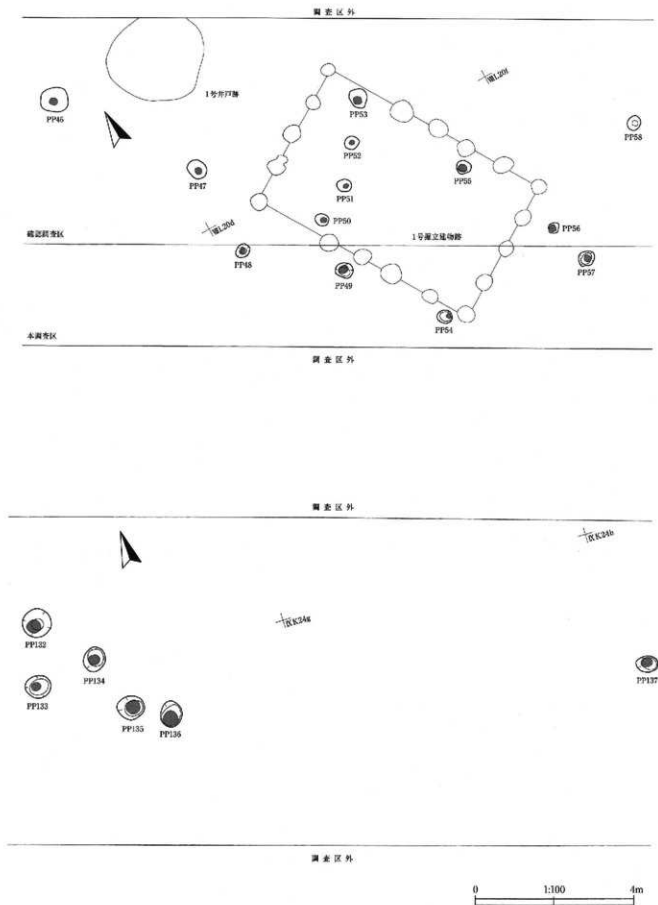


第26図 柱状土坑(PP23~45)



第27図 柱穴状土坑(PP59~131)

4 検出した遺構



第28図 柱穴状土坑(PP46~58・132~137)

(7) 性格不明遺構 (第29・30・36図、写真図版15・55・56)

<調査経過> 重機による表土除去時に暗褐色のプランが楕円状に確認され、検出面からは近世陶磁器が見つかったことから、近世遺構と推定し、精査を行った。遺構が調査区外へと広がることから、全体のプランは不明である。また、調査区内の遺構内部からは大きさ10～30cmほどの礫が多量出土したが、壁面の立ち上がりが暖味であったため、礫が出土する範囲をおおよそのプランと考えた。

<位置・検出・重複関係> KX10・20グリッドを中心に位置し、Ⅲa層で検出した。重複する遺構はない。遺構東側の一部が調査区外へと延びる。

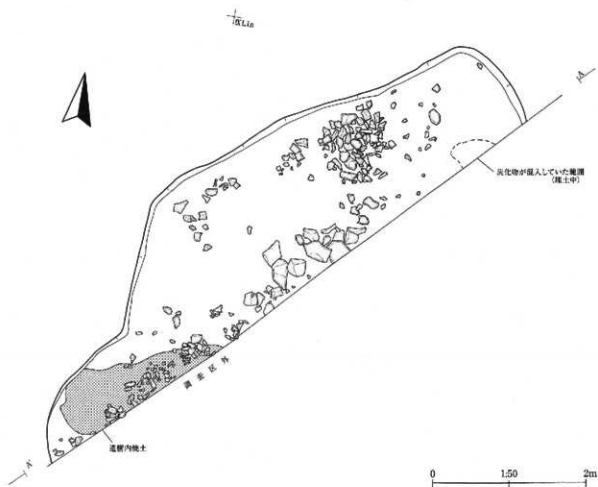
<平面形・規模> 不整な形状で、規模は調査した部分で約7.76×2.14mある。

<埋土> 1～4層は盛土および旧耕作土等で、5～9層が遺構埋土である。主体は暗褐色シルトである。北東側の5・6層中には炭化物が多く含まれるが、本遺構との関連は不明である。

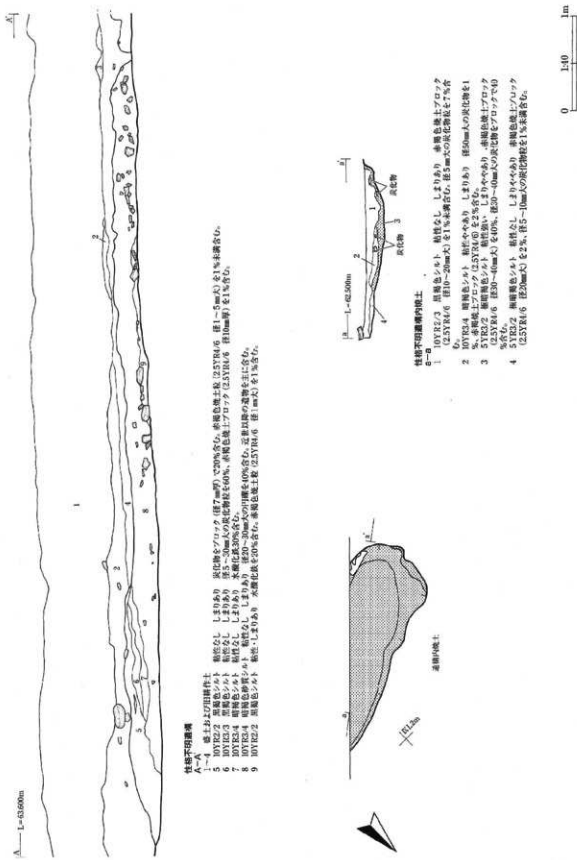
<焼土> 遺構の南西部において約2.20×0.82mの範囲で確認した。土坑状に掘り込まれ、最深部は20cmある。底面と南西側の壁面が強い焼成を受けた痕跡があり、焼土とともに径5～8cmの炭化物片も出土した。検出面には礫が多く、本遺構との関係は不明である。

遺物 陶磁器片 (47～49)、石器 (50～52) が出土した。石器はいずれも礫出土面と同じレベルからの出土で50・51は磨石、52は砥石である。陶磁器はいずれも埋土から出土した。

時期 出土した遺物から近世以降と考えられる。



第29図 性格不明遺構(1)



性格不明遺構
A—A 遺構上2/2の横断

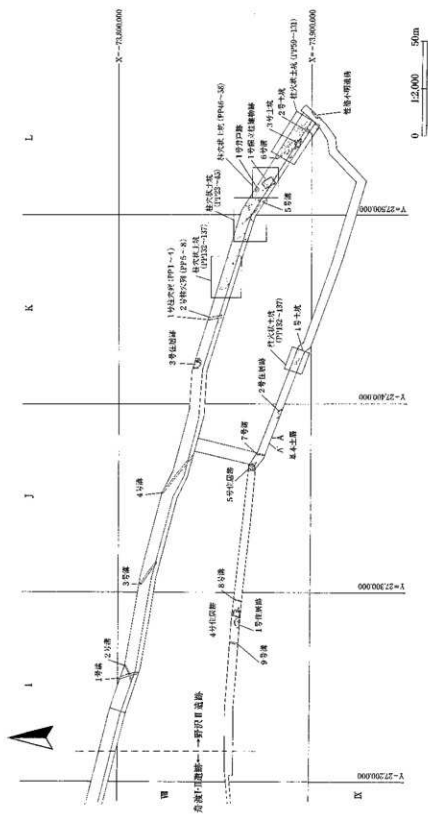
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘りなし、しまりあり
- 6 10YR2/3 黒褐色シルト 粘りなし、しまりあり
- 7 10YR3/4 黒褐色シルト 粘りややあり、しまりあり
- 8 10YR2/2 黒褐色シルト 粘りなし、しまりあり
- 9 10YR2/2 黒褐色シルト 粘りなし、しまりあり

遺構不明遺構の横断
1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘りなし、しまりあり、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を1%未満含む、径5mm以下の炭化物を7%含む。
2 10YR3/4 黒褐色シルト 粘りややあり、しまりあり、径5mm以下の炭化物を1%、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を2%含む。
3 5YR2/2 黒褐色シルト 粘り強い、しまりややあり、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を40%、径5~10mm以下の炭化物をアロアナで0%含む。
4 5YR2/2 黒褐色シルト 粘りなし、しまりややあり、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を2%、径5~10mm以下の炭化物を1%未満含む。

遺構不明遺構の縦断

- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘りなし、しまりあり、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を1%未満含む、径5mm以下の炭化物を7%含む。
2 10YR3/4 黒褐色シルト 粘りややあり、しまりあり、径5mm以下の炭化物を1%、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を2%含む。
3 5YR2/2 黒褐色シルト 粘り強い、しまりややあり、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を40%、径5~10mm以下の炭化物をアロアナで0%含む。
4 5YR2/2 黒褐色シルト 粘りなし、しまりややあり、赤褐色土アロアナ (2.5YR4/6) を2%、径5~10mm以下の炭化物を1%未満含む。

第30図 性格不明遺構(2)



第31圖 遺構配置圖

5 出土遺物 (第32～39図、写真図版51～56)

縄文・弥生土器

53・54は縄文時代中期の大木8b新式に比定される深鉢の胴部破片でⅡJ18mグリッドから出土した。55は縄文時代後期前半の波状口縁を有する深鉢形土器の口縁部破片である。56・57は縄文時代後期後半の深鉢形土器の口縁部破片で56は口縁上部に大小1個の突起を有し、口縁には平行沈線文間に連続する刻目文が施されている。58は晩期の鉢形土器の口縁部破片と考えられるが、沈線文が浅く、摩滅しており、文様ははっきりしない。59は鉢形土器の口縁部破片で、口縁外面に3条、内面に2条の沈線文が施されている。60は深鉢の胴部破片、61は壺形土器の口縁～胴部破片で62は蓋形台部破片で細い沈線により文様が施されている。63～75はIKK2o・2p・3p・3qグリッドから集中して出土したもので弥生時代前半に属すると考えられる土器である。46以外は破片で器形全体がわかるものはないが、鉢・浅鉢・高坏・壺などの一部破片と考えられる。

古代土器

76・77以外はすべて遺構内から出土した。器種は土師器坏・甕、須恵器坏・甕・長頸瓶などで坏はすべてロクロ使用によるもので、底部が残存しているものには回転切り痕が確認できる。土師器と須恵器の割合は4:6で土師器坏で内面に黒色処理が施されているものは24と高台付坏の17のみである。甕は大半が土師器の長胴甕で、球胴甕は2号住居から出土した破片1点のみである。須恵器は坏が最も多く6点出土している。

石器

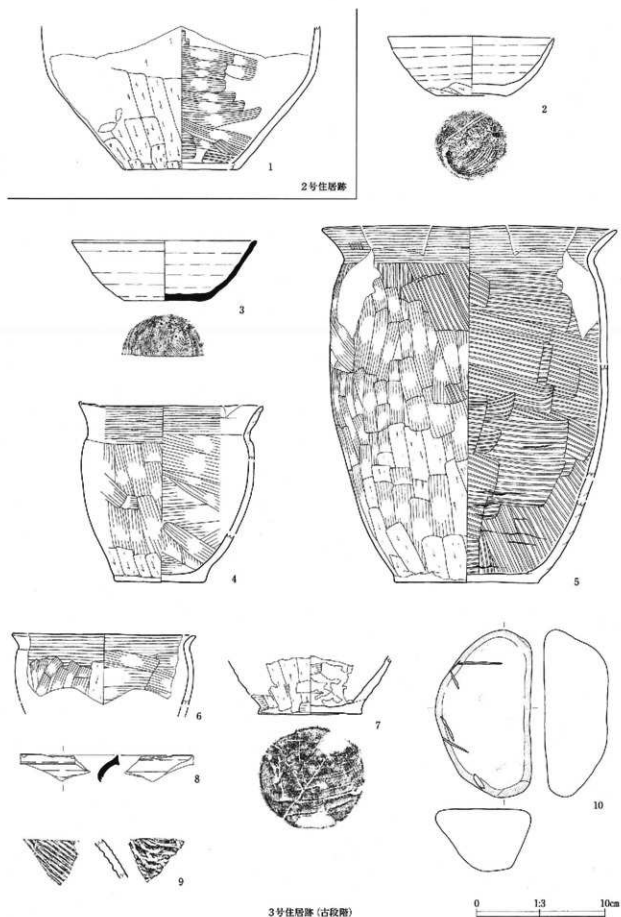
剥片石器はすべて遺構外からの出土で11点、礫石器は遺構内出土のものを中心に10点掲載した。このうち78～83、91・92は弥生土器が集中して出土したIKK3p・3qグリッドからである。剥片石器の器種は石鏃8点、石匙3点で石材にはすべて奥羽山脈産の頁岩が使用されている。礫石器は砥石・磨石類であるが、石材は砥石がすべて奥羽山脈産のデイサイトで、磨石類は奥羽山脈産のデイサイト・斑岩、北上山地の閃緑岩が使用されている。

石製品

93の1点のみである。垂飾品で滑車状の形状で両側から穿孔した痕跡がある。石材には北上山地産の滑石が使用されている。

陶磁器

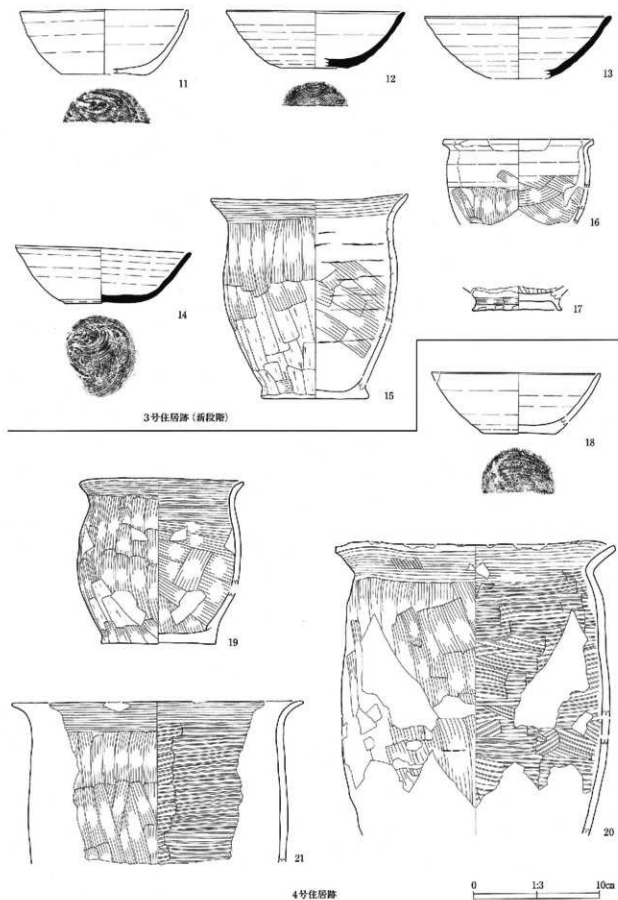
遺構内とその周辺から出土した19点を掲載した。磁器は36・43の2点で肥前産である。陶器は大瀬相馬産のものももっとも多く(31～33・42・46～48・94～96)、瀬戸・美濃産や、肥前産のものは少ない傾向にある。45は肥前産の皿で見込みが蛇目釉剥ぎで釉薬には銅緑釉が施されている。



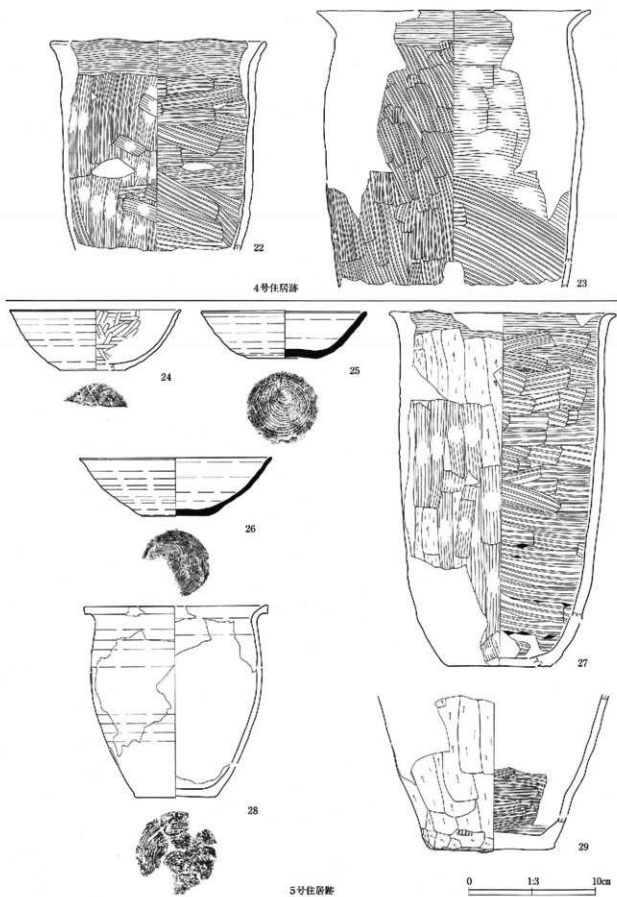
2号住居跡

3号住居跡(古段附)

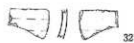
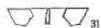
第32図 遺構内出土遺物(1)



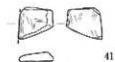
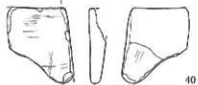
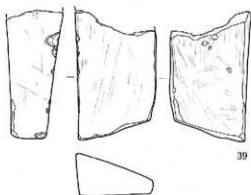
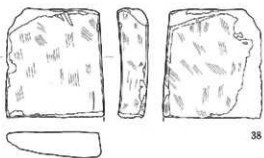
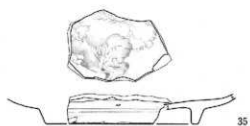
第33図 遺構内出土遺物(2)



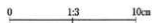
第34図 遺構内出土遺物(3)



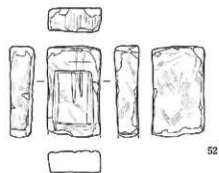
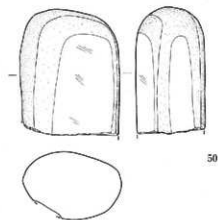
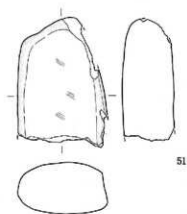
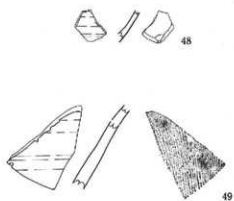
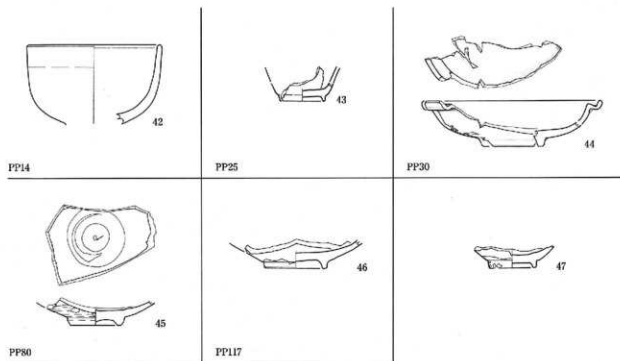
2号土坑



3号土坑



第35図 遺構内出土遺物(4)



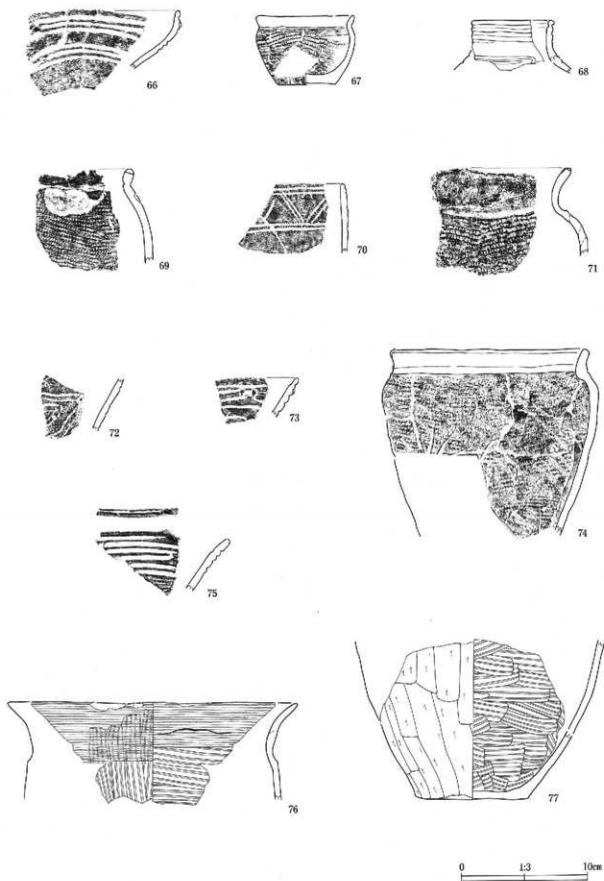
性格不明遺物

0 1:3 10cm

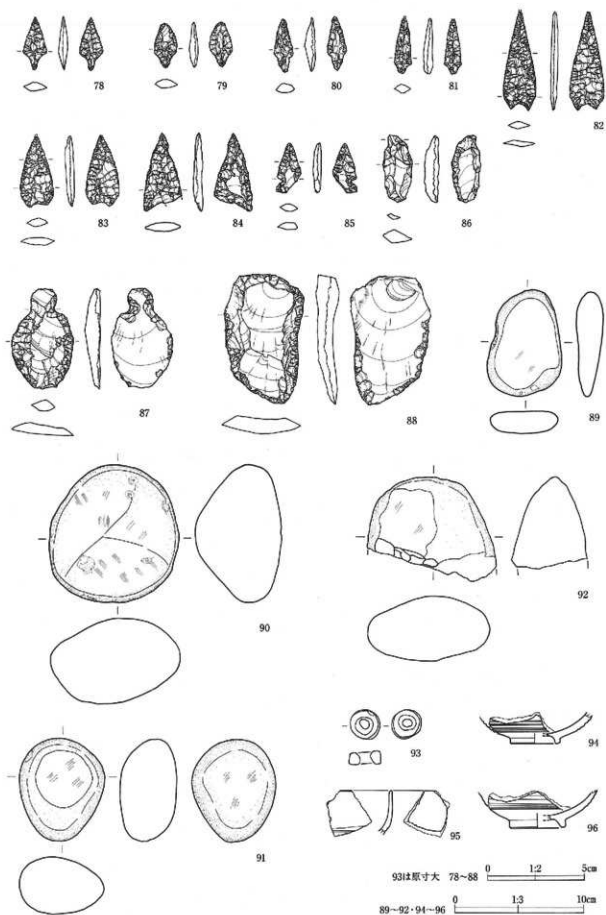
第36図 遺構内出土遺物(5)



第37圖 遺構外出土遺物(縄文・弥生土器)



第38図 遺構外出土遺物(弥生土器・土師器)



第39図 遺構外出土遺物(石器・石製品・陶器)

第3表 縄文・弥生土器調査表

No	出土地点	型位	器種	部位	器位	外函 (文様)	内函 (文様・用途)	備考	図版	写真
53	ⅧJ 18 s・18 m	Ⅷa	深鉢	胴部	深鉢文、複線羽織文 (R L R)		ミガキ		37	54
54	ⅧJ 18 m	Ⅷa	深鉢	胴部	浅鉢文		ミガキ	内面に帯付帯	37	54
55	ⅧL 23 i	Ⅷb	深鉢	口縁部	浅鉢文、沈線文、L R 横文		ナデ		37	54
56	ⅧJ 12 t	Ⅷa	深鉢	口縁部	沈線文、斜日文		ミガキ		37	54
57	ⅧJ 12 t	Ⅷa	深鉢	口縁部	山縁部突起、沈線文、斜日文		ミガキ		37	54
58	ⅧJ 13 n	Ⅷa	鉢	口縁部	帯帯、沈線文				37	54
59	ⅧJ 17 d	Ⅷa	鉢	口縁部	沈線文 3 本、無筋 R		ミガキ、沈線 2 条		37	54
60	ⅧJ 3 u	Ⅷa	深鉢	胴部	L R 横文		ミガキ		37	54
61	ⅧJ 21 w	Ⅷa	壺	口縁-胴部	口縁部沈線文、胴部上帯沈線文 2 条、L R 横文				37	54
62	ⅧJ 18 q	Ⅷb	蓋	縁かぶ	沈線文、L R 横文		ナデ		37	54
63	ⅧK 2 o	Ⅷb	高坏	台部	横文				37	54
64	ⅧK 2 p	Ⅷb	深鉢	口縁-胴部	山縁部無文、胴部 L R 横文		ナデ		37	54
65	ⅧK 2 p	Ⅷb	深鉢	口縁-胴部	胴部二筋突起 2 本、口縁部沈線文、交叉部点線、L R 横文		ミガキ、沈線 1 条		37	54
66	ⅧK 2 p	Ⅷb	浅鉢	口縁-胴部	沈線文 3 単位		沈線 1 条		38	54
67	ⅧK 2 p	Ⅷb	鉢	口縁-底部	沈線文、L R 横文		ナデ		38	54
68	ⅧK 3 p	Ⅷb	壺	口縁部	沈線文		ナデ、沈線 1 条		38	54
69	ⅧK 3 p	Ⅷb	鉢	口縁-胴部	口縁部二筋の突起、1 筋・胴部間に浅い沈線文、L R 横文		ミガキ、沈線 1 条	内面に帯付帯	38	54
70	ⅧK 3 p	Ⅷb	壺	口縁部	口縁部沈線 2 本単位		ミガキ		38	54
71	ⅧK 3 p	Ⅷb	深鉢	口縁部	山縁部二筋の突起、R L 横文		ナデ		38	54
72	ⅧK 3 p	Ⅷb	深鉢	口縁部	沈線文 2 単位		ナデ		38	54
73	ⅧK 3 q	Ⅷb	浅鉢	口縁	沈線文、交叉部突起		ミガキ、沈線 1 条		38	54
74	ⅧK 3 q	Ⅷb	鉢	口縁-胴部	L R 横文		ミガキ		38	54
75	ⅧK 3 q	Ⅷb	浅鉢	口縁部	胴部・山縁部沈線文、胴部 L R 横文		ミガキ、沈線 2 条		38	54

第4表 古代土器観察表

No.	出土層位	器名	形状	部位	口徑(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	外周調査	内周調査	底部	備考	図版写真同
1	2号住(上)	須土中～下位	土師器 壺	胴～底部	(11.5)				ハケムナデ			32 51
2	3号住(上)	カマド煙道底面	土師器 杯	口縁～底部	13.2	5.7	3.7	ロクロナデ, 下縁はケズリ	ロクロナデ	同底糸切痕		32 51
3	3号住(上)	灰層	土師器 杯	口縁～底部	12.6	6.2	4.8	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		32 51
4	3号住(古)	カマド床面	土師器 甕	口縁～底部	14.3	7.1	3.4	ロクロナデ, 胴:ナデ, ケズリ	ロクロナデ	ケズリ		32 51
5	3号住(古)	灰層, カマド煙道部, 陶部	土師器 甕	口縁～底部	23.0	11.3	28.9	ロクロナデ, 胴:ハケムナデ	ロクロナデ, 胴:ハケムナデ	ケズリ		32 51
6	3号住(古)	灰層, カマド煙道底面	土師器 甕	口縁部	14.3		6.4	ロクロナデ, 胴:ナデ, ケズリ	ロクロナデ, 胴:ナデ	ケズリ	底部外面に 木炭痕	32 51
7	3号住(古)	灰層, 灰体土	土師器 甕	胴～底部		8.1	4.7	ケズリ, ナデ	ナデ	ケズリ		32 51
8	3号住(古)	灰層上	須恵器 甕	口縁部				ロクロナデ	ロクロナデ			32 51
9	3号住(古)	灰層上	須恵器 甕	胴部				タタキ	アケテ			32 51
11	3号住(新)	陶土下部	土師器 杯	口縁～底部	13.2	6.8	5.2	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		33 51
12	3号住(新)	北瀬カマドノ付近一帯, 灰層	須恵器 杯	口縁～底部	14.1	5.3	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		33 52
13	3号住(新)	灰層, 埋土層	須恵器 杯	口縁～胴部	14.8		5.0	ロクロナデ	ロクロナデ			33 52
14	3号住(新)	埋土層	須恵器 杯	口縁～底部	13.9	5.8	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕, :又体の周 小色付と物		33 52
15	3号住(新)	北瀬カマドノ付近一帯, 灰層	土師器 甕	口縁～底部	15.6	9.0	16.5	ロクロナデ, 胴:ナデ, トケズリ	ロクロナデ, 胴:ナデ	ケズリ		33 52
16	3号住(新)	埋土層	土師器 甕	口縁～胴部	12.2		7.0	ロクロナデ, 胴:ナデ	ナデ			33 52
17	3号住(新)	埋土層	土師器 高台付杯	高台部		7.1	1.9	ナデ	黒色陶質/ミガキ			33 52
18	4号住	東院跡の灰層	土師器 杯	口縁～底部	13.4	5.7	4.9	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		33 52
19	4号住	カマド煙道部, 南側壁内, P.P.1層上	土師器 甕	口縁～底部	13.2	8.8	13.2	ロクロナデ, 胴:ナデ, ケズリ	ロクロナデ, 胴:ナデ	ケズリ		33 52
20	4号住	カマド煙道部付灰層, カマド内, 灰体土	土師器 甕	口縁～胴部	21.4		23.6	ロクロナデ, 胴:ナデ, 胴:ナデ, ケズリ	ロクロナデ, 胴:ナデ, 胴:ナデ, ケズリ			33 52
21	4号住	P.P.1層上, 灰層	土師器 甕	口縁～胴部	23.1		12.9	ロクロナデ, 胴:ナデ	ロクロナデ, 胴:ナデ			33 52
22	4号住	P.P.1層上, 灰層	土師器 甕	口縁～胴部	17.0		17.0	ロクロナデ, 胴:ハケムナデ	ロクロナデ, 胴:ハケムナデ			34 53
23	4号住	P.P.1層上, 灰層, 灰体	土師器 甕	口縁～胴部	21.6		22.2	ロクロナデ, 胴:ハケムナデ	ロクロナデ, 胴:ハケムナデ			34 53
24	5号住	カマド煙道部, 奥川一帯土	土師器 杯	口縁～底部	13.8	5.0	4.9	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		34 53
25	5号住	カマド煙道部, 灰層, 埋土1, 灰層上	須恵器 杯	口縁～底部	13.1	3.7	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		34 53
26	5号住	埋土下位, 埋土一帯土	須恵器 杯	口縁～底部	16.2	5.2	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		34 53
27	5号住	カマド煙道部付灰層, 灰層, P.1灰層	土師器 甕	口縁～底部	17.0	8.0	28.4	ロクロナデ, 胴:ナデ, ケズリ	ロクロナデ, 胴:ナデ, ケズリ			34 53
28	5号住	カマド煙道部付灰層, 灰層, 埋土2	土師器 甕	口縁～底部	14.5	6.4	13.3	ロクロナデ	ロクロナデ	同底糸切痕		34 53

第4表 古代土器観察表

No.	出土地点	器位	器種	器位	器種	器位	器種	器位	器種	器位	器種	器位	器種	器位	器種	器位	器種	器位	器種
29	Ⅲ-5号坑	カマド型焼盆、カマド内、埋土トドク→灰面	土師器	灰面	土師器	灰面	土師器	灰面	土師器	灰面	土師器	灰面	土師器	灰面	土師器	灰面	土師器	灰面	土師器
76	ⅢK23c	Ⅲ層	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器
77	ⅢK25c	Ⅲ層	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器

※()は口径・底径が異なる。高は任意値

第5表 石器観察表

No.	器種	出土地点	器位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図面写真
10	磨石	3号坑(西)	灰面	17.6	10.2	6.6	1592.73	横岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	32 35
38	砥石	3号上坑	埋土	8.9	7.9	2.4	261.53	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	35 35
39	砥石	3号中坑	埋土	10.1	6.4	4.4	306.33	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	35 55
40	砥石	3号上坑	埋土	6.1	5.3	1.3	45.07	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	35 55
41	砥石	3号上坑	埋土	2.5	2.8	0.8	6.94	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	35 55
50	磨石	窪積不明遺構	埋土	10.2	7.9	5.5	626.38	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	36 55
51	磨石	窪積不明遺構	埋土	10.4	7.0	4.1	464.45	四脚岩 北山峰 中生代(Ⅰ)産	36 55
52	砥石	窪積不明遺構	埋土	7.3	4.2	2.0	107.38	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	36 55
78	砥石	ⅢK3 p	土層	2.73	1.27	0.47	1.01	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
79	砥石	ⅢK3 p	土層	2.32	1.18	0.47	1.05	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
80	砥石	ⅢK3 p	土層	2.80	0.96	0.53	1.08	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
81	砥石	ⅢK3 q	土層	(2.80)	0.89	0.53	0.94	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
82	砥石	ⅢK3 q	土層	(3.17)	1.69	0.42	2.85	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
83	砥石	ⅢK3 p	土層	(3.03)	1.69	0.41	2.55	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
84	砥石	ⅢJ 6 h	土層	4.05	(2.06)	0.46	3.07	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
85	砥石	ⅢJ 21 x	土層	2.60	(1.34)	0.43	1.17	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
86	砥石	ⅢH 16 i	カクラン	3.52	1.50	0.76	4.12	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
87	砥石	ⅢI 16 t	土層下	5.27	3.19	0.79	10.30	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
88	砥石	ⅢJ 21 x	土層	(6.88)	4.18	1.20	30.30	貫岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
89	砥石	ⅢJ 17 j	土層	8.4	5.9	2.1	133.78	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
90	砥石	ⅢL 23 j	土層下	10.9	10.0	6.8	940.37	砥岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
91	砥石	ⅢK3 p	土層下	8.1	6.5	4.5	289.84	テイサイト 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55
92	砥石	ⅢK3 p	土層	8.2	10.1	5.8	305.38	砥岩 奥羽山脈 新生代新第三紀	39 55

※()は任意値

第6表 石製品観察表

No.	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	滑石・北上山埴・中生代白磁記	備考	図録頁碼
93	石製品 (瓦類)	Ⅸ K 3 p	Ⅱ b 層	0.80	0.79	0.35	0.33	滑石・北上山埴・中生代白磁記		39

第7表 陶磁器観察表

No.	出土地点	層位	器種	形状	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	施釉・時期	備考	図録頁碼
30	2号土坑	2層	陶器	灰白色					灰釉	大塚田原 ⅧC		35, 56
31	2号土坑	2層	陶器	灰白色					灰釉	大塚田原 ⅧC		35, 56
32	2号土坑	2層	陶器	灰白色					灰釉	大塚田原 ⅧC		35, 56
33	3号土坑	Ⅱ層	陶器	淡青色					灰釉	大塚田原 ⅧC		35, 56
34	3号土坑	Ⅱ層	陶器	淡青色					不明			35, 56
35	3号土坑	Ⅱ層	陶器	灰色		(11.8)	(2.3)					35, 56
36	3号土坑	Ⅱ層	陶器	白色					灰付			35, 56
37	3号土坑	Ⅱ層下位	陶器	淡青色					灰釉	瀬戸・東濃 ⅧC 中～後葉		35, 56
42	PP14	検出箇所	陶器	淡青粉～灰色					茶色釉	大塚田原?		36, 56
43	PP25	検出箇所	陶器	灰白色		(3.3)	(2.8)			ⅧC 代?		36, 56
44	PP30	検出箇所	陶器	灰白色	(14.3)	(4.7)	3.6			不明		36, 56
45	PP80	検出箇所	陶器	灰白色		4.0	(2.2)		灰釉 / 淡青色	淡青色磁粉並 ⅧC 末～ⅧC 前	見35記付輪郭並	36, 56
46	PP17	検出箇所	陶器	灰白色		5.0	2.3			大塚田原 ⅧC		36, 56
47	性格不明遺跡	Ⅱ層上位	陶器	淡青色		5.6	(1.7)			大塚田原 ⅧC		36, 56
48	性格不明遺跡	Ⅱ層上位	陶器	灰白色						大塚田原 ⅧC		36, 56
49	性格不明遺跡	Ⅱ層上位	陶器	陶器								36, 56
94	Ⅱ 116 q	Ⅱ層	陶器	灰白色		(3.9)	(2.5)			灰釉 / 淡釉	大塚田原 ⅧC	39, 56
95	Ⅱ 125 b	Ⅱ層	陶器	灰白色						灰釉 / 淡釉	大塚田原 ⅧC	39, 56
96	Ⅱ L 2 1	Ⅱ層	陶器	灰白色						灰釉 / 淡釉	大塚田原 ⅧC	39, 56

系 () は口徑・底径が測定値、器高は推定値

6 ま と め

本遺跡は北上市更木地内に所在し、北上川左岸の微高地に立地している。周知の遺跡の範囲は北西-南東に長く、約340×150mの範囲である。標高は63～64mで、現況は水田・畑を主とし、集落が散在する。

今回の調査で明らかになった事項を各時期ごとに本文中の補足も兼ねて述べていきたい。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺物は中期～晩期のものが調査区全体に散見するものの、量は少ない。縄文時代の遺構は今回の調査では検出されていないが、昨年度の野沢Ⅱ遺跡や北側に隣接する戸桜遺跡の調査では土坑や陥し穴などが見つかり、遺跡周辺が生活に利用されていた場所であることは明らかであるが、今回の調査で集落は確認できなかった。弥生時代の遺構は堅穴住居跡1棟（1号住居跡）、土坑1基（1号土坑）が検出している。遺物は昨年度の調査や隣接する舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡でも見つかったため、住居跡自体は本文中でも述べたとおり、炉が検出されるまで、プランを認識できなかったため、遺構のプラン自体は極めて曖昧となってしまったが、集落の存在を確認できたことは弥生時代の様相を知る上で貴重な発見となった。遺物については遺構のある南側から、量は多くはないが、1箇所に集中して出土する傾向にあり、これは順次調査を行った舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査結果でも同様であり、遺物が出土する場所の周辺に集落が点在していた可能性が高い。また、弥生土器が出土する場所は旧河道（沢）の縁部やその周辺に多く、これらの場所が後世の造成工事で地形改変の影響を受けづかったために遺構や遺物が残存していたこともあるが、古代の堅穴住居が立地する場所も同様の傾向にあることから意図的にこれらの場所を選定し、活用していた可能性が考えられる。

古代

今回の調査で検出した遺構は堅穴住居跡4棟、溝跡1条であり、3号住居以外はいずれも調査区南側から検出されている。住居はいずれも方形で規模は3.5～4.5m、それぞれにカマドが1基付設されている。カマドが構築された場所は東壁が2棟、南東隅が1棟、北西壁が1棟で他に3号住居（新）では北壁に構築されていた痕跡があった（ただし、調査区外へと延びるため確認は行っていない）。カマドの構造はいずれの住居でも袖部は地山混じりの土を持ち込み貼りつけて作り、芯材に細長い形状をした礫を使用している。煙道部は先に掘った煙出の穴に向かって、くり貫き式（トンネル式）で掘られるが、煙出部に向かい傾斜して下っている。検出遺構数が少ないことから時期的な相違や法則性までは明らかにはできなかった。時期は2号住居は一部調査のためはっきりしないが、出土した遺物の特徴から8世紀代の可能性が考えられるが、3～5号住居は遺物の特徴から9世紀後半頃で、5号住居の埋土中には十和田A降火山灰が混入していた。また、3号住居には床が2面あり、建て替えによる使用が確認できた。住居以外では7号溝が遺物は出土していないが、検出状況から古代に属すると判断した。

総じて昨年度調査を行った遺跡の北側の調査成果と類似しており、昨年度調査で見つかったロクロビットや焼成遺構などの特徴的な遺構は見つからなかったものの、堅穴住居が点在して見つかる状況や時期などは同じ傾向にあるといえる。

近世（以降含む）

近世以降の遺構は掘立柱建物跡1棟、溝跡8条、井戸跡1基、土坑2基、柱穴状土坑137個、性格不明遺構1基が検出されている。溝は調査区全体に見られるが他の遺構は主に調査区北東部に集中している。掘立柱建物跡・土坑・性格不明遺構とその周辺にある柱穴状土坑は、出土した陶磁器から18～19世紀代に属すると考えられる。

総括

昨年に行った発掘調査では遺跡全体の約40%（ただし調査は遺跡隣接地も含む）にあたる15,813㎡の調査が実施され、その結果、遺跡の主体は古代（9世紀後半）にあり、遺跡範囲の東側半分は遺構や遺物が集中し、堅穴住居は北東縁部～南端部に点在し、周知の遺跡範囲より、さらに広がっていることが判明した。その他の時代については縄文時代は狩猟場および遺物散布地にとどまり、弥生時代は住居跡や遺物が見つかっていることから集落の存在が窺えるが、今回の調査でその全容は明らかにできなかった。中世は遺構・遺物はなく空白時期で、江戸時代に入り北上川の開発が進み、再びこの地が居住に利用されるようになったと考えられる。

参考文献

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2010『野沢Ⅰ遺跡・野沢Ⅱ遺跡・戸板遺跡・舟渡Ⅰ遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第567集）

2008『市の川Ⅰ遺跡・市の川Ⅱ遺跡・山口遺跡・小川屋敷遺跡・六日市遺跡・八天北遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第543集）

2006『金剛遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集）

V 舟渡 I・II 遺跡

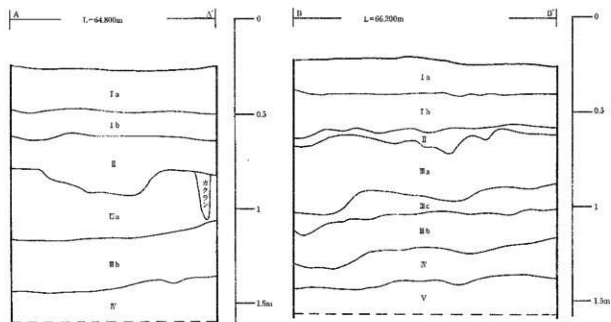
1 遺跡の立地

遺跡は、JR東北本線村崎野駅の北東方向約6.0km、北上市の北東部に位置し、北上川左岸に形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は64～66mを測り、現況は主に水田と畑地である。

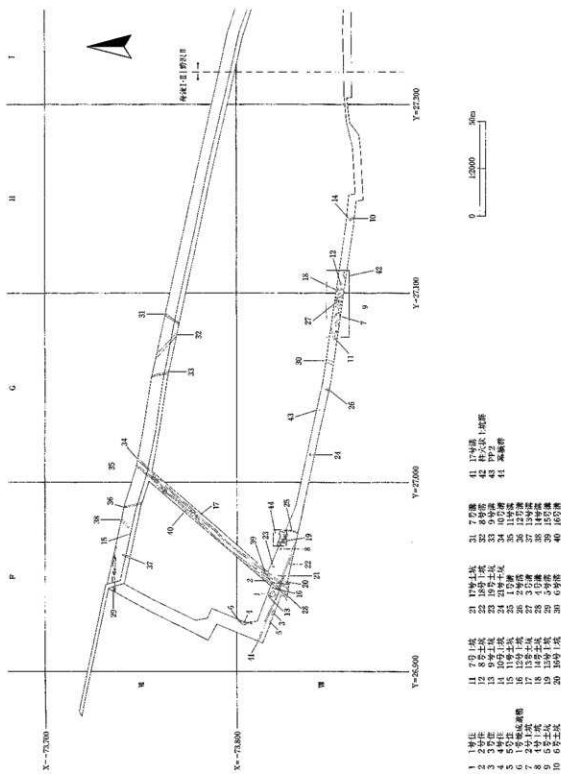
本稿では、従前、舟渡I遺跡、舟渡II遺跡に分けられていたものを、複数年に亘る発掘調査成果等から、地元北上市教育委員会及び県教育委員会の協議を受け、統合して扱うことにした。

2 基本土層

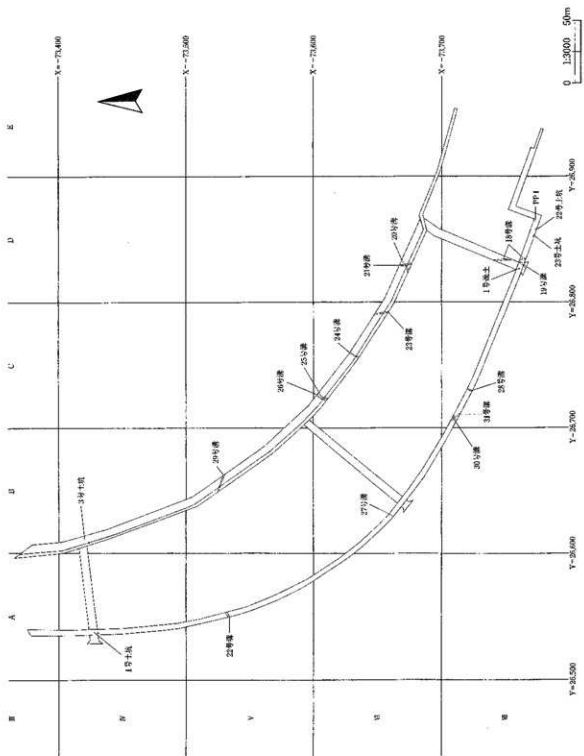
広範囲に及ぶ調査区の土層堆積状況は一様ではなく、水田造成時と思われる地形改変を受けている箇所も広く見受けられたが、旧地形が比較的良好に残存していた場所のうち、主要地方道北上東和線を挟んで東側調査区はⅧH15cグリッド北側壁面(A-A')、西側調査区はⅤA3kグリッド西側壁面(B-B')を基本土層とした。耕作土直下の第Ⅱ層暗褐色土層の時期は、遺構及び遺物は確認されていないため不明である。第Ⅲ層の黒褐色土は、東側調査区においては2層に分けられる。上層であるⅢa層は主に古代の遺構及び遺物が、下層である黒褐色土層Ⅲb層では主に縄文時代・弥生時代の遺構及び遺物が確認された。西側調査区においては、第Ⅲ層は3層に分けられる。上層であるⅢa層と下層であるⅢb層の間層として暗褐色土のⅢc層が堆積している。このⅢc層には、縄文・弥生時代の遺物が含まれている。黒褐色土層Ⅳ層上面からわずかに縄文・弥生時代の上器片が出土したが、第Ⅴ層以下からは遺構及び遺物は確認されていない。



第40図 基本土層



第41图 选桥配置图(1)



第42図 遺構配置圖(2)

- 第Ⅰa層：10YR4/1 褐灰色土 粘性なし しまりややあり。砂質。酸化鉄を30%含む。水田耕作土。
- 第Ⅰb層：10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり。砂質。径5mm大の炭化物粒を1%未満含む。旧水田耕作土。
- 第Ⅱ層：10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり。砂質。10YR2/3 黒褐色土ブロック（径10～40mm大）を3%含む。
- 第Ⅲa層：10YR2/3 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり。砂質。10YR3/3 暗褐色土ブロック（径10～50mm大）を15%含む。古代の遺物を含む。
- 第Ⅲc層：10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり。径1～5mm大の炭化物粒を1%未満含む。縄文・弥生時代の遺物を含む。
- 第Ⅲb層：10YR2/3 黒褐色土 粘性あり しまりあり。10YR3/4 暗褐色土ブロック（径10～50mm大）を7%含む。縄文・弥生時代の遺物を含む。
- 第Ⅳ層：10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりあり。径2mm大の炭化物粒を1%未満含む。
- 第Ⅴ層：7.5YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり。砂質。10YR3/4 暗褐色土粒子（径20mm大）を1%未満含む。

3 調査の概要

今回の調査は、今回の調査区を含む遺跡範囲内及びその周辺において、事業に先行して岩手県教育委員会生涯学習文化課が試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された範囲のうち、取り扱いの協議を経て記録保存の対象となった区域の調査を実施したものである。今回の調査面積は、本発掘調査面積5,331㎡・確認調査面積6,516㎡の計11,847㎡であり、検出された遺構は、竪穴住居跡5棟、焼成遺構1基、焼土遺構1基、土坑23基、溝跡31条、柱穴状土坑65個、墓壇16基である。出土遺物は、縄文・弥生土器（大コンテナ3.5箱）、古代土器（大コンテナで3.5箱）、近世陶磁器12点、石器類18点、金属遺物（鎌1点、煙管5点、銅銭22点、鉄銭10点以上、その他2点）である。

4 検出遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡（第43・44・74・75図、写真図版23・24）

<調査方法・経過> 遺構は確認調査区域にあっているのだが、遺構の北東壁側に大きな攪乱が及んでおり、遺構であるか否かを含め正確に把握するために、全てを掘り下げたものである。

<位置・検出・重複関係> WF5kグリッドに位置し、耕作土直下の第Ⅳ層で検出された。重複している遺構は検出されなかったが、竪穴住居構築前にあったと思われる風倒木痕の一部を覆って掘られていた。この風倒木痕埋土中からは、遺物は出土していない。

<形状・規模・主軸方向> 形状は隅丸方形の平面プランであり、検出面で北壁-南壁間、西壁-東壁ともほぼ2.50mの規模である。主軸方向はN-25°-Eである。

<埋土> 6層に分けられる。1～5層は住居埋土、6層は貼り床土である。上・下層（1～2層）とも暗褐色土を主体とした自然堆積である。2・3層には炭化物及び焼上粒を多く含んでいる。4層は地山崩落土を主体とした堆積土である。遺物は、1～3層に含まれている。

<カマド> カマドは北壁のほぼ中央に構築されており、カマド天井部は崩落し、袖部のみ残存した

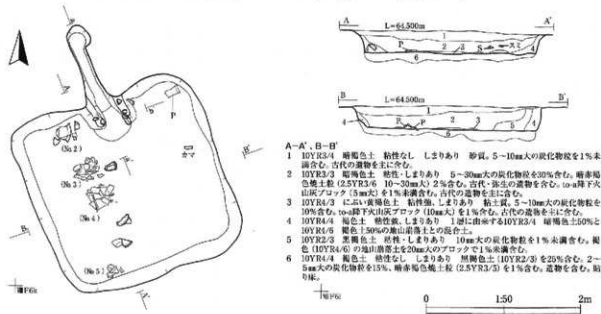
状態で検出された。袖は、径20～30cm大の扁平の自然礫を直立方向より僅かに内側に傾斜させ、芯材として設置した後、暗褐色～黒褐色土で構築したものである。燃焼部は43×40cmの範囲で確認され、焼上の厚さは5～6cmである。煙道部は水平に構築されており、煙道部底面より5cm深く掘られた煙出部へと繋がっている。煙道部の長さは底面で90cm、検出面からの深さ30cmである。煙出部は40×40cmの円形の柱状穴で、検出面からの深さは35cmである。

<床面・壁面> 住居全体に貼り床が施されている。貼り床は褐色土と黒褐色土の混合土で施されており、わずかに焼土粒も含んでいる。貼り床を剥がした後の住居底面全体は、凹凸に富んでいる。壁面は四方とも外傾して立ち上がっており、床面から検出面までの壁高は、北壁27～29cm、西壁23～26cm、南壁24～28cm、東壁26～30cmである。壁溝は検出されなかった。

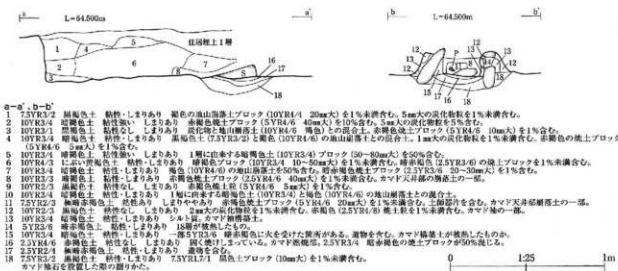
<土坑類> 確認されていない。

<遺物> 1～6 (土器)、7・8 (土製品)、9 (金属器) が出土した。1～6はいずれも床面直上から出土し、そのほとんどが住居中央より西側から出土している。1・2は土師器である。1については、外面はヘラナデ後、ヘラケズリ調整が、内面はヘラケズリ調整が施されている。2については、外面はヘラナデ調整、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。1・2とも非ロクロ成形である。3～6は土師器である。3・5は非ロクロ成形で、内外面とも口縁部はヨコナデ調整、外面はヘラナデ調整が施されている。3の内面には、胴部中央部から頸部にかけて煤が付着している。4も非ロクロ成形であり、輪痕が明瞭である。4の口縁部については、内外面ともヨコナデ、胴部の外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整が施されている。5については、出土した土器片に胴部下部分が含まれていなかったが、住居内の同一箇所からまとめて出土した状態から同一個体であると考えられるため、図面上で復元したものである。6はカマド左袖部の西脇から、横位ではあったもののほぼ完形で出土した。非ロクロ成形の球胴甕であるが、赤彩は施されていない。内外面とも口縁部についてはヨコナデ調整され、胴部については外面はヘラナデとヘラケズリ調整が、内面についてはヘラナデ調整が施されている。カマドの崩落土中から7が、燃焼部中から8が出土したが、形態及び用途は不明である。9は鎌の刃である。刃が二つに折れた状態で2層から出土したが、枝は残存していなかった。須臾器は出土していない。

時期 出土遺物の器種構成及び共存関係から、8世紀に属すると考えられる。



第43図 1号住居跡(1)



第44図 1号住居跡(2)

2号住居跡(第45・75図、写真図版25・26)

<位置・検出・重複関係> ⅢF4m・4nグリッドに跨るように位置し、表土直下の第Ⅳ層で検出された。重複している遺構は4号溝である。4号溝は、南東方向から北西方向へ住居埋土上面の一部を括るよう掘られており、住居埋土1層及び11層の一部が失われている。

<形状・規模・主軸方向> 形状は方形である。規模は、検出面で北西壁-南東壁間、北東壁-南西壁間ともほぼ2.50mである。カマドを持たない住居であったため、主軸方向については不明である。

<埋土> 12層に分けられる。埋土上層から下層(1~5層、7~9層)まで黒褐色土が堆積し、壁際の6層、10・11層は地山崩落土を含んだ暗褐色土が堆積している。埋土上層~下層には炭化した木材、炭化物がそれぞれの層に含まれている。床面直上では、約10×50×3cm大の炭化材が3本まとも出て出土し、焼土も広がって検出された。出土した炭化材の樹種はクリである。貼り床(12層)は黒褐色土で、褐色土とにぶい黄褐色土との混合土で施されている。埋土の上面に炭化物粒、焼土粒を含んでいる。

<カマド> カマド、煙道部及び煙出部は検出されていない。

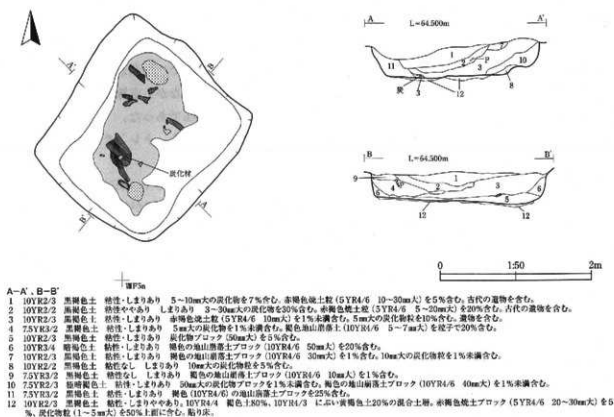
<床面・壁面> 黒褐色土を主体とした褐色土との混合土の貼り床が、ほぼ全面に2~5cmの厚さで施されている。貼り床を剥がした後の底面について、北東壁から中央部にかけては凹凸に富んでいるが、中央部から南西壁まではほぼ平坦であった。壁面は、北東壁・南西壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、北西壁・南東壁は垂直よりやや外傾して立ち上がっている。床面からの壁高は、北東壁・南西壁は30cm、北西壁40cm、南東壁45cmである。

<土坑> 確認されていない。

<遺物> 10~19が出土している。10~13は土師器の坏、14~19は土師器の甕である。10は坏の口縁部から底部にかけての破片である。外面の調整は、ヨコナダ後にヘラナダが一部施された後に、

ヘラミガキが施されている。内面はヨコナデ後にヘラミガキが施され、その後内外面とも黒色処理されている。11は坯の口縁部から胴部にかけての破片である。外面はヨコナデ後にヘラナデが一部に施されており、内面はヘラミガキが施された後、黒色処理されている。12は坯胴部の破片である。内外面ともヘラミガキ調整後に、黒色処理が施されている。13は口縁から胴部にかけての破片である。外面はロクロナデ調整され、内面はヘラミガキ後に黒色処理されている。14は、口縁部外面はヨコナデを主体としているが、一部にハケメ調整を施し、胴部は縦方向にハケメ調整を施している。口縁部内面はヨコナデ、胴部内面は横方向にハケメ調整を施している。15の口唇部は輪積痕を境に剥離しているが、口縁部は内外面ともヨコナデ、胴部は内外面ともヘラナデ調整を施している。口縁部外面には、ヘラナデ調整の段階で意図せずに付いたものと思われる工具痕が7カ所認められる。16は甕の口縁部片である。内外面ともヨコナデ調整が施されている。17の口唇部も剥離しているが、口縁部は内外面ともヨコナデ、胴部は内外面ともヘラナデ調整が施されている。18は口縁部から頸部にかけての破片である。焼成があまり良好ではなく、口縁部には焼歪みが生じている。口縁部の調整は、外面がヨコナデ、内面はヨコナデ調整後にヘラナデが一部で施されている。頸部の調整は、外面がヨコナデ調整後にハケメ調整が施され、内面はヨコナデ調整後にヘラナデ調整が施されている。19は口縁部から肩部にかけての破片である。内外面とも口縁部はヨコナデ、肩部はヘラナデ調整が施されている。その他、弥生時代の土器片も出土したが、検出遺構及び関連する出土遺物から、混入したものであると思われるため、遺構外出土土器として掲載した。

時期 出土遺物はいずれも破片であり、遺構の構築時期を想定することは困難であるが、出土遺物は非ロクロ成形であることに加え須恵器が共存しないこと等から、1号住居跡と同時期の8世紀代であると考えられる。



第45図 2号住居跡

3号住居跡(第46・76・77図、写真図版27)

<調査方法・経過> 遺構の2/3ほどは調査区外にある。検出された遺構が所在する区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響はあまり大きくない工法によるものであるから、遺構は現状に近い状態で保存されるため、確認調査対象である。従って、精査は、遺構に影響を極力与えずに遺構の性格を把握することを主眼とし、掘り下げはトレンチ内のみ実施した。調査区境界に幅40～50cmのトレンチを設定し、重複する遺構は確認されなかったことから、トレンチ内は貼り床を除去し、遺構底面まで掘り下げて精査を実施した。

<位置・検出・重複関係> WF4i・5iグリッドに跨って位置しているが、遺構の南側2/3ほどは調査区外に所在している。検出は、第IV層上面で行った。この付近の層序は、第I層耕作上、第Ⅲa層、第Ⅲb層、第IV層の順であった。調査区境界の土層断面の観察から、遺構は第Ⅲa層から掘り込まれていたことがわかったが、第Ⅲa層での平面プラン検出は、土質・色調のせいか極めて困難であった。第IV層まで掘り下げて初めて平面プランが確認できたのである。重複している遺構は検出されていない。

<形状・規模・主軸方向> 形状は方形である。規模は、検出面で北西壁-南東壁間ではほぼ3.20mである。北東壁-南西壁については、調査区外にわたるため不明である。調査区内ではカマドは検出されなかったため、調査区外に所在しているものと推測される。そのため、主軸方向は不明である。

<埋土> 7層に分けられる。前述したように、遺構平面プランは第IV層まで掘り下げて初めて確認できたため、住居埋土の堆積状況は調査区境界の土層断面で確認した。1～5層が住居埋土、6～7層は貼り床土である。上層から下層(1～4層)まで黒褐色土が自然に堆積している。遺物は1～5層まで含まれているが、焼土を主体とした5層上層の3層により多く含まれていた。貼り床は、2層に分けられ(6・7層)、黒褐色～極暗褐色土と褐色土との混合上で施されている。

<カマド> カマド、煙道部及び煙出部は調査区内では検出されなかったため、調査区外に所在しているものと推測される。

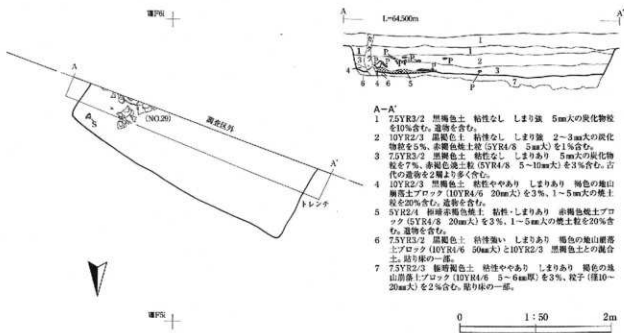
<床面・壁面> トレンチのみの精査ではあったが、貼り床を剥がした後の底面は、住居南東側から北西側に向かって5%の勾配で傾斜し、住居中央部周辺から北西壁側までは凹凸が見られた。貼り床には、遺物は含まれていなかった。壁面は、南東壁・北西壁とも外傾しながら直線的に立ち上がり、上層断面の観察から、床面からの壁高は、南東壁で30cm、北西壁で35cmであった。

<土坑> トレンチ内のみの精査であったため、所在の有無は不明である。トレンチ内では土坑等は検出されなかった。

<遺物> 20～34が出土した。20～23は土師器の坏、24は土師器の高台付坏、25は須恵器の坏、26～34は土師器の甕である。20・21・24の内面はヘラミガキ調整後に黒色処理が施されている。25は須恵器坏の口縁部片である。内外面ともロクロナデ調整である。26・27・30・32は、内外面ともロクロナデ調整を施し、底部は糸切り後無調整である。28は甕の胴部片である。外面は縦方向のヘラケズリ調整が施され、胴部内面中央部付近にヘラナデ調整、胴部下部は横方向のヘラナデ調整が施されている。32の外面には煤が付着している。28については、内外面ともロクロナデ調整を施し、外面胴部中央部から下部にかけてその後ヘラケズリ調整を施している。内面の一部に煤が付着している。29は口縁部から胴部にかけての破片である。内外面はロクロナデ調整後に胴部ヘラナデ調整を施しているが、一部にヘラケズリに近い調整箇所も見られた。31は内外面ともロクロナデ調整を施した後、外面は縦方向主体のヘラケズリ調整を、内面は胴部下部にヘラナデ調整を施している。外面に煤が一部付着している。33は、胴部下部から底部にかけての破片である。非ロクロ成形で、外面はヘラケズ

リ調整が、内面はヘラナデ調整が施されている。34は非ロクロ成形である。外面はヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整を施している。

時期 遺構全体を掘り上げていないため、遺構内全体に含まれる遺物からの判断は出来かねるが、ロクロ成形した遺物の底部はいずれも糸切り後の再調整等は見られないこと等から、9世紀半ば以降であると推測される。



第46図 3号住居跡

4号住居跡 (第47・77図、写真図版28)

<調査方法・経過> 遺構が検出された区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響はあまり大きくない工法によるものであるから、遺構は現状に近い状態で保存されることになる。そのため、確認調査対象である。従って、精査は、遺構に影響を極力与えずに遺構の性格を把握することを主眼とし、掘り下げはトレンチのみとした。検出面において、重複している遺構の所在は確認できたものの、プラン及び新旧関係についても不明確であったため、住居跡の埋上層目を全体的に掘り下げた後、トレンチ内の精査を実施した。トレンチは調査区境界に40cmの幅で設定した。4号住居跡は1号焼成遺構と重複しており、この1号焼成遺構も確認調査対象であり、遺構が保存可能であることから、精査はベルト部分のみとし全て掘りさげしていない。そのため、1号焼成遺構の遺構底面を掘り上げずに、4号住居跡の埴り床を剥がすことはできなかった。

<位置・検出・重複関係> VII F1g・2gグリッドに位置しているが、遺構の約2/3は調査区外である。遺構は、表土(耕作土)直下の第V層で検出された。耕作土直下が第V層となっていることは、水田造成時等の地形改変の影響を受けたものと思われる。重複している他の遺構は、1号焼成遺構が、住居跡の北西壁の一部を壊して構築された状態で検出されている。

<形状・規模・主軸方向> 検出された西角部分周辺からの判断であるが、形状は方形であると思われる。規模については、検出された部分が狭く、正確に計測することは困難であるが、推定される北東壁と南西壁間でおおよそ5mであった。遺構を全て精査していないため、カマドを有するか否かについては不明であるが、住居跡南西部で検出された径0.52×0.50mの円形状の箇所は、確認調査区にあたるため掘り下げてはいないが、検出位置・埋土の状況等から煙出部の可能性が高いと思われ、主

5号住居跡 (第48・77図、写真図版28)

〈調査方法・経過〉 検出された遺構が存在する区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響が比較的少ない工法によるものであるから、遺構は現状に近い状態で保存されるため、確認調査対象である。しかしながら、遺構の大半は調査区外にあり、遺構の性格を確認するためには、調査区内で検出された部分のみではあまりに狭小であるため、精査は、トレンチを設定せずに遺構埋土を床面まで掘り下げて実施した。

〈位置・検出・重複関係〉 検出された部分はWF5gグリッドに位置している。検出は第IV層上面で行った。この付近の層序は、第I層耕作土、第Ⅲa層、第Ⅲb層、第IV層の順であった。調査区境界の土層断面の観察から、遺構は第Ⅲa層の中程から掘り込まれている。第Ⅲa層での平面プラン検出は、土質・色調から極めて困難であったため、第IV層まで掘り下げて平面プランを確認した。重複している遺構はない。

〈形状・規模・主軸方向〉 形状は方形であると思われる。規模については、遺構の大半が調査区外であるため不明である。遺構から出土した遺物の器種構成等から、本遺構を竪穴住居跡であると判断した。主軸方向については、調査区内でカマド等が検出されておらず不明である。

〈埋土〉 埋土は自然堆積で、14層に分けられる。上層から下層まで黒褐色土を主体とし、上層である1層、中層にあたる6～8層にはいび黄褐色土粒が混入している。遺物は10層に含まれている。下層である11・12・14層には炭化物、焼土粒が含まれている。

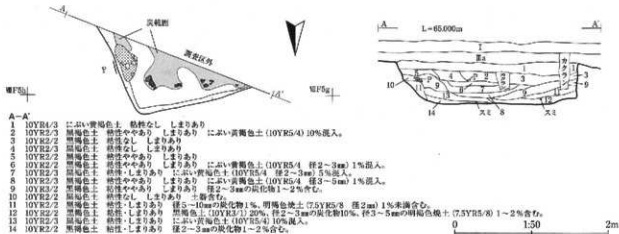
〈カマド〉 調査区内ではカマドは検出されていないため、調査区外にあるものと思われる。

〈床面・壁面〉 床面は褐色土である。床面直上に大量の炭化物及び炭化した木片が広がり、北東壁際には焼土が確認された。焼土の上には須恵器片が含まれていた。床面直上で検出された炭化物の広がり及び焼土等の性格について調査区内だけで検討することは、検出された範囲が狭小であることから大変難しいと考え、当該調査区の遺構はほぼ現状で保存されることから、貼り床は剥がさずに床面直上までの検出とした。壁面についてであるが、北東壁、北西壁ともほぼ垂直に立ち上がり、土層断面から壁高は北東壁で50cm、北西壁で45cmであった。

〈土坑〉 調査区内では土坑、柱穴状土坑は検出されていない。

〈遺物〉 36が出土している。須恵器甕の肩部片である。外面はタクキ調整、内面は一部タクキメがあるが全体的にヨコナデ調整されている。土師器胴部片も少量出土したが、器面が摩滅しており図化しなかった。弥生土器も出土したが、混入したものであるため、遺構外出土遺物として掲載した。

時期 出土した遺物から、8世紀末から9世紀前半に属するものと思われる。



第48図 5号住居跡

(2) 焼成遺構

1号焼成遺構 (第49・78図、写真図版29)

<調査方法・経過> 確認調査区において、4号住居跡と重複して検出された。4号住居跡との新旧関係を明らかにする目的でトレンチを設定したが、トレンチ内では確認できなかったため、1号焼成遺構の平面プランを確認後、改めてトレンチを設定し精査したものである。平面プランは、4号住居跡の埋土1層に酷似した土が1号焼成遺構の上層に堆積していたことから、これを掘り下げてから確認したものである。遺構は確認調査区にあっていたが、遺構の特質を把握するため、埋土の全てを掘り上げたものである。

<位置・検出・重複関係> WF1g・2g・1h・2hグリッドに跨って位置している。検出は、表土(耕作土)直下の第V層で行った。耕作土直下が第V層となっていることは、地形改変を受けたものと思われる。4号住居跡の一部に重複して、1号焼成遺構が構築されている。

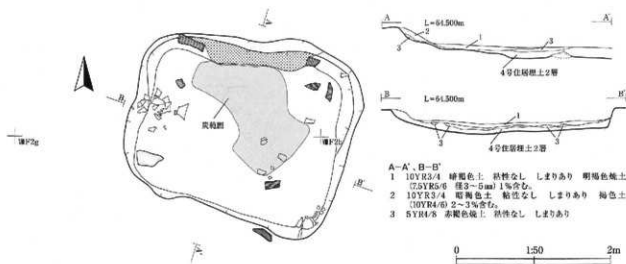
<形状・規模> 平面形は隅丸の台形であり、長軸2.80~2.90m、短軸2.00~2.50mを測る。

<埋土> 埋土は自然堆積で、3層に分けられる。1層~2層は暗褐色土主体であるが、1層には明褐色焼土粒及び炭化物が含まれ、上面では遺物が含まれていた。2層には褐色土が含まれている。その下層である3層は、被熱し固くしまった焼土である。

<床面・壁面> 床面は平門レンズ状に凹んでおり、床面から傾斜角20度で北壁が外傾して立ち上がり、傾斜角10度で東壁が外傾しながら立ち上がっている。北壁中央部に東西185cm×南北35cm×厚さ5cmの範囲で焼土(3層)が確認されたほか、炭化材もこの焼土の周辺から出土した。炭化材の樹種はナラである。検出面からの深さは北壁32cm、東壁20cm、西壁14cmで、南壁は推定で約30cmである。床面下は4号住居跡埋土2層である。

<遺物> 37~39が出土した。いずれも土師器である。37は甕の胴部から底部までの破片である。外面は縦方向のヘラケズリ調整、内面は横方向のヘラナデ調整が施されている。38はロクロ成形の甕底部片である。底部は糸切り後は無調整である。内面は剥落しており調整は不明である。39は坏口縁部片である。外面は口縁部はヨコナデ、胴部下部はヘラケズリ調整が施され(一部にヘラナデ調整あり)、内面はヘラミガキ後に、黒色処理されている。胴部外面に明瞭な段が見られる。

時期 出土遺物から9世紀に属するものと思われる。



第49図 1号焼成遺構

(3) 焼土遺構

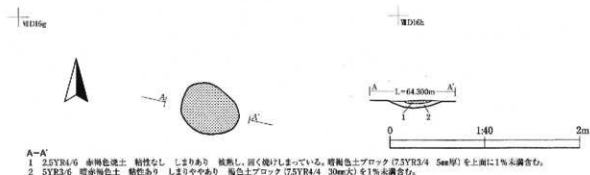
1号焼土 (第50図、写真図版29)

<位置・検出・重複関係> WD16gグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複した遺構あるいは関連する遺構は、周囲から検出されていない。1号焼土遺構が検出された周辺の層序は、耕作土、盛上、第IV層であったことから、地形改変をすでに受けていると思われる。

<形状・規模> 焼土の広がりには卵形状であり、その規模は長軸0.61×短軸0.50mの範囲であった。

<堆積土> 2層に分かれ、赤褐色の第1層は火を受けたためか固くしまっていた。下層の2層は暗赤褐色の色調で、1層に由来する焼土ブロックが1%混入していた。焼土の最大厚は8cmである。

時期 第IV層で検出されたもの、時期は不明である。



第50図 1号焼土

(4) 土坑

1号土坑 (第51・78図、写真図版30)

<位置・検出・重複関係> IVA8i・8jグリッドに位置しており、第IV層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面の形状はほぼ円形であり、規模は上面が1.40×1.30m、底面は0.84×0.84mある。検出面から底面までの深さは最深部で60cmである。

<埋土> 埋土は5層に分けられる。上層である1層は暗褐色の砂質土であり、下層である2層は黒褐色土である。2層には十和田b火山灰らしき灰白色の粒子が微量に含まれている。

<遺物> 40～46が出土している。40～42は弥生土器の深鉢、43は浅鉢、44は高坏の台、45は焼粘土塊、46は敲打石である。42は埋土1層から、40・41・43・45は埋土2層の遺構底面から出土している。40は口縁部から胴部にかけての破片で出土し、内面にはスガが付着している。41は底部のみの出土であった。42は小波状口縁を有する深鉢の口縁部片、43は突起内面に沈線をもつ二股突起4単位を持つ浅鉢である。45の粘土塊には指押圧痕が見られる。46は礫先端部に敲打痕が見られる。

時期 出土遺物から弥生時代前期に構築されたものと思われる。

2号土坑 (第52・78図、写真図版30)

<位置・検出・重複関係> W14v・14wグリッドに跨って位置し、遺構のおよそ半分は調査区外である。この付近の土層は、耕作土、第IV層の順であり、水田造成等による地形改変が行われたことが伺えた。第IV層で検出したが、遺構の一部にカクラン箇所があったため、IV層を少し掘り下げて検出した。重複する遺構はPP11で、土坑の一部を壊して構築されていた。

<平面形・規模> 遺構全体が検出されていないが、遺構プランは楕円形であると推測される。検出された部分における規模は、長軸1.8×短軸0.69mで、検出面から遺構底面までの深さは最深部で72cmである。

<埋土> 6層に分けられる。1～3・5層は黒褐色土主体の土層で、これらの層に弥生時代の遺物が含まれていた。4層は地山に由来するものと思われるにぶい黄褐色土主体の土層である。また、2層の一部にカクランを受けた箇所があった。

<遺物> 47・48が出土している。47は弥生土器の浅鉢、48は甕の口縁部である。47の頸部には沈線が施され、その下部には縄文が施されている。48の頸部には、細竹管による刺突列が一例見られ、おそらく頸部をめぐるように施されているものと思われる。

時期 出土遺物から弥生時代中期に構築されたものと思われる。

3号土坑 (第51図、写真図版30)

<位置・検出・重複関係> IV6b・6cグリッドに跨って位置し、第IV層で検出した。重複する遺構はないが、検出段階で第IV層上面に皿状に第III層が入り込んでいたため、一部を掘りすぎてしまった。

<平面形・規模> 平面形は円形を呈し、規模は直径1.40mである。遺構底面も円形で、直径1.10mである。検出面から遺構底面までの深さは80cmである。遺構の断面形は「フラスコ状」である。

<埋土> 埋土は10層に分けられ、黒色～黒褐色土主体である。

<遺物> 出土していない。

時期 遺構に伴う遺物は出していないものの、遺構の形状等から弥生時代に構築されたものと思われる。

4号土坑 (第51図、写真図版30)

<位置・検出・重複関係> W16qグリッドに位置している。第IV層で検出したが、この付近の土層は、耕作土直下、第IV層であった。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 平面形は方形であり、規模は1.18×1.18mであるが、遺構南西部にも前庭部状の凹みがある。検出面から遺構底面までの深さは最深部で12cmである。

<埋土> 単層である。黒褐色土と暗褐色土との混合土。炭化物粒を含む。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

5号土坑 (第52図、写真図版31)

<位置・検出・重複関係> W14xグリッドに位置している。第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 平面形は卵形であり、その規模は長軸0.62×短軸0.48m、検出面から遺構底面ま

での深さは最深部で24cmである。

<埋土> 3層に分けられる。1層は黒褐色砂質土、2・3層は暗褐色土の自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

6号土坑（第52・78図、写真図版31）

<位置・検出・重複関係> ⅧH16j・16kグリッドに位置している。第IV層で検出した。10号土坑と重複し、これを切る。

<平面形・規模> 遺構上面の平面形は北西側にややみ出した楕円形ではあるが、上層の堆積状況等から遺構本体は円形に掘られたものであると思われ、はみ出した部分は、重複している遺構及びその周辺を掘り過ぎたものである。残存部の規模は径1.62m、底面の規模は径1.25m、検出面から底面までの深さは最深部で64cmである。

<埋土> 5層に分けられる。1～3・5層は黒褐色土を主体とし、4層は地山崩落土の混じった暗褐色土である。上層である1層から3層ともに近世から近代の遺物が含まれていた。遺構底面はグライ化した青灰色であった。

<遺物> 49～54が出土した。49は肥前系磁器の皿底部片で、時期は18世紀である。50は在地産の皿口縁部片で、時期は19世紀である。51は大堀相馬産の陶器碗口縁部片で、時期は18世紀である。52は在地産の摺鉢口縁部片で、19世紀であると思われる。53は肥前系磁器の紅血片で、時期は19世紀である。54はガラス製おはじきで、産地・時期とも不明である。

時期 出土遺物から18世紀から19世紀前半に構築されたものと思われる。

7号土坑（第52図、写真図版31）

<位置・検出・重複関係> ⅧG13s・13t・14s・14tグリッドに跨って位置している。第IV層で検出した。重複している遺構はないが、遺構東側にカクランを受けた箇所がある。

<平面形・規模> 平面形はほぼ円形で、1.20×1.12mの規模である。遺構底面はやや不整形な円形で、0.92×0.88mの規模である。検出面から遺構底面までの深さは最深部で22cmである。

<埋土> 3層に分けられる。1層黒褐色土、2・3層暗褐色土の自然堆積である。

<遺物> 摩滅の激しい土器細片が出土したが、時期・器種とも不明であり図化しなかった。

時期 構築時期は不明である。

8号土坑（第52図、写真図版31）

<位置・検出・重複関係> ⅧH14bグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 平面形はほぼ円形、断面形は摺鉢状で、遺構上面の規模が1.50×1.40mである。遺構底面は60×50cmの楕円形で、検出面から遺構底面までの深さは42cmである。

<埋土> 3層に分けられる。1層暗褐色土、2・3層にぶい黄褐色土の自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

9号土坑（第52図、写真図版32）

<位置・検出・重複関係> ⅧF51グリッドに位置している。第IV層で検出したが、9号土坑が検出

された周辺の土層は、耕作土直下第IV層であった。重複している遺構はないが、一部カクランを受けた箇所がある。

<平面形・規模> 遺構上面は楕円形で、長軸0.90×短軸0.72mの規模であり、遺構底面は長軸0.76×0.56mの楕円形である。遺構検出面から遺構底面までの深さは最深部で14cmであった。

<埋土> 3層に分けられ、上層である1層には5YR3/4 暗赤褐色の焼土粒を、下層である3層には5YR3/2 暗赤褐色の焼土ブロックを含んでいる。2層には炭化物粒が含まれていた。

<遺物> 1層から土器小片が1点出土したが、摩滅が激しく時期・器種等は不明であり、図化しなかった。

時期 遺物は出土したものの、構築時期は不明である。

10号土坑（第53図、写真図版32）

<位置・検出・重複関係> ⅧH15j・15kグリッドに跨って位置し、第IV層で検出した。遺構上面に20cm大の円礫が遺構中央部付近に集中して置かれた状態で検出された。これらの礫は、人為的に散布されたものであると思われるが、その目的等については不明である。検出時には遺構プランが一部不明瞭であったため、トレンチを設定した後に精査を行った。重複している遺構は6号土坑で、これに切られている。

<平面形・規模> 平面形は遺構上面及び底面とも円形である。規模は、遺構上面で径1.32m、底面で径1m、検出面から遺構底面までの深さは最深部で24cmである。

<埋土> 暗褐色粘土質シルトを主体とした堆積土で2層に分けられる。上層である1層には20cm大の礫が含まれていたが、下層である2層には礫は含まれていない。1・2層ともに酸化鉄が含まれていた。

<遺物> 出土していない。

時期 重複している6号土坑が出土遺物から18～19世紀前半に構築されたものであることから、それ以前に構築されたものである。

11号土坑（第53図、写真図版32）

<位置・検出・重複関係> ⅧF11s・12sグリッドに跨って位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 平面形はほぼ円形で径0.92mである。底面は楕円形で長軸0.65×短軸0.50mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で24cmである。

<埋土> 2層に分かれる。上層である1層は暗褐色土で、下層である2層はにぶい黄褐色～褐色土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

12号土坑（第53図、写真図版32）

<位置・検出・重複関係> ⅧF5jグリッドに位置する。第IV層で検出したが、12号土坑が検出された周囲の土層は、耕作土直下第IV層であった。この区域は砂利敷農道新設予定箇所であり、埋蔵文化財への影響が比較的少ない工法によるものであるから、確認調査対象区域である。従って、遺構の半分を記録保存したものである。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面の平面形は楕円形である。遺構上面の規模は、長軸0.80×短軸0.74mであり、底面の規模は検出された部分で計測すると長軸0.60×短軸0.24mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmである。

<埋土> 単層で、炭化物を1%含む暗褐色土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

13号土坑（第53・78図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> VMF20u・20vグリッドに跨って位置し、第IV層で検出した。重複している遺構は11号溝で、土坑北西部側の埋土を削平しながら11号溝が構築されており、新旧関係は11号溝が13号土坑より古い。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも楕円形を示し、その規模は上面では長軸1.42×短軸1.24m、底面では長軸0.74×0.52mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で46cmである。

<埋土> 5層に分けられる。黒褐色～暗褐色土を主体とした埋土で、上層である1層、中層である2・3層、下層である5層には地山に由来するものと思われるにぶい黄褐色土粒が混入している。

<遺物> 55が出土している。55は縄文土器の深鉢胴部片であり、縄文が施されている。埋土の堆積状況から、混入したものと思われる。

時期 検出状況等から、構築時期は近世以降である。

14号土坑（第53・79図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> VMH14aグリッドに位置し、遺構の一部は調査区外に所在している。第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 検出された部分で判断すると、遺構上面及び底面とも平面形は楕円形であると思われる。遺構上面の規模は1.0×0.72m、底面は長軸0.38×短軸0.38mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で46cmである。

<埋土> 2層に分けられる。上層である1層、下層である2層とも黒褐色土で酸化鉄を含んでおり、1層が2層より多く含んでいる。1層にはウルシ塗りの木器のものと思われる赤い色素がまとまって見られたが、木器は残存していなかった。

<遺物> 56が出土している。56は砥石であり、磨面が片面しか見られないため、片面のみ砥石として利用されていたものと思われる。

時期 出土遺物等から、構築時期は近世である。

15号土坑（第53図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> VMF7aグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構は2・7～9号墓塚であり、15号土坑はこれらの墓塚より新しい。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも円形であり、遺構上面の規模は径2.42～2.32m、遺構底面の規模は径2.1m、検出面から遺構底面までの深さは最深部で28cmである。

<埋土> 2層に分けられ、粘土質の暗褐色～黒褐色粘土質シルトが堆積している。上層である1層には酸化鉄、グライ化した粘土質シルトが含まれ、下層である2層には灰黄褐色土、黒褐色土が含まれている。

<遺物> 出土していない。

時期 墓壇の詳細については後述するが、墓壇の大半は近世末に構築されたものと思われ、これらの墓壇の一部を改変して15号土坑は構築されていることから、本遺構の時期は近世末以降に構築されたものと思われる。

16号土坑（第54図、写真図版33）

<位置・検出・重複関係> W F 7 mグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面の平面形は楕円形で長軸1.12×短軸0.92mの規模であり、遺構底面はほぼ方形で0.7×0.6mの規模である。検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmである。

<埋土> 3層に分けられる。暗褐色～褐色土を主体とし、上層である1層には暗褐色砂質土、褐色粘土質シルトを含んでいる。2層は1層を50%、3層は1層を10%含む暗褐色～褐色土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

17号土坑（第54図、写真図版34）

<位置・検出・重複関係> W F 6 mグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも平面形は楕円形で、遺構上面の規模は長軸0.54×短軸0.42m、遺構底面の規模は長軸0.38×短軸0.28mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で24cmである。

<埋土> 2層に分けられる。1層は暗褐色土、2層は褐色土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

18号土坑（第54図、写真図版34）

<位置・検出・重複関係> W F 7 oグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はないが、遺構の一部に攪乱を受けた箇所がある。

<平面形・規模> 攪乱を受けた箇所があるものの、遺構上面及び底面とも楕円形で、遺構上面の規模は長軸0.62×短軸0.52m、遺構底面の規模は長軸0.42×短軸0.32mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmである。

<埋土> 単層である。暗褐色土を主体とした埋土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

19号土坑（第54図、写真図版34）

<位置・検出・重複関係> W F 5 oグリッドに位置し、第IV層で検出した。重複している遺構はない。

<平面形・規模> 遺構上面及び底面とも方形である。遺構上面の規模は0.84×0.84m、遺構底面の規模は0.58×0.58m、検出面から遺構底面までの深さは92cmである。遺構の断面形は箱形である。

<埋土> 3層に分けられる。暗褐色土を主体とした埋土で、各層とも褐色土を含んだ自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 遺物は出土していないものの、遺構の平・断面形、規模及び検出位置等、後述する近世に構築さ

れた墓塚に類似していることから墓塚であったと推測され、近世に属するものと思われる。

20号土坑（第54・79図、写真図版34）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧH14cグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。重複している遺構はないが、遺構の北端は調査区外である。

＜平面形・規模＞ 遺構北端部が調査区外に所在しているが、平面形は円形あるいは楕円形であると推測され、その規模は上面が長軸1.14×短軸0.9m、底面が長軸0.9×短軸0.7mであり、遺構検出面から底面までの深さは最深部で34cmである。

＜埋土＞ 3層に分けられる。上層である1層・下層である2層とも暗褐色土で、遺構壁際に堆積している3層は、地山が崩落した褐色土である。

＜遺物＞ 57が出土している。57は縄文時代の深鉢胴部片であるが、属する時期については不明である。時期 遺物が出土したものの、埋土及び検出状況等から近世に構築されたものと思われる。

21号土坑（第54・79図、写真図版35）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧG10fグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。重複している遺構はない。

＜平面形・規模＞ 遺構の平面形は上面及び底面とも円形である。その規模は上面で径1.86m、底面では径0.78～0.82mであり、検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmである。

＜埋土＞ 単層である。暗褐色土が堆積し、褐色の地山崩落土ブロック、礫が含まれている。

＜遺物＞ 58が出土している。58は無茎の石鏃である。58の他に土師器細片が埋土上面から出土したが、器面の摩滅が激しく、器種等が不明であったため図化しなかった。

時期 遺物は出土したが混入したものと思われるため、構築時期は不明である。

22号土坑（第55図、写真図版35）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧD19aグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。重複した遺構はないが、遺構の南端部は調査区外に所在している。

＜平面形・規模＞ 遺構南端部は調査区外ではあるが、遺構上面の平面形はほぼ円形で、径1.0mの規模であり、底面は楕円形で長軸0.74×短軸0.60mである。検出面から遺構底面までの深さは最深部で44cmである。

＜埋土＞ 3層に分けられ、1・2層とも暗褐色土主体の埋土で、3層は地山崩落土である。

＜遺物＞ 1層上面から土器細片が3点出土したが、いずれも摩滅が激しく、時期・器種等不明であるため、図化しなかった。

時期 遺物は出土したが混入したものと思われるため、構築時期は不明である。

23号土坑（第55図、写真図版35）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅧD18mグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。重複した遺構はないが、遺構の南半分は調査区外に所在している。

＜平面形・規模＞ 遺構の半分は調査区外に所在しているが、平面形は、遺構上面及び底面とも楕円形で、検出された部分で上面が1.76×0.96m、底面が1.16×0.90mの規模で、検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmである。

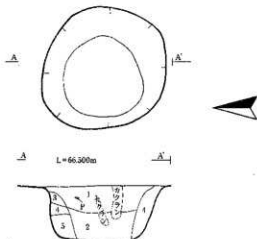
＜埋土＞ 4層に分けられ、黒褐色土を主体とした1・2層、遺構壁際の3・4層は暗褐色土である。

上層である1層、下層である2層とも炭化物粒を含むが、3・4層には含まれない。

<遺物> 出土していない。

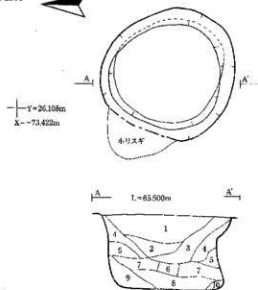
時期 構築時期は不明である。

1号土坑



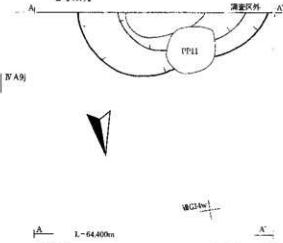
- A-A
- 10YR2/3 黒褐色土、やや砂質、粘性ややあり、しまりあり、径5mmの炭化物1%未満含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土、粘性・しまりあり、径10-15mmの炭化物1-2%含む。灰白色(10YR8/2)を径7-10mmの殻状で1%未満含む(0.5-1)。
 - 10YR4/4 褐色砂、粘性なし、しまりあり、暗褐色土(10YR3/3)5%含む。
 - 10YR4/4 褐色砂質土50%、10YR3/3 暗褐色土50%の混合土層、粘性ややあり、しまりあり、径7-10mmの炭化物1%未満含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土30%、10YR4/4 褐色土10%の混合土層、粘性ややあり、しまりあり、径5mmの炭化物1%未満含む。

3号土坑



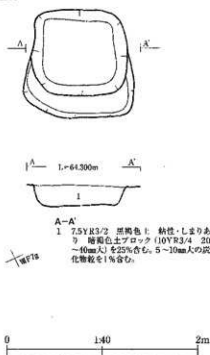
- A-A
- 10YR2/1 黒色土、粘性・しまりあり、暗褐色土(10YR3/4)10%混入。
 - 10YR2/1 黒色土、粘性・しまりあり。
 - 10YR2/2 黒褐色土、粘性・しまりあり、暗褐色土(10YR3/4)5%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土、粘性・しまりあり、暗褐色土(10YR3/4)10%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土、粘性・しまりあり、暗褐色土(10YR3/4)2-3%含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土1.60%、10YR3/4 暗褐色土1.40%の混合土層、粘性・しまりあり。
 - 10YR2/1 黒色土、粘性・しまりあり、暗褐色砂質土(10YR3/4)1-2%含む。
 - 10YR2/1 黒色土、粘性・しまりあり、径3mmの炭化物1%含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土、やや砂質、粘性・しまりあり。
 - 10YR4/4 褐色土、粘性・しまりあり、堆山崩壊土か。

2号土坑

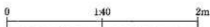


- A-A
- 10YR3/1 黒褐色土、粘性・しまりややあり、黒褐色土(10YR2/2)30%、に多い黒褐色土(10YR4/3)5%含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土、粘性・しまりややあり、黒褐色土(10YR2/2)50%含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土、粘性・しまりややあり、黒褐色土(10YR2/2)20%含む。
 - 10YR4/2 にごり灰黄褐色土、粘性ややあり、しまりあり、黒褐色土(10YR3/1)20%、黒褐色土(10YR2/2)30%含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土、に多い黄褐色土(10YR1/3)5%含む。
 - 10YR4/2 にごり灰黄褐色砂質土、粘性あり、しまりややあり、黒褐色土(10YR2/1)50%、黒褐色土(10YR3/2)10%含む。

4号土坑



- A-A
- 7.5YR3/2 黒褐色土、粘性・しまりあり、暗褐色土ブロック(10YR3/4)20-40mm大)を25%含む。5-10mm大の炭化物粒を1%含む。



第51図 1~4号土坑

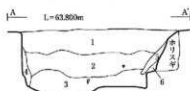
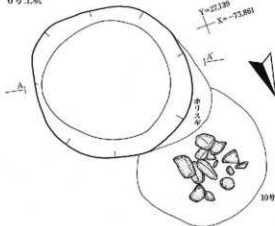
5号土坑



A-A'

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 砂質、水酸化鉄粒を20%含む、5mm大の炭化物粒を1%含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり 水酸化鉄粒を3%含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりあり 水酸化鉄粒を5%含む、5mm大の炭化物粒を1%含む。

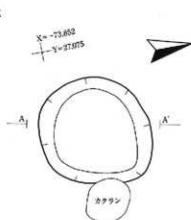
6号土坑



A-A'

- 1 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性なし、しまりあり 褐色土(10YR4/4 径5mm)、径5mmの炭化物1%未満、水酸化鉄3%含む。
- 2 2.5Y3/1 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり 暗褐色砂(10YR3/3)5%程度に含む、径5mmの炭化物1%未満含む。
- 3 5Y3/1 オリーブ黒色土 粘性・しまりあり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりあり 主に黄褐色土(10YR4/3)10%混合。
- 5 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性ややあり しまりなし 暗褐色砂(10YR3/3)3%含む。
- 6 10YR3/3 暗褐色土:90%、10YR4/3 主に黄褐色土:10%の混合土層、粘性あり しまりややあり

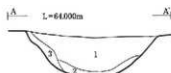
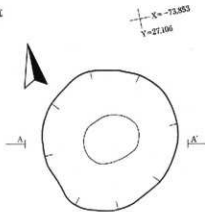
7号土坑



A-A'

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 2-10mm大の炭化物粒を25%含む。
- 10YR3/4 暗褐色土ブロック(20mm厚)を3%含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 20mm厚)を1%未満含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性強い しまりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 40mm厚)を1%未満含む。

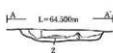
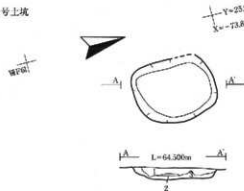
8号土坑



A-A'

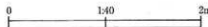
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性あり しまりややあり 主に黄褐色粘土(10YR4/3)5%、炭化物粒(1-2mm)3%含む。
- 10YR4/3 主に黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 褐色砂質土(10YR4/4)10%、暗褐色粘土質シルト(10YR3/3)50%含む。
- 10YR4/3 主に黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりあり 褐色砂質土(10YR4/4)10%、暗褐色粘土質シルト(10YR3/3)15%含む。

9号土坑

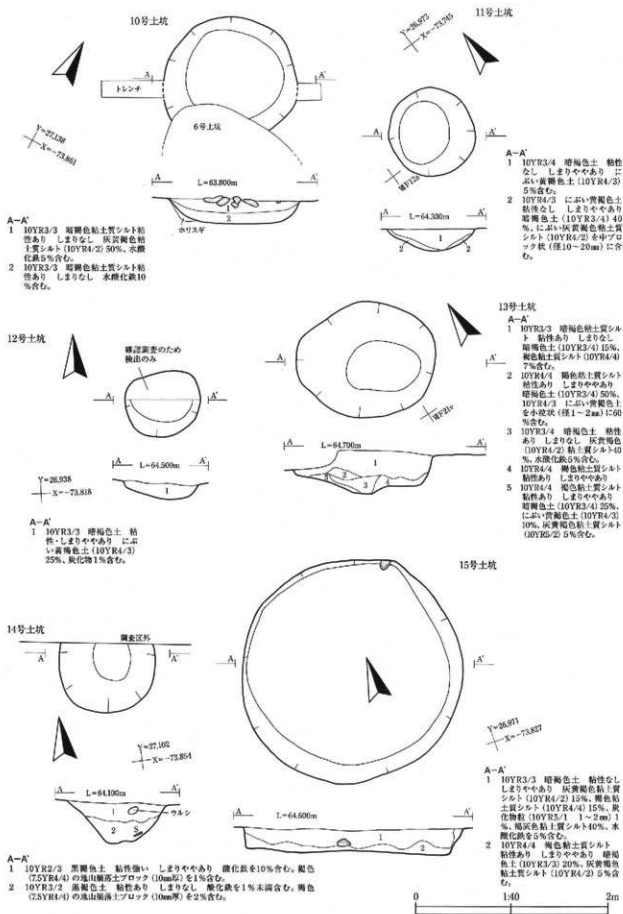


A-A'

- 1 3YR3/2 暗赤褐色土 粘性・しまりあり 褐色の地山崩落土(10YR4/4 径5-10mm大)の殻子で20%含む、暗赤褐色粘土板(5YR3/4 5-20mm大)を2%含む、遺物を含む。
- 2.5YR4/6 赤褐色土 粘性・しまりあり 2mm大の炭化物粒を1%未満含む。
- 7.5YR4/4 褐色土 粘性・しまりあり 暗赤褐色土ブロック(5YR3/2 20mm大)を1%含む。

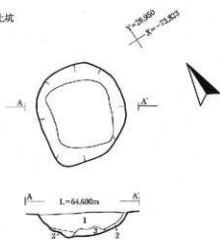


第52図 5～9号土坑



第53図 10~15号土坑

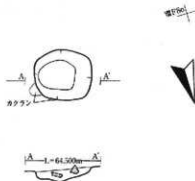
16号土坑



A-A'

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりややあり 暗褐色粘土質シルト (10YR3/4) 7%、炭化物粒 (2~5mm) 1%含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性ややあり しまりなし 暗褐色土 (10YR3/3) を50%含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性なし しまりあり 暗褐色土 (10YR3/3) を10%含む。

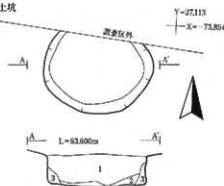
18号土坑



A-A'

- 1 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりあり 褐色砂質土 (10YR4/4) 10%含む。

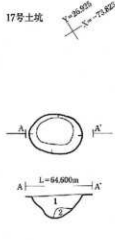
20号土坑



A-A'

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりややあり におい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) 2%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまりややあり におい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) 50%含む。
- 3 10YR4/3 におい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/3) 25%含む。

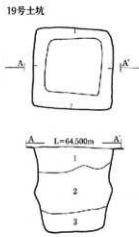
17号土坑



A-A'

- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりなし 褐色粘土質シルト (10YR4/4) 10%、炭化物 (2~5mm) 1%含む。
- 2 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/4) を25%含む。

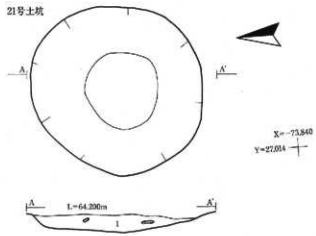
19号土坑



A-A'

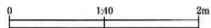
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を50%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性あり しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を5%含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり しまりなし 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を20%含む。

21号土坑



A-A'

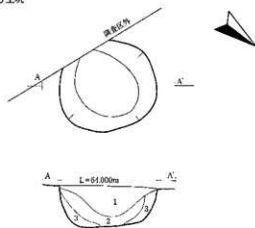
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い しまりあり 褐色の地山崩落土ブロック (7.5YR4/4 30mm大) を1%、10~100mm大の礫を1%含む。酸化鉄を1%、5mm大の炭化物粒を1%含む。遺物混入。



第54図 16~21号土坑

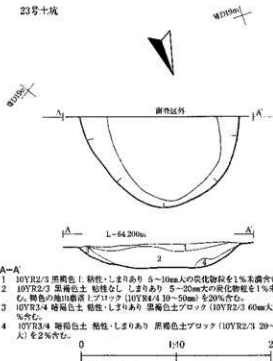
4 検出遺構と出土遺物

22号土坑



- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘付・しりあり 3mm次の炭化物粒を1%未満含む。褐色粘土ブロック(10YR4/6 30mm大)を1%未満含む。遺物を含む。
 - 2 10YR4/4 暗褐色土 粘付・しりあり 3mm次の炭化物粒を1%未満含む。
 - 3 10YR4/4 暗褐色土 粘付・しりあり 褐色(10YR5/6)の地山積層土を主体とし、暗褐色土ブロック(10YR3/3 50mm大)を7%含む。

23号土坑



- A-A'
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘付・しりあり 5~10mm次の炭化物粒を1%未満含む。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 粘付・しりあり 5~20mm次の炭化物粒を1%未満含む。
 - 3 10YR2/4 暗褐色土 粘付・しりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 60mm大)を15%含む。
 - 4 10YR3/4 暗褐色土 粘付・しりあり 黒褐色土ブロック(10YR2/3 20~30mm大)を2%含む。

第55図 22・23号土坑

(5) 溝 跡

調査区内で31条の溝跡を検出した。本調査区では完掘し、確認調査区では土層断面等確認のため、一部掘り下げた。各遺構の詳細は以下のとおりである。

1号溝跡 (第56・79図、写真図版36)

<位置・検出・重複関係> ⅧF7s~9sグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。遺構は調査区外まで延びるが、重複する遺構はない。遺構東壁の一部が攪乱を受けており、土層断面は攪乱の影響を受けていない箇所を確認した。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は長さ6.34m、上幅30~45cm、下幅13~25cmで、南南西から北北東方向にかけて直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で29cm、断面形は逆台形状である。底面両端部の高低差は3cmで、北北東側傾にわずかに傾斜する。

<埋土> 単層である。地山に由来する微量の褐色土が含まれた黒褐色土主体の自然堆積である。断面図にはないが、弥生時代の上器片が含まれていた層は遺構底面に堆積していた黒色土であった。

<遺物> 底面から59が出土した。59は高杯の台である。沈線で鋸歯文が描かれ、竹管による刺突文が施されている。弥生時代中期に属すると思われる。その他弥生時代の上器片が出土したが、図化に至らなかった。

時期 一部攪乱を受けてはいるが、遺物の出土状況等から弥生時代に構築されたものと思われる。

2号溝跡 (第56図、写真図版36)

<位置・検出・重複関係> ⅧG12mグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。遺構の東南端が調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ2.46m、上幅26~37cm、下幅14~21cmで、南南

西から北北東方向へほぼ直線を描いて延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で9cmで、断面形は半円状である。底面両端部の高低差は1cmとほぼ平坦である。

<埋土> 上層は暗褐色粘土質シルト、下層は黄褐色粘土質シルトの自然堆積の2層である。

<遺物> 埋土から土器細片が出土したが、時期・器種等不明であり図化に至らなかった。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

3号溝跡 (第56図、写真図版36)

<位置・検出・重複関係> W13x・13y・14x・14yグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。遺構は調査区外まで延びる。P P13・14と重複している。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ3.64m、上幅38～42cm、下幅23～27cmで、ほぼ南北方向へ直線状に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で15cmで、断面は皿状である。底面両端部の高低差は9cmで北端側が低い。

<埋土> 2層に分けられる。上層は暗褐色と黄褐色粘土質シルトの混合土層、下層は黄褐色粘土質シルトに微量の暗褐色粘土質シルトが混じる層である。自然堆積である。

<遺物> 土器細片が出土したが、時期・器種等不明であり図化に至らなかった。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

4号溝跡 (第57図、写真図版37)

<位置・検出・重複関係> W11p・2o・2p・3n・3o・4m・4n・5l・5m・6l・6m・7k・7lグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。2号住居跡と重複し、これを切る。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ27.8m、上幅56～104cm、下幅28～52cmで、北東方向から南西方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは10～21cmで、断面形はやや不整形の皿状である。底面両端部の高低差は18cmで南西端側に傾斜する。

<埋土> 暗褐色粘土質シルト主体の単層で、自然堆積である。

<遺物> 埋土から土器細片が出土したが、器面の摩滅が激しく図化に至らなかった。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

5号溝跡 (第57図、写真図版37)

<位置・検出・重複関係> W10k～10qグリッドにかけて位置し、第IV層で検出した。遺構は調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ23.1m、上幅31～85cm、下幅12～37cmで、東西方向へ直線状に延びる。一部が新旧二重の溝であるが、新旧関係は南側の溝が新しい。検出面から遺構底面までの深さは最深部で39cm、断面形は逆台形である。東端側にわずかに傾斜する。

<埋土> 旧溝跡の上層は、褐色土がわずかに混じった灰黄褐色土、下層は褐色土と灰黄褐色土の混合土が主に堆積しており、新溝跡の上層は黒褐色土、中層は灰黄褐色土、下層は褐色土に黒褐色土あるいは灰黄褐色土が混じった層である。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 埋土の状況から近代以降であると思われる。

6号溝跡(第58・79図、写真図版38)

<位置・検出・重複関係> W1G12f・12g・13f・13gグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ3.44m、上幅184～198cm、下幅40～86cmで、直線を指って南西から北東方向に延びる。検出面から遺構底面までの深さは70cm前後で、断面形は半円状である。底面両端部の高低差は15cmで、北東端側へ傾斜する。

<埋土> 5層に分けられるが、2層の暗褐色土が最も厚く堆積している。自然堆積である。

<遺物> 60・61が出土した。60は須臾器甕の頸部片、61は打製石斧である。

時期 遺物が出土したが流れ込みであり、検出状況等から近世以降であると思われる。

7号溝跡(第59図、写真図版38)

<位置・検出・重複関係> W1G16w・17v・17w・18vグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ8.40m、上幅30～38cm、下幅12～20cmで、南西から北東方向へ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で12cm、断面形は皿状である。底面の高低差は4cmで南西端側へ傾斜する。

<埋土> 暗褐色土と褐色土の混合土層で、混入割合から2層に分けた。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

8号溝跡(第58・79図、写真図版39)

<位置・検出・重複関係> W1G15q・15r・16r・16s・17s・17t・18tグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ15.48m、上幅86～136cm、下幅24～32cmで、南東から北西方向へ直線状に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で65cm、断面形は逆台形である。底面の高低差は4cmで、南東端側へ傾斜する。

<埋土> 4～5層に分けられる。暗褐色粘土質シルトに黄褐色粘土質シルトが混入し、下層ほど混入割合が高い自然堆積である。

<遺物> 62が出土した。62は磨石類で、磨面が各面とも見られる上に、表面及び裏面に敲打痕が見られる。62の他に土器細片が出土したが、時期・器種等不明で図化に至らなかった。

時期 遺物は出土したが流れ込みであると思われる。検出状況等から近世以降であると思われる。

9号溝跡(第59図、写真図版39)

<位置・検出・重複関係> W1G15o・16oグリッドに位置し、第IV層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ7.78m、上幅28～44cm、下幅14～22cmで、北北西から南南東方向に直線的に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で7cm、断面形は皿状である。底面の高低差は20cmで、南東端側へ傾斜する。

<埋土> 黒褐色土と黄褐色土の混合土の単層である。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

10号溝跡 (第60・79図、写真図版40)

<位置・検出・重複関係> 大グリッドⅧF、ⅧG、ⅧFに位置し(北東端ⅧG13c、南西端ⅧF71グリッド)、第Ⅳ層で検出した。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。16号溝、13号土坑と重複し、これらに切られている。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ101.90m、上幅30～85cm、下幅15～38cmで、南西から北東方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは13～23cmを測り、断面形は皿状である。底面は北東端側に緩やかに傾斜する。遺構南西側の一部は削平を受けていた。

<埋土> 上層は黒褐色土、下層は黒褐色土と褐色土あるいは黄褐色粘土との混合土である。

<遺物> 63～66が出土した。63～66とも弥生時代の浅鉢口縁部片であると思われる。63・65・66とも口唇部に沈線1条を有し、65は頂部にキザミ目が施された突起を有している。内面には、63～66いずれにも口縁部に沈線1条が施されている。いずれも弥生時代前期に属するものと思われる。これら以外にも弥生時代の土器片は出土したが、摩滅が激しく図化に至らなかった。

時期 弥生土器のみ出土したが流れ込みであると思われる。検出状況等から近世以降であると思われる。

11号溝跡 (第60・79図、写真図版40)

<位置・検出・重複関係> 大グリッドⅧF、ⅧG、ⅧFに位置し(北東端ⅧG13b・13c、南西端ⅧF30グリッド)、第Ⅳ層で検出した。北東端付近では3条に分岐しているが、3条のうち中央の溝が連続しており、その他2条の溝は中央の溝より古い。確認調査区と本調査区に跨り、一部調査区外まで延びる。16号溝、13号土坑と重複し、これらを切っている。

<規模・形態・方向> 調査区での規模は、長さ78.70m、上幅51～122cm、下幅29～67cmで、南西から北東方向に直線状に延びる。検出面から底面までの深さは8～24cmを測り、断面形は皿状である。底面は北東端側に緩やかに傾斜する。遺構南西側の一部は削平を受けていた。

<埋土> 2層に分けられる。暗褐色土主体の埋土で、上層は褐色土が微量に混入した層、下層は暗褐色土と褐色土の混合土層である。自然堆積である。

<遺物> 67が埋土下位から出土した。67は灰釉が施された陶器皿口縁部片で、推定製作地は瀬戸・美濃で、16世紀に属すると思われる。

時期 遺物の出土状況から近世であると思われる。

12号溝跡 (第59図、写真図版40)

<位置・検出・重複関係> ⅧF11v・12v・12w・13wグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。表土下の第Ⅲ層からの掘り込みは確認できなかった。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ8.16m、上幅47～58cm、下幅22～31cmで、南東から北北西方向にわずかに蛇行する。遺構検出面から底面までの深さは最深部で14cm、断面形は皿状である。遺構底面の高低差は19cmで、北北西端側に傾斜する。

<埋土> 暗褐色シルトに黄褐色粘土質シルトが混入した層が主体で、下層ほど黄褐色の混入割合が高く、4層に分けられる。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

13号溝跡 (第61図、写真図版39)

<位置・検出・重複関係> WF11pグリッドに位置し、表土下の第IV層で検出した。南端が調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ3.38m、上幅49～68cm、下幅24～45cmで、南南西から北北東方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは16cm、断面形は逆台形である。北北東側に向かって緩やかに傾斜する。

<埋土> 3層に分けられる。上層は暗褐色土と灰黄褐色粘土との混合土で、下層は黄褐色土と暗褐色土の混合土の自然堆積である。1～3層とも炭化物粒が含まれ、1層には酸化鉄も含まれている。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

14号溝跡 (第61図、写真図版41)

<位置・検出・重複関係> WF11t・12tグリッドに位置し、第IV層で検出した。第Ⅲb層から掘り込まれていることを調査区北側壁断面で確認したが、遺構の大半以上が擾乱を受けており、平面プランは南端部のみの検出であったため、平面図は推定線で遺構を表現した。北東端が調査区外に延びている。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ5.64m、上幅48～64cm、下幅43～58cmで、北東から南西方向へ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは14cm、断面形は皿状である。底面向端部の高低差は16cmで、南西側に傾斜する。

<埋土> 単層である。暗褐色土に微量の黄褐色土を含む層である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

15号溝跡 (第61図、写真図版41)

<位置・検出・重複関係> WF4n・4o・5m・5nグリッドに位置し、表土下のIV層で検出したが、一部削平を受けていたため、平面図では推定線で表現した。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 長さ9.05m、上幅26～48cm、下幅12～32cmの規模で、南西から北東方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で8cmと浅く、断面形は皿状である。底面向端部の高低差は7cmで、北東側に向かって緩やかに傾斜する。

<埋土> 自然堆積である。暗褐色粘土質シルトに微量の黄褐色粘土質シルトを含む単層である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

16号溝跡 (第61・79図、写真図版41)

<位置・検出・重複関係> WF18v～20vグリッドに位置し、第IV層で検出したが、擾乱のため、遺構が掘り込まれた土層は不明である。遺構北側は調査区外まで延びるが、南側は擾乱土を除去しても、調査区外まで延びていることは確認できなかった。水田造成等によって削平されたものと思われ

る。10・11号溝と重複し、10号溝を切り、11号溝に切られている。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ2.24m、上幅34～58cm、下幅18～30cmで、南北方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部に16cm、断面形はやや不整形の半円状である。遺構底面は北に向かって傾斜する。

＜埋土＞ 暗褐色粘土質シルトを主体とし、黄褐色粘土質シルトが混じる単層で、自然堆積である。

＜遺物＞ 68が出土した。68は弥生時代の深鉢胴部片であると思われる。

時期 弥生土器が出土したが流れ込みであると思われる。検出状況等から近世以降であると思われる。

17号溝跡（第62・80図、写真図版42）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅣF4e～4h・5h～5j・6j～6m・7m～7p・8p～8rグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。一部が削平されており、検出できなかった。4号溝、10号溝と重複し、これらに切られる。

＜規模・形態・方向＞ 調査区での規模は、長さ40.50m（削平部分も含む。）、上幅33～76cm、下幅22～43cmで、南東から北西方向に、わずかに蛇行しながらほぼ直線状に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部に24cmで、断面形はU字状である。遺構底面は北西側に向かって傾斜している。

＜埋土＞ 3層に分けられる。上～中層は暗褐色粘土質シルト主体の層で、下層はふい黄褐色粘土質シルト主体の層である。自然堆積である。

＜遺物＞ 69・70が埋土中から、71が埋土上面から出土した。69は弥生時代の壺の口縁部片で、口縁部内面に沈線1条が施されている。70は弥生時代の浅鉢の口縁部片である。71は土師器杯の口縁部片で、内面が黒色処理されている。

時期 出土状況等から古代以降に属するものと思われる。

18号溝跡（第62図、写真図版42）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅣD11i～17iグリッドに位置し、確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。第Ⅳ層で検出したが、遺構はⅢ層から掘り込まれている。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ17.25m、上幅66～86cm、下幅22～38cmで、ほぼ南北方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部に39cmで、断面形は逆台形である。底面両端部の高低差は47cmで、北端側に向かって傾斜している。

＜埋土＞ 黒褐色土主体の埋土で、褐色土との混入割合から3層に分けた。自然堆積である。

＜遺物＞ 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

19号溝跡（第62図、写真図版44）

＜位置・検出・重複関係＞ ⅣD11h・16i・17g・17hグリッドに位置し、表土下の第Ⅳ層で検出した。遺構は調査区外へ延びている。重複する遺構はない。

＜規模・形態・方向＞ 調査区内での規模は、長さ5.25m、上幅38～50cm、下幅16～28cmで、北東から南西方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部に14cmで、断面形は皿状である。両端部底面の高低差は8cmで、南西端側に傾斜している。

＜埋土＞ 黒褐色土主体の埋土で、褐色土との混入割合から2層に分けた。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

20号溝跡 (第63図、写真図版43)

<位置・検出・重複関係> VID18h・18i・19f～19hグリッドに位置し、第IV層で検出したが、遺構は表土下のⅢ層から掘り込まれている。遺構は確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。21号溝と重複し、これに切られる。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ10.08m、上幅54～70cm、下幅25～38cmで、西南西端からはほぼ直線を描いて、重複箇所を境に東方向に屈曲しながら延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmで、断面形は半円状である。遺構底面の高低差は15cmで、東側に傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。上層は暗褐色土を主体とし、下層は暗褐色土と黄褐色土・黒褐色土との混合上層の2層に分けられる。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から古代以降であると思われる。

21号溝跡 (第63・80図、写真図版43)

<位置・検出・重複関係> VID18h～20hグリッドに位置し、第IV層で検出したが、遺構は表上下のⅢ層から掘り込まれている。遺構は確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びている。20号溝と重複し、これを切る。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ7.36m、上幅76～94cm、下幅28～36cmで、南北方向に直線的に延びている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で49cmで、断面形は逆台形である。遺構底面の高低差は14cmで、南端側に傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。暗褐色粘土質シルトに黄褐色粘土質シルトが混入した埋土で、黄褐色粘土質シルトの混入割合で3層に分けられる。

<遺物> 72・73が出土した。72は弥生時代の浅鉢の口縁部片で、口唇部に頂部に刻み目のある突起を有し、内面口縁部には沈線状の段が見られる。73は弥生時代の深鉢の頸部片である。その他土師器細片が出土したが、器種等不明で図化に至らなかった。

時期 検出状況等から古代以降であると思われる。

22号溝跡 (第63図、写真図版44)

<位置・検出・重複関係> VA8m・8n・9m・9nグリッドに位置し、第IV層で検出した。遺構は調査区外へ延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ2.84m、上幅46～62cm、下幅33～45cmで、ほぼ東西方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で9cmで、断面形は皿状である。遺構底面の高低差は6cmで、西端側にわずかに傾斜している。

<埋土> 暗褐色粘土質シルトにふい黄褐色粘土質シルトをわずかに含む層である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

23号溝跡 (第64図、写真図版44)

<位置・検出・重複関係> VIC13w～15wグリッドに位置し、第IV層で検出したが、検出時にプランが明瞭ではなかったために掘り下げ過ぎてしまい、大部分は遺構底面での検出となった。遺構は表土下の第Ⅲ層から掘り込まれていた。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ8.82m、上幅23～44cm、下幅17～22cmで、南南東から北方向へ緩やかな弧を描いて延びている。残存部分ではあるが、検出面から遺構底面までの深さは最深部で41cmで、断面形はU字状である。遺構底面は南南東に向かって傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。暗褐色土に褐色土が混入した土層で、混入割合から4層に分けられる。下層ほど褐色土の混入割合が高い。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

24号溝跡 (第64図、写真図版45)

<位置・検出・重複関係> VIC8o～10oグリッドに位置し、第IV層で検出したが、検出時にプランが明瞭ではなかったために掘り下げ過ぎてしまったため、平面図では推定線で表現した。遺構は表土下の第Ⅲ層から掘り込まれていた。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ6.72m、上幅28～84cm、下幅28～44cmで、南西から北東方向にほぼ直線状に延びている。残存部分ではあるが、検出面から遺構底面までの深さは最深部で46cmで、断面形はU字状である。遺構は北東側に向かって緩やかに傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。暗褐色土に褐色砂質土が混入した土層で、混入割合から4層に分けられる。最下層はさらに灰黄褐色粘土質土がわずかに混じる。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

25号溝跡 (第65図、写真図版45)

<位置・検出・重複関係> VIC2f・2g・3fグリッドに位置し、第IV層で検出した。表土下の第Ⅲ層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。遺構は確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はないが、26号溝と並行している。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ6.94m、上端幅28～37cm、下端幅15～28cmで、南西から北北東方向に緩やかなS字カーブを描いている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で26cmで、断面形はU字状である。遺構底面の高低差は25cmで、北北東側に傾斜している。

<埋土> 自然堆積の2層で、上層が暗褐色土主体、下層が暗褐色土と黄褐色土の混合土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

26号溝跡 (第65図、写真図版45)

<位置・検出・重複関係> VIC1g・2f・2g・3fグリッドに位置し、第IV層で検出した。表土下の第Ⅲ層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。遺構は確認調査区と本調査区に

跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はないが、25号溝と並行している。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ7.02m、上幅17～27cm、下幅9～14cmで、南西から北北東方向に緩やかなS字カーブを描いている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で17cmで、断面形は半円状である。遺構底面の高低差は17cmで、北北東側に傾斜している。

<埋土> 自然堆積の2層で、上層が暗褐色土主体、下層が暗褐色土と黄褐色土の混合土である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

27号溝跡（第65図、写真図版46）

<位置・検出・重複関係> VB16hグリッドに位置し、第Ⅲb層で検出したが、遺構は表土下の第Ⅲa層から掘り込まれ、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ2.96m、上幅21～28cm、下幅10～17cmで、北東から南西方向へ緩やかな弧を描いている。検出面から遺構底面までの深さは最深部で6cmで、断面は浅く、箱状の断面形である。遺構底面両端部の高低差は3cmで、南西端側にわずかに傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。微量の黄褐色土を含む黒褐色土の単層である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

28号溝跡（第65図、写真図版46）

<位置・検出・重複関係> VC6hグリッドに位置し、表土下の第Ⅳ層で検出した。遺構は調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ2.98m、上幅34～49cm、下幅19～27cmで、南南西から北北東方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で6cmで、断面は浅く、皿状の断面形である。遺構底面両端部の高低差は17cmで、南南西端側に傾斜している。

<埋土> 自然堆積である。暗褐色土とにぶい黄褐色土との混合上層である。

<遺物> 出土していない。

時期 検出状況等から近世以降であると思われる。

29号溝跡（第66図、写真図版46）

<位置・検出・重複関係> VB7m～7o・8n～8pグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。表上下の第Ⅲa層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。確認調査区と本調査区に跨り、調査区外まで延びる。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ14.08m、上幅34～40cm、下幅12～20cmで、西北西から東南東方向に、一部わずかに蛇行しながら全体的には直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で18cmで、断面形は半円状である。遺構底面の高低差は21cmで、東南東側に傾斜している。

<埋土> 暗褐色土に微量の黄褐色土が混入した単層である。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 不明である。

30号溝跡（第66図、写真図版47）

<位置・検出・重複関係> ⅧC2b・3b・3c・4c・4dグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。表土下の第Ⅲa層からの掘り込みについては不明瞭で確認できなかった。遺構は調査区外まで延び、31号溝と重複し、これを切る。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は、長さ7.66m、上幅32～43cm、下幅17～29cmで、南東から北西方向にほぼ直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で28cmで、断面形は箱状である。遺構底面は北西に向かって傾斜している。

<埋土> 暗褐色土と褐色土の混合土を主体とし、下層ほど褐色土の混入割合が高い。混入割合で5層に分けた。自然堆積である。

<遺物> 土器細片が出土したが、時期・器種等不明で図化に至らなかった。

時期 構築時期は不明である。

31号溝跡（第66図、写真図版47）

<位置・検出・重複関係> ⅧC3b・3cグリッドに位置し、第Ⅳ層で検出した。表土下の第Ⅲa層からの掘り込みについては確認できなかった。遺構は調査区外まで延び、30号溝と重複し、これに切られる。

<規模・形態・方向> 調査区内での規模は長さ4.44m、上幅27～41cm、下幅14～27cmで、北東から南西方向に直線状に延びる。検出面から遺構底面までの深さは最深部で15cmで、断面形は皿状である。底面両端部の高低差は16cmで、南西端側に傾斜している。

<埋土> 黒褐色土に黄褐色土が混入した単層である。自然堆積である。

<遺物> 出土していない。

時期 構築時期は不明である。

(6) 柱穴状土坑（第8表、第67・68・80図）

<調査方法・経過>65個を検出した。検出された柱穴状土坑は、すべて本調査対象区域にあたっていたため、完掘した。P P 3～65は特定の区域に集中して検出されたが、孤立柱建物跡等を構成するような柱穴の並びは、今回の調査区内では確認できなかったため、すべて柱穴状土坑として報告することとした。柱痕の有無及び規模、他遺構との重複関係については、第8表に記述している。柱痕が確認された柱穴状土坑は18個であるが、検出面で柱痕が確認できない状態で、掘り下げて柱痕が判明した遺構については、同表備考欄に「柱痕、図なし」と記述してある。

<位置・検出> P P 1はⅧD19pグリッド、P P 2はⅧG11jグリッド、P P 3～55はⅧG13t・14t～14yとⅧH14a・15aグリッド、P P 56～65はⅧH14c・14d・15c・15dグリッドにそれぞれ位置し、いずれも第Ⅳ層で検出された。

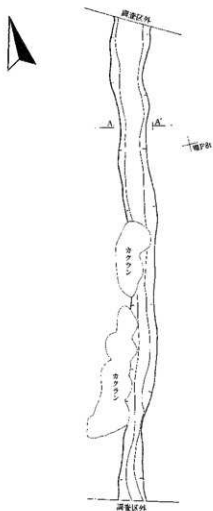
<遺物> P P 1・P P 38・P P 46の3個から遺物が出土した。P P 1から74が出土した。74は土製品であるが、用途不明である。表面は型押しで成形され、裏面は調整せずに指圧痕そのままである。製作方法等から近世以降に属するものと思われる。P P 38から75が出土した。75は弥生時代前期に属する浅鉢の口縁部片であるが、出土状況から流れ込みであると思われる。なお、P P 46出土の上器片については、器面の摩滅が激しく器種及び時代は不明瞭であったため、掲載しなかった。

時期 柱穴状土坑は、埋土の状況等からいずれも近世以降に構築されたものと考えられる。

第8表 柱穴状土坑観察表

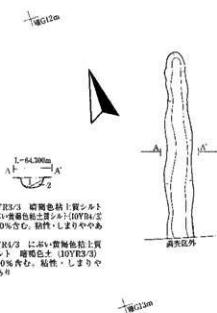
PP No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面標高 (m)	柱穴径 (cm)	備考	PP No	径 (cm)	深さ (cm)	検出面標高 (m)	柱穴径 (cm)	備考
1	29 × 28	37	63.836			34	38 × 31	28	64.058		
2	47 × 46	50	64.005	28	柱痕、円なし	35	54 × 49	41	64.003		3号溝と重複
3	42 × 24	21	63.982			36	29 × 28	14	64.046		3号溝と重複
4	36 × 25	21	64.097			37	29 × (20)	18	64.069		
5	52 × 33	21	64.142			38	29 × (36)	36	64.086		
6	34 × 26	25	64.103	27		39	35 × 34	18	64.093		
7	28 × 25	23	64.082			40	36 × 31	21	64.070		
8	49 × 43	38	64.153	16	柱痕、円なし	41	40 × 31	20	64.068	18	柱痕、円なし
9	41 × 41	34	64.117			42	39 × 37	21	64.069		
10	30 × 27	16	64.075			43	37 × 36	60	64.040		
11	38 × 36	56	64.123			44	38 × 33	22	64.040		
12	43 × 34	23	64.113			45	59 × 53	61	64.023	19	柱痕、円なし
13	35 × (26)	31	64.089	15	柱痕、円なし	46	47 × 45	52	64.042	18	
14	39 × 35	19	63.954	23	柱痕、円なし	47	37 × 35	40	64.052		
15	36 × 30	16	64.068	12	柱痕、円なし	48	33 × 31	25	64.119		
16	26 × 25	16	63.902			49	36 × 34	18	64.048	21	柱痕、円なし
17	53 × 52	41	63.972	20	柱痕、円なし	50	52 × 43	75	64.105		
18	52 × 46	26	64.075	17	柱痕、円なし	51	34 × 32	49	63.985		
19	33 × 30	23	64.034			52	39 × 33	26	63.963		
20	50 × 48	29	64.137		2号土坑と重複	53	40 × 28	40	64.020		
21	25 × 25	19	64.064			54	46 × 36	24	63.953		
22	57 × 53	37	64.095			55	41 × 41	7	63.938		
23	34 × 32	21	64.094			56	37 × 33	21	63.974		
24	38 × 33	45	64.137			57	29 × 28	23	63.817		
25	46 × 44	38	64.112	18		58	46 × 41	37	63.804		
26	31 × 27	18	64.135			59	48 × 46	23	63.643	22	柱痕、円なし
27	31 × 28	25	64.108	20	柱痕、円なし	60	27 × 26	59	63.872		
28	42 × 39	19	64.079			61	26 × 25	14	63.709		PP62と重複
29	59 × 56	33	64.100	24		62	57 × 56	18	63.648		PP61と重複
30	34 × 33	16	64.032			63	34 × 26	26	64.545		20号土坑と重複
31	51 × 49	33	64.035	21		64	48 × 41	18	63.616		
32	55 × 48	47	64.083	18	柱痕、円なし	65	36 × 36	29	63.700		
33	34 × 32	54	64.077								

1号溝



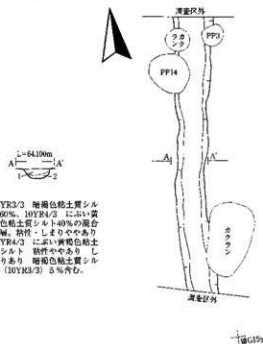
- A-A'
- 7.5YR3/2 黄褐色土 粘性ややあり
しまりあり 褐色の塚山遺存土アロ
ック(7.5YR4/4 20mm厚)を1%含
む。

2号溝

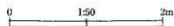


- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト
に黄褐色粘土質シルト(10YR4/3
を20%含む。粘性・しまりややあ
り)
 - 10YR4/3 黄褐色粘土質
シルト 暗褐色土(10YR3/3)
を10%含む。粘性・しまりや
やあり

3号溝

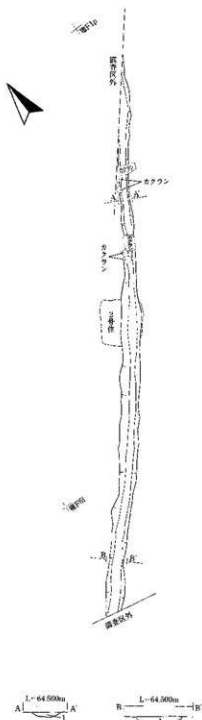


- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト
60%、10YR4/3 に黄
褐色粘土質シルト40%の混
合土層。粘性・しまりややあり
 - 10YR4/3 に黄褐色粘土
質シルト 粘性ややあり し
まりあり 暗褐色粘土質シル
ト(10YR3/3)を5%含む。



集56図 1～3号溝

4号溝



A-A', B-B'

- 1 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性なし しまりあり におい黄褐色粘土質シルト(10YR4/3)を10%含む。



5号溝



A-A'

- 1 10YR3/2 灰青褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4)を10%含む。
- 2 10YR4/4 褐色土 粘性1.70%、10YR3/2 灰青褐色土30%の混合土。粘性、しまりあり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4)を3-5%含む。
- 4 10YR4/4 褐色土 やや砂質 粘性なし しまりあり 灰青褐色土(10YR4/2)を3%含む。

溝F11m



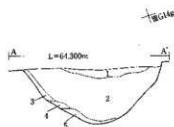
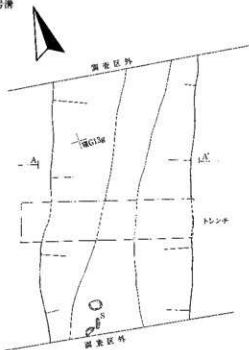
B-B'

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4)を1-2%含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4)を10-15%含む。
- 3 10YR4/2 灰青褐色土 粘性あり しまりややあり 褐色土(10YR4/4)を10%含む。
- 4 10YR4/4 褐色土50%、10YR3/2 黒褐色土50%の混合土。粘性、しまりあり
- 5 10YR4/2 灰青褐色土50%、10YR4/4 褐色土50%の混合土。粘性なし しまりあり
- 6 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4)を2-3%含む。
- 7 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 褐色土(10YR4/4)を5%含む。
- 8 10YR4/4 褐色土60%、10YR3/2 黒褐色土40%の混合土。粘性ややあり しまりあり

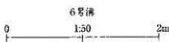


第57図 4・5号溝

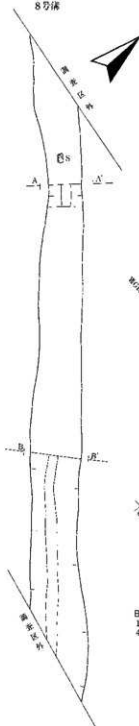
6号溝



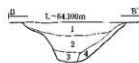
- A-A'
- 1 10YR3/1 暗褐色土30%、10YR1/1 褐色土50%の混合土、粘性なし、しまりあり
 - 2 10YR3/1 暗褐色土 粘性なし、しまりややあり
 - 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性なし、しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/1) を10%含む。
 - 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり、しまりなし
 - 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土、粘性・しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/1) を20%含む。



8号溝



- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし、しまりあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を1%含む。
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性ややあり、しまりなし にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を5%含む。
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を15%含む。
 - 4 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を25%含む。
 - 5 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/3) を30%含む。



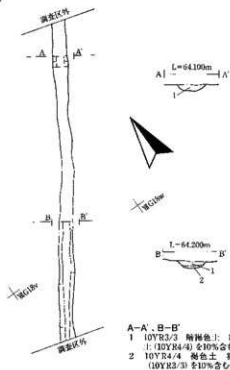
- B-B'
- 1-3 A-A'に同じ。
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 暗褐色粘土質シルト (10YR3/3) を30%含む。



第58図 6・8号溝

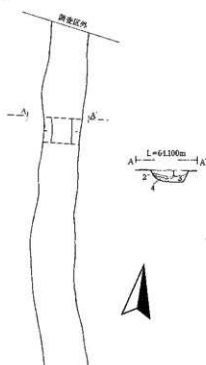
4 検出遺構と出土遺物

7号溝



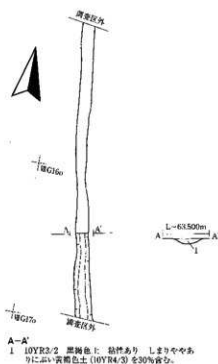
- A-A', B-B'
- 1 10YR2/3 暗褐色土: 粘性なし しまりあり 腐色土 (10YR4/4) を10%含む。
 - 2 10YR4/4 褐色土: 粘性・しまりあり 暗褐色土 (10YR2/3) を10%含む。

12号溝

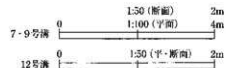


- A-A', B-B'
- 1 10YR2/4 暗褐色シルト: 粘性・しまりなし にふい青褐色粘土質シルト (10YR4/3) を5%含む。
 - 2 10YR2/3 暗褐色シルト: 粘性・しまりやあり にふい青褐色粘土質シルト (10YR4/3) を15%含む。
 - 3 10YR2/3 暗褐色シルト: 粘性・しまりやあり にふい青褐色粘土質シルト (10YR4/3) を30%含む。
 - 4 10YR4/3 にふい青褐色粘土質シルト: 粘性あり しまりやあり 暗褐色シルト (10YR2/3) を10%含む。

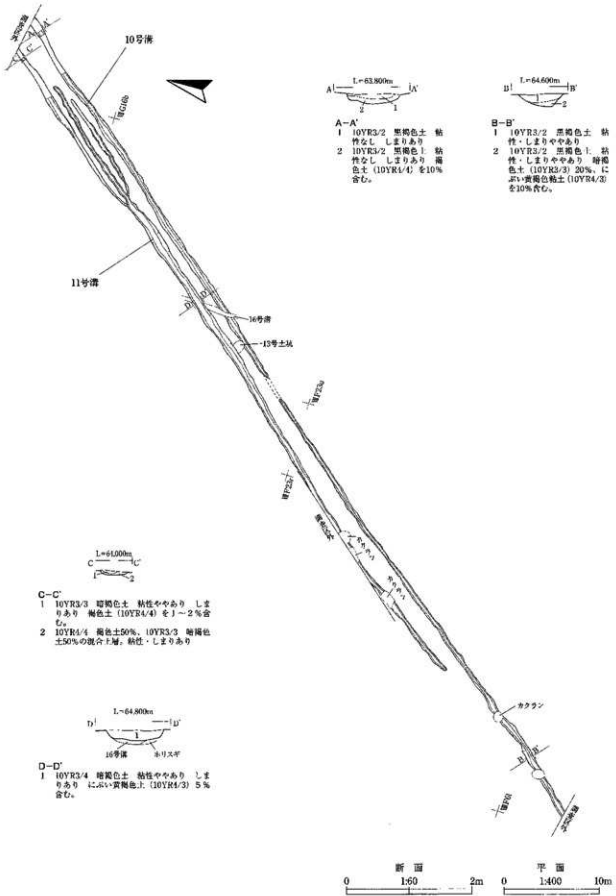
9号溝



- A-A'
- 1 10YR2/2 黒褐色土: 粘性あり しまりやあり にふい青褐色土 (10YR4/3) を30%含む。

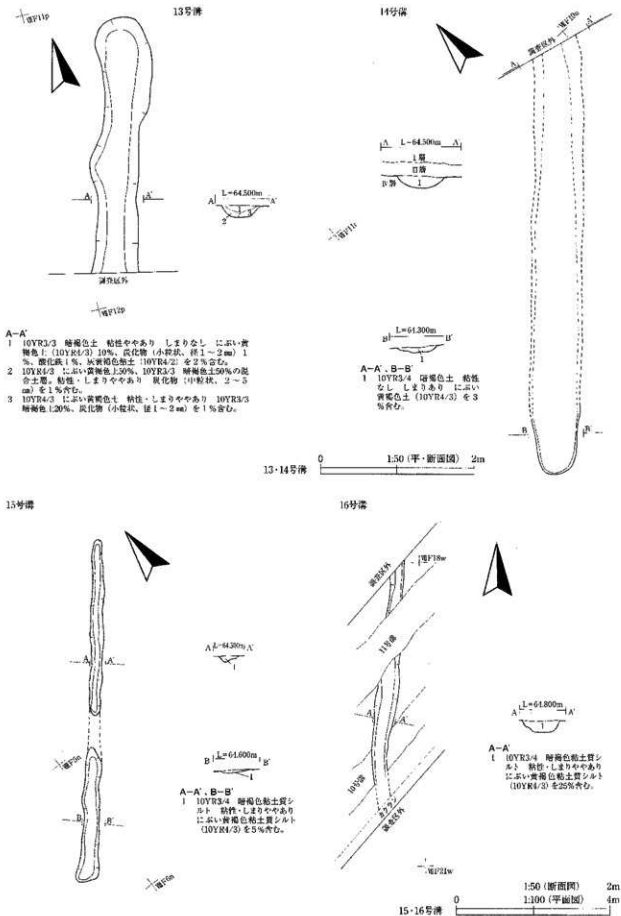


第59図 7・9・12号溝



第60図 10・11号溝

4 検出遺構と出土遺物



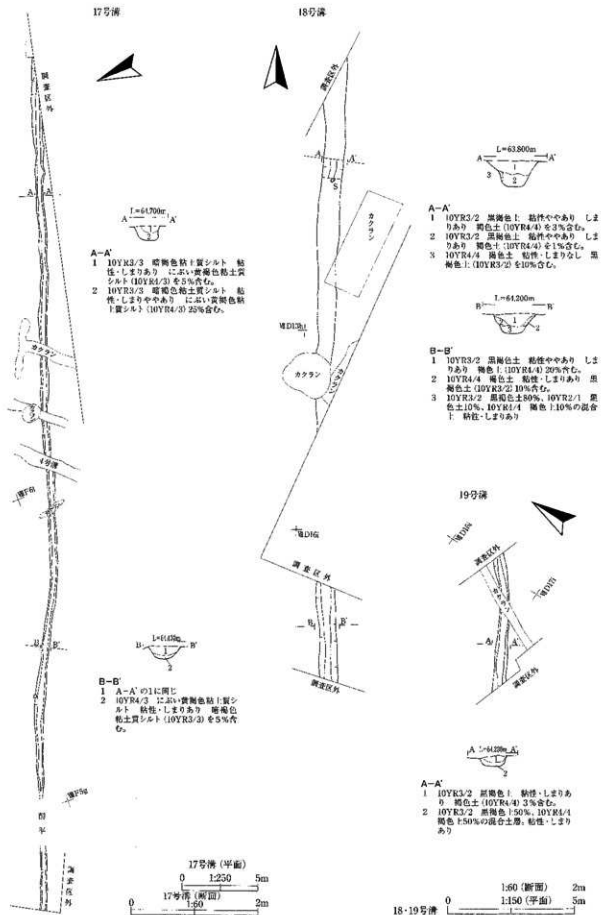
- A-A'
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性ややあり しまりなし にふい黄褐色土 (10YR4/3) 10%、炭化物 (小粒状、径1~2mm) 1%、酸化鉄1%、灰黄褐色土 (10YR4/2) を2%含む。
 - 10YR4/3 にふい黄褐色土50%、10YR3/3 暗褐色土50%の混合土層。粘性・しまりややあり 炭化物 (中粒状、2~3mm) を1%含む。
 - 10YR4/3 にふい黄褐色土 粘性・しまりややあり 10YR3/3 暗褐色土20%、炭化物 (小粒状、径1~2mm) を1%含む。

- A-A', B-B'
- 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり にふい黄褐色土 (10YR4/3) を3%含む。

- A-A', B-B'
- 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にふい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を3%含む。

- A-A'
- 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にふい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を25%含む。

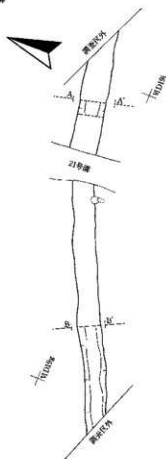
第61図 13~16号溝



第62図 17～19号溝

4 検出遺構と出土遺物

20号溝

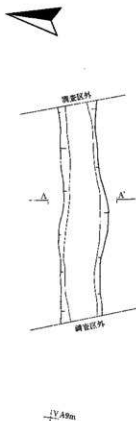


- A-A'
- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし しまりあり
 - 2 10YR3/3 暗褐色土50%、10YR4/3 にぶい黄褐色土40%、10YR3/2 黒褐色土10%の混合土層、粘性・しまりややあり



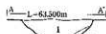
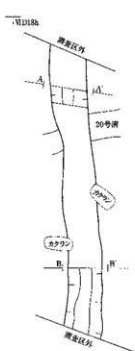
- B-B'
- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性ややあり しまりあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) を25%含む。
 - 2 A-A'の2に同じ

22号溝



- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3) を10%含む。

21号溝



- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし、しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を2%含む。
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし、しまりあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を5%含む。
 - 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を10%含む。

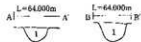
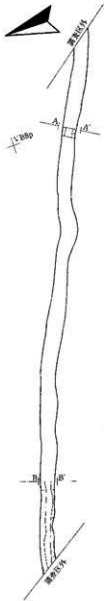


- B-B'
- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性なし しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を2%含む。
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまりややあり 褐色粘土質シルト (10YR4/4) を10%含む。



第63図 20~22号溝

29号溝



29号溝

A-A'、B-B'

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまり・しまりややあり にぶい黄褐色土 (10YR4/3) を5%含む。

30号溝

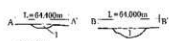
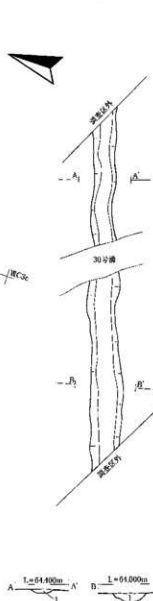


30号溝
B-B'
A A' の1-3に同じ。

30号溝

- A-A'
- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりややあり 褐色土 (10YR4/6) 5%、黒褐色土 (10YR2/2) 2%を含む。
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性・しまりややあり 褐色土 (10YR4/6) を10%含む。
 - 3 10YR3/4 暗褐色土50%、10YR4/6 褐色土50%の混合土。粘性あり しまりややあり。
 - 4 10YR4/6 褐色土 粘性・しまりあり 暗褐色土 (10YR3/4) を2%含む。

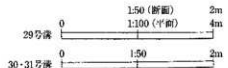
31号溝



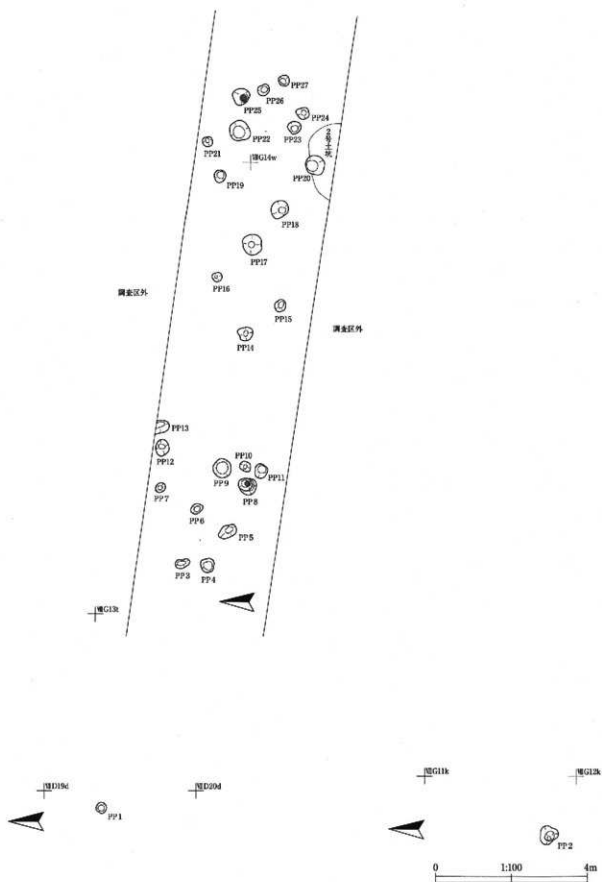
31号溝

A-A'、B-B'

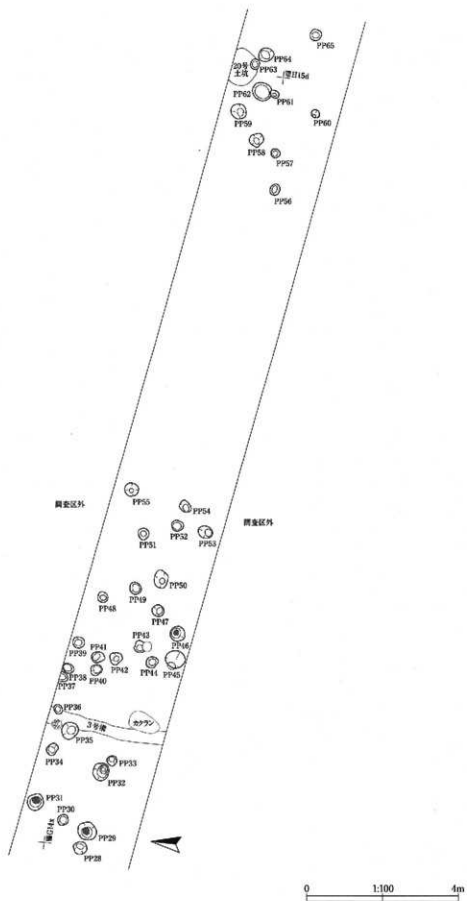
- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性・しまりあり 黄褐色土 (10YR4/3) 10%含む。



第66図 29~31号溝



第67図 柱穴状土坑(PP1~27)



第68図 柱穴状土坑 (PP28~65)

(7) 墓 墳

WF6r・7r・7sグリッドで16基検出した。当該区域は、排水路敷設及び切土予定田面にあたり、発掘調査対象区域である。遺構検出後に掘り下げたところ、近世に属する遺物を伴った人骨が埋められているのを確認したこと、似たような平面プランを持つ遺構が複数検出されたことなどから、当該区域は墓域として使われた場所であると推測し、調査を行った。墓墳が検出された区域の土層は、耕作上直下が第IV層であることから、水田造成等による地形改変を大きく受けたものと思われ、墓墳の残存状況は良好ではなかった。この区域において、人骨及び遺物が出土した墓墳と同様の平面形及び規模を有する遺構は、墓墳と見なし報告することとした。墓墳から出土した遺物の一覧は、第9表に記している。

1号墓墳 (第69・80図、写真図版48)

<位置・検出・重複関係> WF6rグリッドに位置する。4・15号墓墳と重複し、切られている。
 <規模・形態・方向> 開口部径1.10×0.88m、深さ34cmの規模である。平面形はやや平行四辺形ぎみの長方形で、長軸方向は北西-南東である。
 <人骨・埋葬状況> 頭蓋骨、四肢骨らしき部位が出土した。検出状況から、頭部を北に横臥姿勢で埋葬されたと考えられる。
 時期 出土遺物から18世紀前半に属するものと思われる。

2号墓墳 (第70図、写真図版48)

<位置・検出・重複関係> WF7rグリッドに位置する。15号土坑・7号墓墳と重複し、7号墓墳を切り、15号土坑に切られている。7号墓墳との新旧関係を確認する目的で重複箇所を掘り下げ過ぎたため、上端線は推定線で表現した。
 <規模・形態・方向> 開口部径1.22×0.91m、深さ34cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北西-南東である。
 <人骨・埋葬状況> 頭蓋骨の一部と四肢骨が出土した。四肢骨の遺存状態は良好であった。検出状況から、頭部を南東に、横臥姿勢で埋葬されたとされる。
 時期 重複する墓墳の出土遺物から18世紀後半以降に属するものと思われる。

3号墓墳 (第70・80図、写真図版48)

<位置・検出・重複関係> WF7sグリッドに位置する。16号墓墳と重複し、これを切る。
 <規模・形態・方向> 開口部径1.01×0.83m、深さ28cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北北東-南南西である。
 <人骨・埋葬状況> 歯数本、小骨片が出土した。歯の検出位置から、頭部を北に向けて埋葬されたと考えられる。
 時期 出土遺物から18世紀前半～19世紀後半に属するものと思われる。

4号墓墳 (第70図、写真図版48)

<位置・検出・重複関係> WF6q・6rグリッドに跨って位置する。墓墳の大半が1号墓墳と重複し、切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.12×1.06m、深さ28cmである。長軸方向は北西-南東である。墓壇の残存部分から、長方形状であると思われる。

時期 人骨・遺物は出土しておらず明確な時期は不明であるが、重複する墓壇の出土遺物から18世紀前半以前であると思われる。

5号墓壇 (第71図、写真図版48)

<位置・検出・重複関係> ⅧF7r・8rグリッドに跨って位置する。重複する遺構はない。

<規模・形態・方向> 開口部径0.88×0.64m、深さ11cmの規模である。墓壇の残存状況は良好ではなく、大部分が削平されている。長軸方向は北西-南東で、平面形は長方形状である。

時期 重複する墓壇はなく、人骨・遺物も出土していないため、不明である。

6号墓壇 (第71図、写真図版48)

<位置・検出・重複関係> ⅧF6r・7rグリッドに跨って位置する。11・13号墓壇と重複し、これらを切る。検出の際、11号墓壇との新旧関係を確認する目的で重複箇所を掘り下げ過ぎてしまったため、上端線は推定線で表現した。

<規模・形態・方向> 開口部径1.08×0.70m、深さ15cmの規模である。残存状況は良好ではなく、墓壇の大部分が削平されている。長軸方向は北西-南東で、平面形は長方形状である。

時期 人骨・遺物は出土しておらず明確な時期は不明であるが、重複する墓壇の出土遺物から19世紀以降に属するものと思われる。

7号墓壇 (第71・80図、写真図版49)

<位置・検出・重複関係> ⅧF7rグリッドに位置する。15号土坑・2号墓壇と重複し、切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.10×0.92m、深さ28cmの規模である。長軸方向は北北東-南南西で、墓壇の残存部分から平面形は長方形状であると思われる。

<出土人骨・埋葬状況> 頭蓋骨、四肢骨が比較的良好に出土し、顔面を西に向けながら、頭部を北東方向にした横臥姿勢で埋葬されている。

時期 出土遺物から17世紀前半以前に属するものと思われる。

8号墓壇 (第71・80図、写真図版49)

<位置・検出・重複関係> ⅧF7rグリッドに位置する。15号土坑、9・10号墓壇と重複し、15号土坑に切られ、9・10号墓壇を切っている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.10×0.90m、深さ38cmの規模である。平面形はやや丸みを帯びた方形で、長軸方向は北北東-南南西である。

<出土人骨・埋葬状況> 座位埋葬されたものと思われ、中央部から出土した頭蓋骨の顔面側は下を向き、四肢骨がこれを囲むような形で出土した。

時期 出土遺物から17世紀前半～19世紀に属するものと思われる。

9号墓壇 (第72図、写真図版49)

<位置・検出・重複関係> ⅧF7rグリッドに位置する。墓壇の北東側は8・10号墓壇に切られ、東南側は15号墓壇に切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.35×0.98m、深さ26cmの規模である。平面形は残存している部分から、平面形は長方形であると思われる、長軸方向は北東-南西である。

<出土人骨・埋葬状況> 西向きで埋葬された頭蓋骨のみ出土した。頭蓋骨以外の人骨が出土しなかったのは、8号墓壇を掘削した際に9号墓壇の骨が失われたものと思われる。

時期 重複する墓壇の出土遺物から17世紀前半以前に属すると思われる。

10号墓壇 (第72・80図、写真図版49)

<位置・検出・重複関係> ⅣF6・7rグリッドに跨って位置する。重複関係は複雑で、8号墓壇に切られ、9・11・12・15号墓壇を切っている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.04×0.66m、深さ16cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北東-南西である。

<出土人骨> 北東方向を向いた頭蓋骨と部位不明の骨が出土した。

時期 出土遺物から17世紀後半に属すると思われる。

11号墓壇 (第72・80図、写真図版49)

<位置・検出・重複関係> ⅣF6r・7rグリッドに跨って位置する。重複関係は複雑で、6・10号墓壇に切られ、12～14号墓壇を切っている。

<規模・形態・方向> 開口部径0.82×0.66m、深さ44cmの規模である。開口部はやや不整な形状であるが、底面は方形である。

<人骨> 人骨片が少量出土したが、小片であるため部位は不明である。

時期 出土遺物から17世紀前半～19世紀に属するものと思われる。

12号墓壇 (第72・80図、写真図版50)

<位置・検出・重複関係> ⅣF6rグリッドに位置する。10・11・13～15号墓壇と重複しているが、10・11・13・14号墓壇との切合については、検出段階でのプランが不明瞭で、新旧関係は不明であるため、平面図では完掘時のプランを表現した。13・15号墓壇との重複部分を掘り下げ過ぎたため、上端を推定線で表現している。15号墓壇との新旧関係は、15号墓壇より新しい。

<規模・形態・方向> 残存部分の規模は0.78×0.27m、深さ23cmである。墓壇底面の形状から平面形は方形あるいは長方形で、長軸方向は北東-南西であると思われる。

<人骨・埋葬状況> 歯数本、四肢骨の一部らしき骨が出土した。歯の検出位置から、頭部を南東に向けて埋葬されたと思われる。

時期 出土遺物から17～19世紀に属するものと思われる。

13号墓壇 (第73図、写真図版50)

<位置・検出・重複関係> ⅣF6rグリッドに位置する。6・11・12号墓壇と重複しているが、11・12号墓壇との切合については、検出段階でのプランが不明瞭で、新旧関係は不明であるため、平面図では完掘時のプランで表現した。6号墓壇に切られている。残存範囲が狭く底面に近い部分での検出であった。

<規模・形態・方向> 残存部の計測値は0.66×0.64m、深さ25cmである。平面形、軸方向等の詳細は不明である。

時期 重複した墓塚との新旧関係から19世紀以降に属するものと思われる。

14号墓塚（第73図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> WF6r・7rグリッドに跨って位置し、10・12号墓塚底面下から14号墓塚は底面のみ検出された。8・10～12号墓塚と重複しているが、10・11号墓塚との切合については、検出段階でのプランが不明瞭で、新旧関係は不明であるため、平面図では完掘時のプランで表現した。

<規模・形態・方向> 残存部の計測値は0.78×0.38mで、平面形、軸方向等の詳細は不明である。

時期 重複した墓塚との新旧関係から17～19世紀に属するものと思われる。

15号墓塚（第73・80図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> WF6rグリッドに位置する。1・10・12号墓塚と重複し、切られている。

<規模・形態・方向> 開口部径1.40×0.90m、深さ42cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北東-南西である。

<人骨> 歯数本、下肢骨の一部が出土した。歯の出土位置から、頭部を北西に向けて埋葬されたと考えられる。

時期 出土遺物から17世紀前半～18世紀前半に属するものと思われる。

16号墓塚（第73図、写真図版50）

<位置・検出・重複関係> WF7sグリッドに位置する。3号墓塚と重複し、切られている。

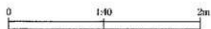
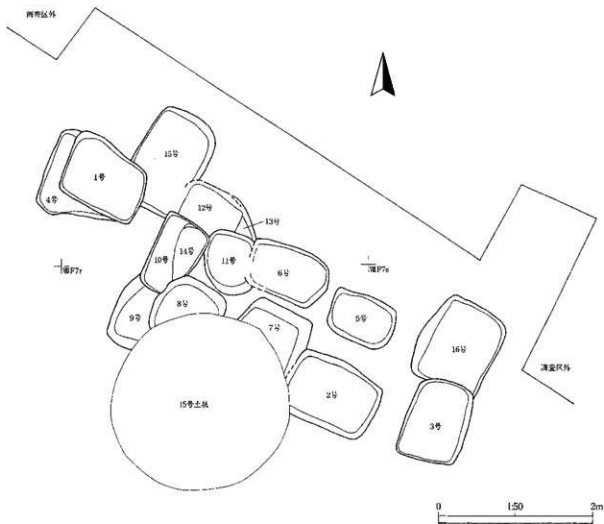
<規模・形態・方向> 開口部径1.16×1.01m、深さ28cmの規模である。平面形は長方形で、長軸方向は北東-南西方向である。

時期 重複した墓塚の出土遺物から18世紀前半以前に属するものと思われる。

第9表 墓塚出土遺物一覧表

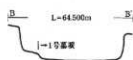
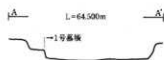
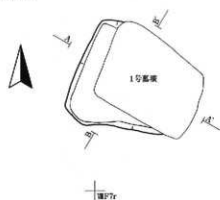
墓塚名	人骨	陶磁器類	貨幣		煙管		鉄釘	その他	備考
			銅銭	鉄銭	吸口	壷首			
1号墓塚	○	○					○		
2号墓塚	○						○		
3号墓塚	○		4						
4号墓塚									
5号墓塚									
6号墓塚									
7号墓塚	○	○		○	○	○	○		
8号墓塚	○		4				○		
9号墓塚	○						○		
10号墓塚	○				○	○	○	板状鉄製品1、薬管?1	
11号墓塚	○	○	6				○		
12号墓塚	○			○			○		
13号墓塚									
14号墓塚									
15号墓塚	○		8		○		○		
16号墓塚									

4 検出遺構と出土遺物

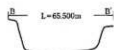
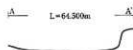
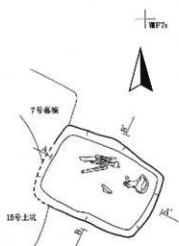


第69図 墓域・1号墓坑

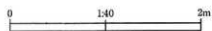
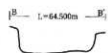
4号墓塚



2号墓塚



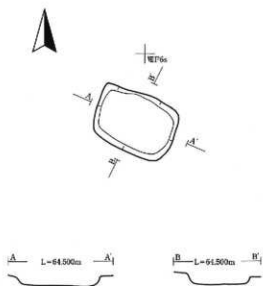
3号墓塚



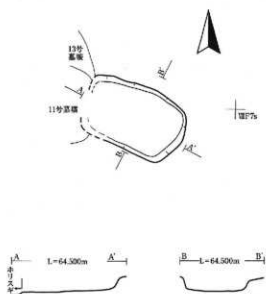
第70图 2~4号墓塚

4 檢出道槽と出土遺物

5号墓塚



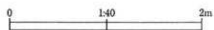
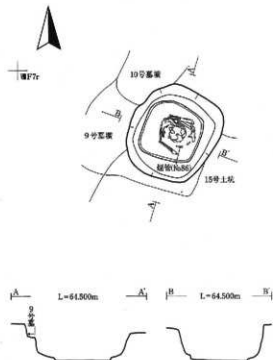
6号墓塚



7号墓塚

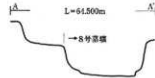
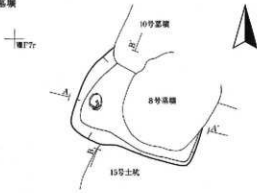


8号墓塚

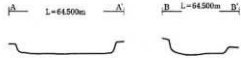


第71图 5~8号墓塚

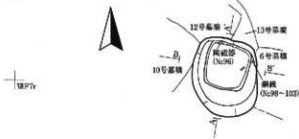
9号基壇



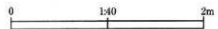
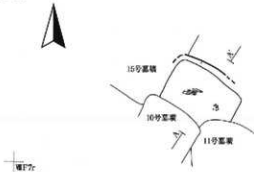
10号基壇



11号基壇



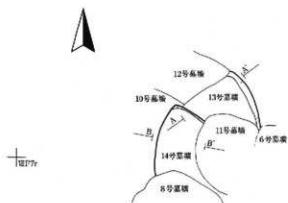
12号基壇



第72图 9~12号基壇

4 検出遺構と出土遺物

13・14号墓横



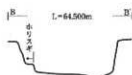
13号墓横



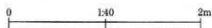
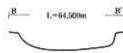
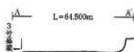
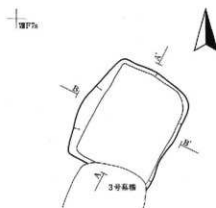
14号墓横



15号墓横



16号墓横



第73図 13~16号墓横

5 遺構外出土遺物 (第81～86図、写真図版60～66)

遺構外から出土した縄文・弥生土器、古代土器、陶磁器、石器・石製品、金属遺物について、詳細を以下に述べる。

(1) 縄文・弥生土器

114～187の74点を図化し、次の3群に分類した。第1群は縄文時代中期末葉(大木10式)に属すると思われる141・157・158・164・170、第2群は後期中葉～後葉(十腰内5式相当型式)に属すると思われる146、縄文時代晩期～弥生時代前期までの土器を第3群としたが、個々の詳細な時期決定については破片が多く不明確であったため、一括して扱った。縄文・弥生土器とも出土は第Ⅲ層からであった。広い範囲で出土したが、ⅢA・ⅣA大グリッド、ⅤF～ⅤH大グリッドから多く出土した。器種については、深鉢が最も多く、次いで浅鉢、壺、鉢、甕、四脚付浅鉢、高坏、脚付皿が出土した。

(2) 古代土器

188～196の8点を図化した。188は須恵器坏、189・190は土師器坏、191・192は土師器甕、193～196はミニチュア土器である。188はⅤB9aグリッドの第Ⅲb層から、その他はⅤF・ⅤH大グリッドの第Ⅲ層から出土している。ⅤF大グリッドは古代の集落跡が検出された区域である。破片が多く詳細は不明であるが、時期は8～9世紀に属すると思われる。

(3) 土製品

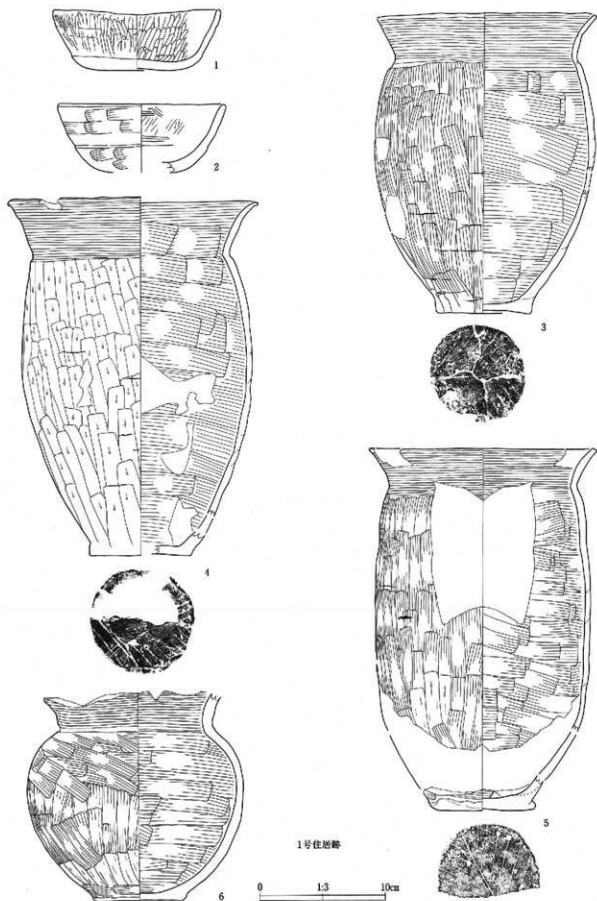
197～201の5点がⅤF・ⅤH大グリッドの第Ⅲ層から出土した。197は垂れ飾り、198・199は円盤状土製品であり、縄文土器の深鉢口縁部片(198)、深鉢胴部片(199)を打ち欠いて再加工したものである。200は上錘である。201の用途は不明である。外面は縄文(RL縦)が、内面及び脚部はミガキ調整されている。脚付浅鉢等の一部かと想定したが、脚は体部の中央に位置している。

(4) 陶磁器

196が出土した。ⅤH14cグリッドの攪乱箇所からであるが、この区域からは近世に属する遺構(上坑、柱穴状土坑)が多く検出されている。196は肥前系磁器の皿底部片である。青色釉で染付が施されているが、文様は不明である。高台に砂目が見られることから、17世紀前半に属するものと思われる。

(5) 石器、石製品

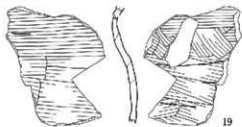
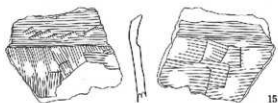
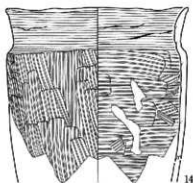
石器11点、石製品2点の計13点出土した。出土石器は、202～207が石鎌、208が石篋、209～212が打製石斧である。石鎌、石篋、209の打製石斧はⅢ層及びⅣ層上面から出土し、出土位置に法則性は見あたらない。210～212の打製石斧は、ⅤB21nグリッドの第Ⅳ層上面からまとまって出土した。遺構に伴うものと推測し、周辺を精査したが遺構は検出できなかった。調査区外に関連する遺構が所在しているものと思われる。213・214が石製品である。213は礫を打ち欠き、破損した(切断させた?)後、左側面及び右側面を研磨しているが、右側面は途中で止めている。切断面に近いところを打ち欠いていることから、独鈷石の製作途中で破損し、別の石器を製作しようとしたものであると推測した。214は、表裏面及び両側面に擦痕が見られる。形状及び加工痕から石刀の未製品であると推測される。



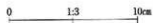
第74図 遺構内出土遺物(1)



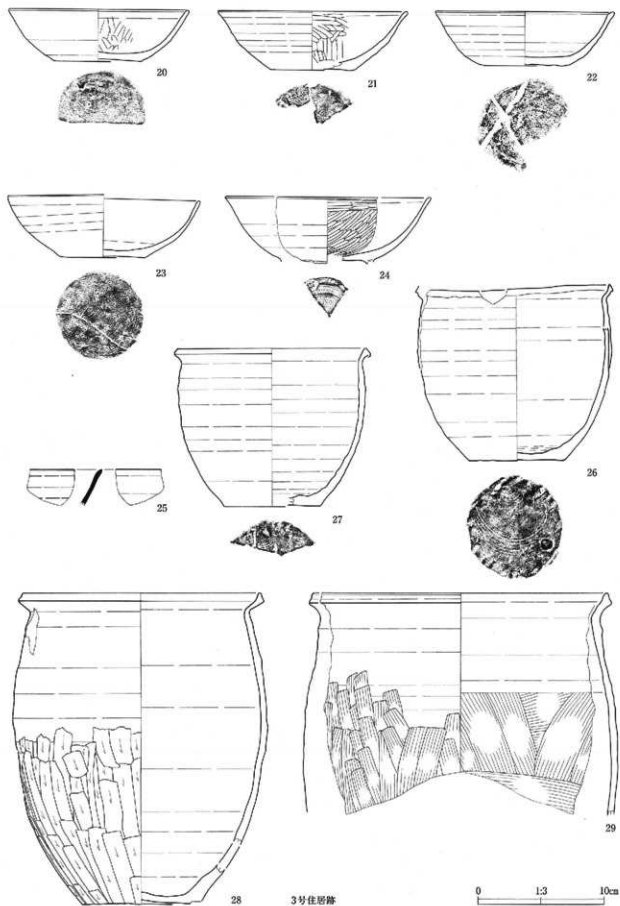
1号住居跡



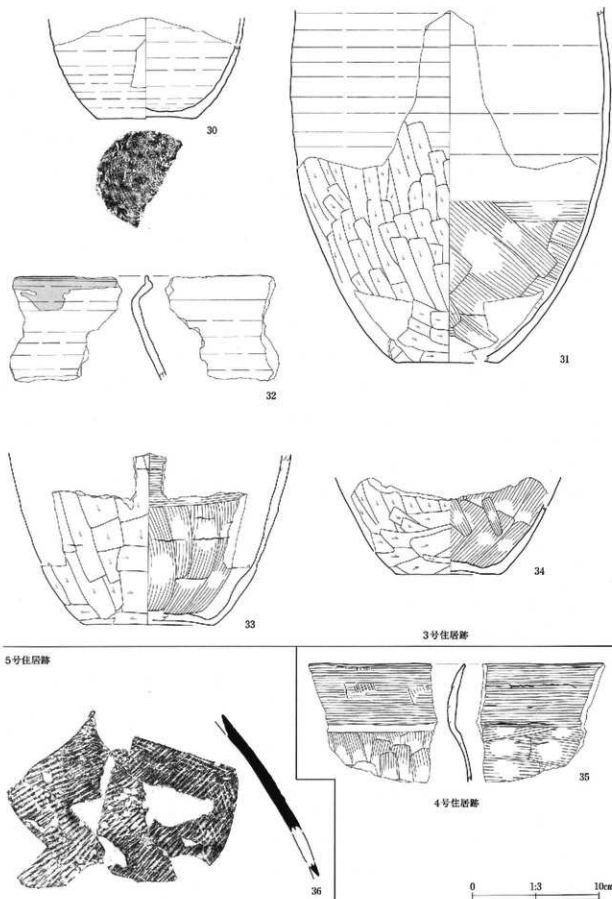
2号住居跡



第75図 遺構内出土遺物(2)

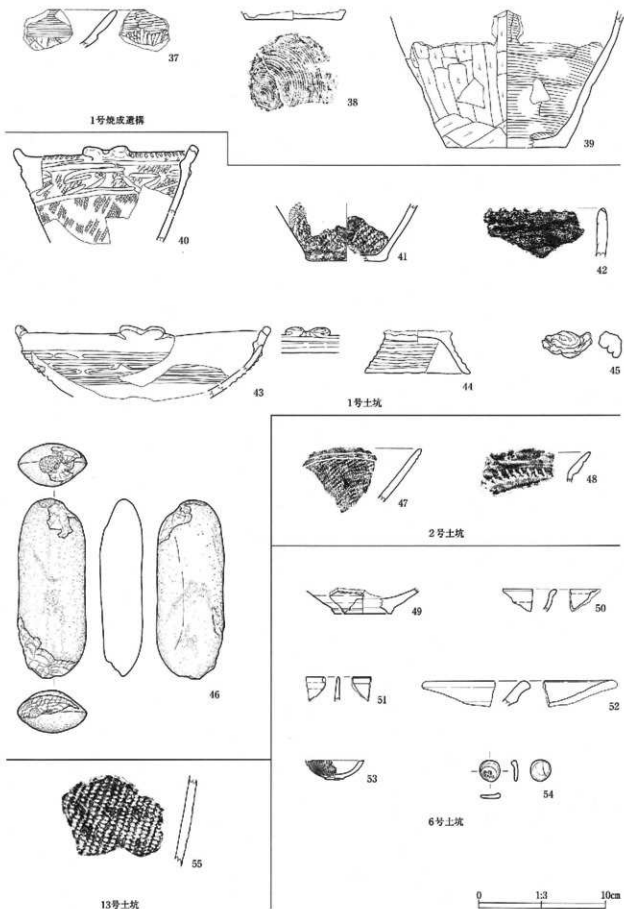


第76図 遺構内出土遺物(3)

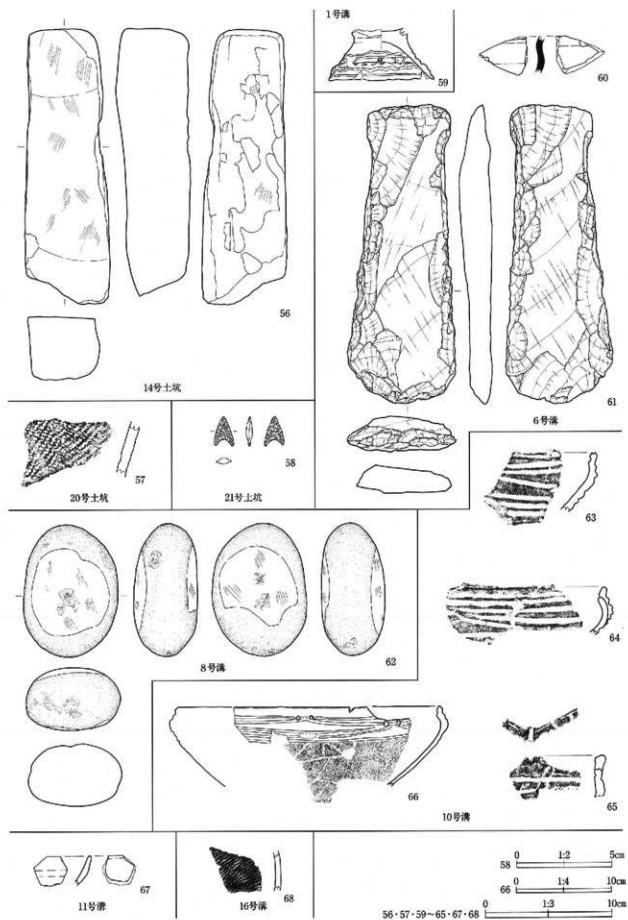


第77図 遺構内出土遺物(4)

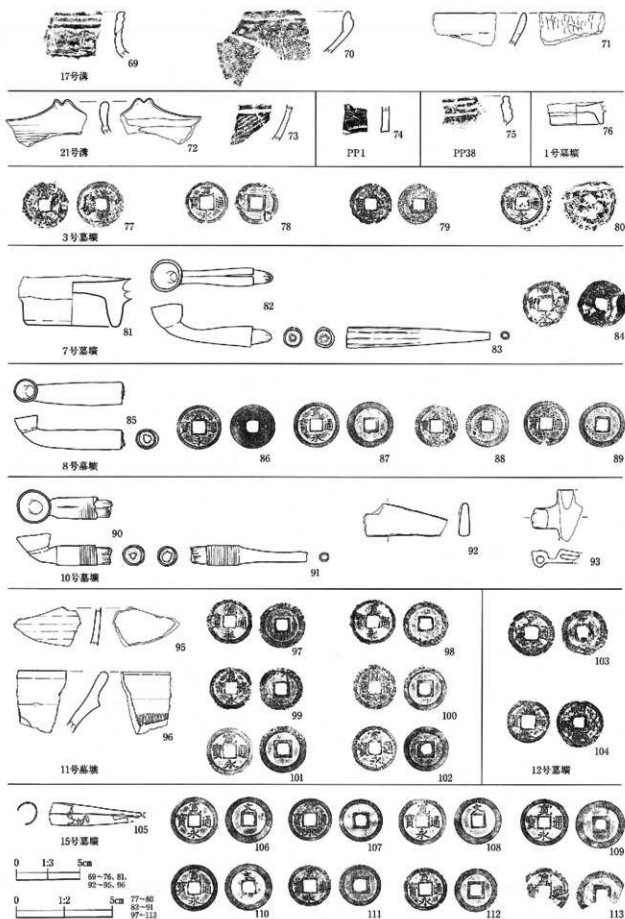
5 遺構外出土遺物



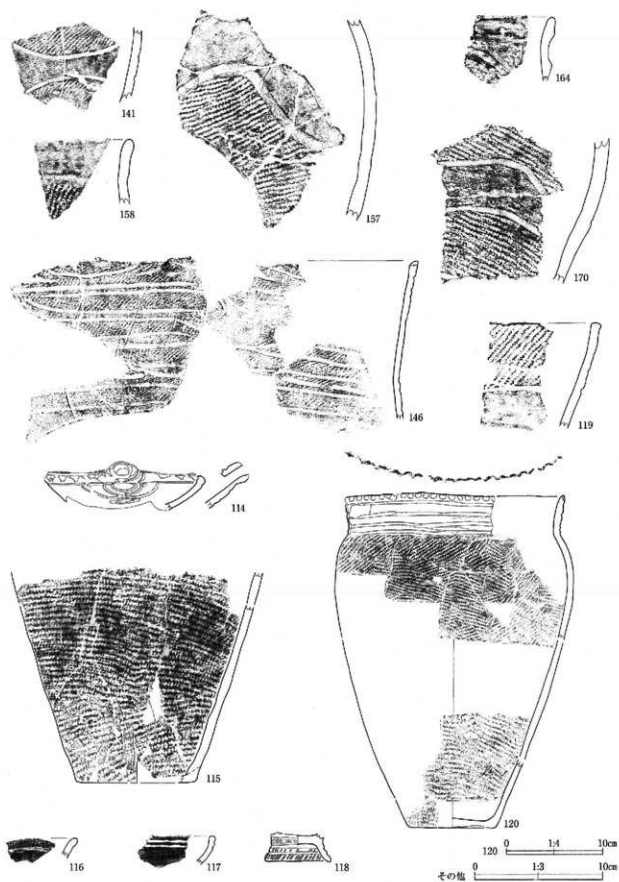
第78圖 遺構内出土遺物(5)



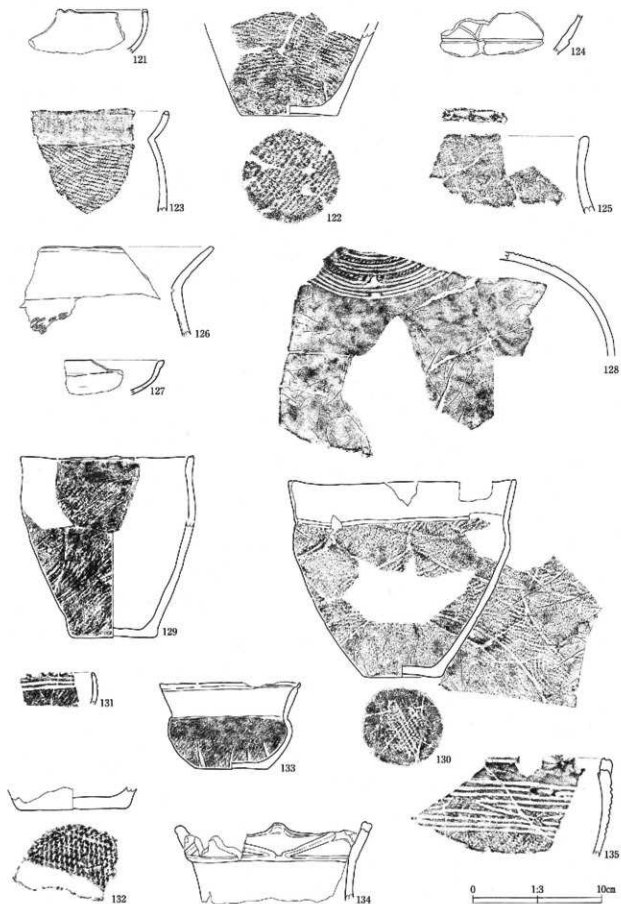
第79図 遺構内出土遺物(6)



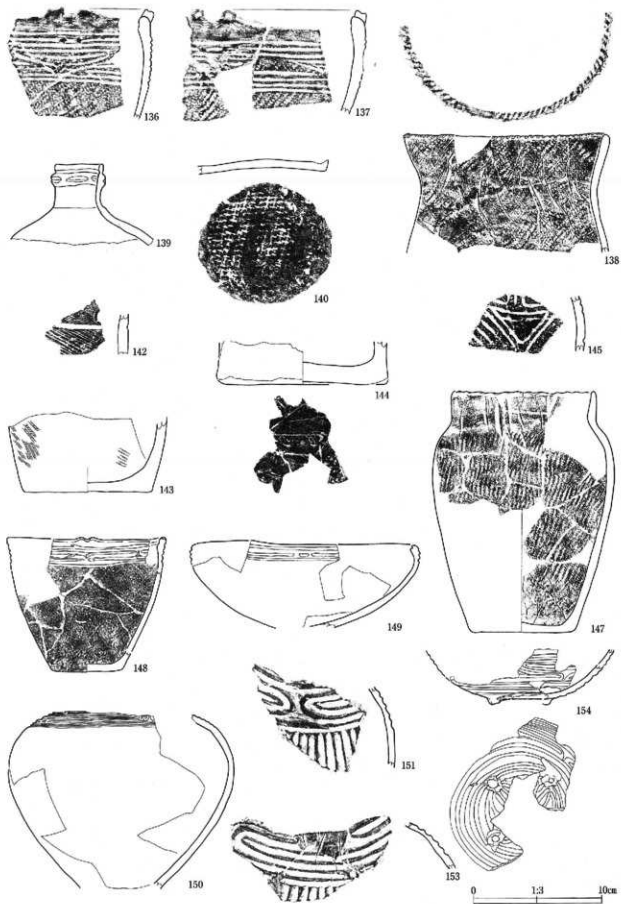
第80回 遺構内出土遺物(7)



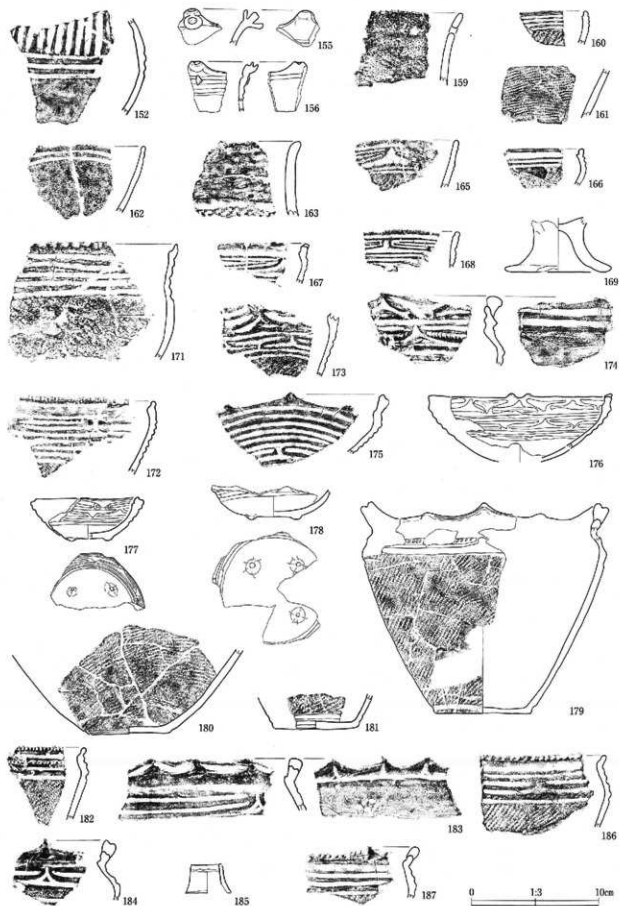
第81図 遠構外出土土器(縄文・弥生1)



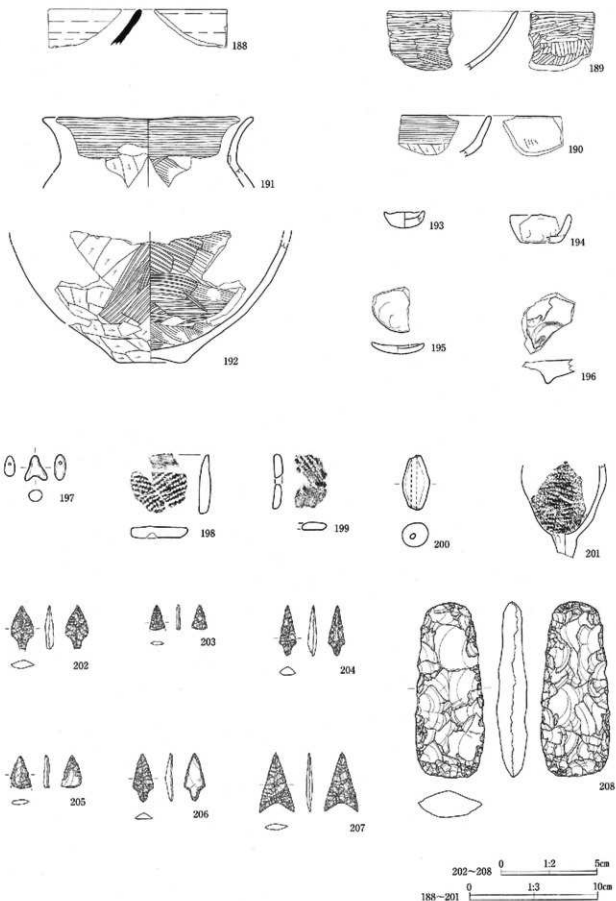
第82図 遺構外出土土器(縄文・弥生2)



第83圖 遺構外出土土器(縄文・弥生3)



第84図 遺構外出土土器(縄文・弥生4)



第85図 遺構外出土遺物(古代土器・ミニチュア土器・陶磁器・土製品・石器)



第86図 遺構外出土遺物(石器・石製品・金屬遺物)

第 10 表 縄文・弥生土器観察表

No	出土地点	器位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外形図	内面調査	集積位置 内外面	備考	図録 写真
40	I号土坑	埋土	深鉢	口縁部-胴部	(14.0)		(6.8)	口縁部:斜六角、2枚突起、4単位 胴部:動部、L.R.横	ナテ			78 60
41	I号土坑	埋土	深鉢	口縁部		(6.4)	(4.6)	L.R.斜め	ナテ			78 60
42	I号土坑	深鉢?	深鉢?	口縁部				口縁部:動部→小波状口縁 胴部:ナテ	ナテ			78 60
43	I号土坑	深鉢	深鉢	口縁部-胴部	(20.3)		(6.1)	ナテ、口縁部:2枚突起4単位	ナテ			78 60
44	I号土坑	深鉢	深鉢	口縁部		(7.8)	(3.4)	ナテ	ミガキ内面			78 60
47	2号土坑	深鉢	深鉢	口縁部				口縁部:ナテ 胴部:L.R.横、斜め	ナテ			78 60
48	2号土坑	深鉢	深鉢	口縁部				口縁部:ナテ 胴部:片竹?による斜め	ナテ			78 60
55	13号土坑	埋土	深鉢	口縁部				R.L.横	ナテ			78 60
57	20号土坑	埋土	深鉢	口縁部		8.3	(4.1)	R.L.R.横	ナテ			79 60
59	I号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、口縁部:沈蝕	ナテ、口縁部:沈蝕			79 60
63	10号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、口縁部:沈蝕	ナテ、口縁部:沈蝕			79 60
64	10号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、口縁部:沈蝕	ナテ、口縁部:沈蝕			79 60
65	10号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、口縁部:沈蝕	ナテ、口縁部:沈蝕			79 60
66	10号溝	埋土	深鉢	口縁部	(27.5)		(8.3)	口縁部:沈蝕、口縁部:ミガキ 縄文全体不明	ナテ、口縁部:沈蝕			79 60
68	10号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、L.R.斜め	ナテ			79 60
69	17号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ	ナテ			80 60
70	17号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ	ナテ			80 60
72	21号溝	埋土	深鉢?	口縁部				ナテ	ナテ			80 60
75	21号溝	埋土	深鉢	口縁部				胴部:ナテ 胴部:L.R.横	ナテ			80 60
76	21号溝	埋土	深鉢	口縁部				ナテ	ナテ			80 60
114	III A 22 j	埋土	深鉢	口縁部			(4.0)	ナテ、胴部:斜六角	ナテ、胴部:沈蝕			81 60
115	III A 21 22 j	埋土	深鉢	口縁部		(9.6)	(16.8)	L.R.横	ナテ			81 60
116	III A 22 j	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、口縁部:L.R.横	ナテ			81 60
117	III A 22 j	埋土	深鉢	口縁部				ナテ	ナテ			81 60
118	III A 22 j	埋土	深鉢	口縁部		5.3	(2.3)	L.R.横	ナテ			81 60
119	III A 23 j	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、口縁部:L.R.横	ミガキ→ナテ			81 60
120	III A 25 j	埋土	深鉢	口縁部-胴部	(23.1)		(9.1)	口縁部:斜六角、2枚突起、胴部:L.R.横、胴部 部:L.R.横、胴部:胴部下、L.R.横	ナテ			81 61
121	III A 8 k	埋土	深鉢	口縁部				ナテ、口縁部:2枚突起	ナテ			82 61
122	III A 8 o	埋土	深鉢	口縁部				ナテ	口縁部:ナテ			82 61
123	III A 14 j	埋土	深鉢	口縁部-胴部				口縁部:ナテ 胴部:L.R.斜め	胴部:ミガキ→ナテ			82 61
124	III A 7 m	埋土	深鉢?	口縁部				ナテ	ナテ			82 61
125	III A 15 b	埋土	深鉢	口縁部				口縁部:斜六角、2枚突起	ナテ			82 61
126	III B 1 k	埋土	深鉢	口縁部				口縁部:ナテ 胴部:L.R.横	ナテ			82 61
127	III B 5 n-5 m	埋土	深鉢	口縁部-胴部	(7.6)		(7.6)	L.R.横、胴部:胴部下	ナテ			82 61

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	外周断径	内周断径	写真番号	備考	図面番号
128	V B 8 b	IV層	漆	胴部	13.8	6.5	14.5	胴径:ミガキ,ナデ 口縁部:柳正→小波状山縁,山縁部:ナデ,胴部:L R線,胴部:L,R斜め	ナデ ナデ(ハケ4枚)			82, 61
129	V B 20 y	IV層上	深鉢	L縁→底部	13.8	6.5	14.5	口縁部:ナデ,胴部:L,R斜め	ナデ			82, 61
130	V C 25 c	IV層	深鉢	L縁→底部	18.0	6.2	15.8	口縁部:L,R側,底径:柳正(代紙),胴部:L, R斜め,横	ナデ			82, 61
131	V C 25 c	IV層	深鉢?	底部		8.6	(1.8)	口縁部:二股突起,横文,底径不明	ナデ?			82, 61
132	W A 3 w	IV層	深鉢?	底部		5.6	7.0	口縁部:ナデ,胴部:一重縁:L,R横	ナデ,ナデ			82, 61
133	W B 9 a	IV層	深鉢	口縁→底部	11.1	5.6	7.0	口縁部:沈線1,二股突起(胴部に沈線)	ナデ,口縁部:沈線1			82, 61
134	W B 9 b	IV層	深鉢	口縁→底部	15.6		(6.4)	口縁部:ミガキ,胴部:L,R横	ナデ			82, 61
135	W B 10 b	IV層下	深鉢	L縁→胴部				口縁部:沈線1,二股突起(胴部に沈線)	ナデ,口縁部:沈線1		135-137:同一胴体	82, 61
136	W B 10 b	IV層下	深鉢	L縁→胴部				口縁部:沈線1,二股突起(胴部に沈線)	ナデ,口縁部:沈線1		135-137:同一胴体	83, 61
137	W B 10 b	IV層下	深鉢	L縁→胴部				口縁部:沈線1,二股突起(胴部に沈線)	ナデ,口縁部:沈線1		135-137:同一胴体	83, 61
138	W B 10 b-20 c	IV層・IV層下	深鉢	口縁→胴部	16.2		(9.9)	口縁部:沈線1,二股突起(胴部に沈線)	ナデ			83, 62
139	W B 17 j	IV層	深鉢	口縁→胴部	2.7		6.5	胴部:沈線1,沈線をわたる帯を6平位,胴部:ナデ	ナデ		帯の上部を帯に転用か。	83, 62
140	W B 21 o	IV層	深鉢?	底部				胴部:ナデ? L,R横	ナデ			83, 62
141	W C 5 k	IV層	深鉢?	胴部				ナデ? L,R横	ナデ			81, 60
142	W D 16 a	IV層	深鉢?	胴部				ナデ L,R横,斜め	ナデ			83, 62
143	W D 18 b	IV層	深鉢	底部	(6.1)		(9.3)	L,R横,斜め	ナデ			83, 62
144	W D 18 c	IV層	深鉢	底部	(13.2)		(4.2)	ナデ	ナデ			83, 62
145	W D 18 c	IV層	深鉢?	胴部?				ナデ	ナデ			83, 62
146	W G 13 c	IV層	深鉢	胴部				胴部 L,R:コゴ	ナデ			81, 60
147	W G 13 c	IV層	深鉢	胴部	(19.3)		(11.4)	胴部:柳正→小波状山縁,ナデ L,R斜め	ナデ			81, 60
148	W C 15 b	IV層	深鉢	L縁→底部	(12.4)	5.6	10.8	胴部4単位? L,R斜め 横文,底径しい	ミガキ,口縁部:沈線1			83, 62
149	W G 15 b	IV層	深鉢	L縁→胴部	18.2		(6.7)	ミガキ	ミガキ,口縁部:沈線1			83, 62
150	W G 15 b	IV層	深鉢	胴部→胴部			(14.2)	ナデ	ミガキ			83, 62
151	W F 5 f	IV層	深鉢	胴部				ナデ	ナデ			84, 62
152	W F 15 b	IV層	深鉢	胴部				ナデ	ナデ			84, 62
153	W F 15 a-f, f,	IV層	深鉢	胴部				ナデ	ナデ			83, 62
154	W H 5 f,	IV層	脚付皿	口縁→底径		5.4	(4.4)	ナデ?	ヨコナデ			83, 62
155	W H 15a-f	IV層	鉢?	口縁部				ナデ?	ナデ?			84, 62
156	W F-2 R	IV層	鉢?	口縁部				ナデ?	口縁部:沈線1 ナデ			84, 62
157	W F-3 F	IV層	深鉢	胴部				ミガキ, L,R横	ミガキ			81, 60
158	W F-3 F	IV層	深鉢	口縁部				ナデ, L,R斜め	ナデ			81, 60
159	W F-3 F	IV層	深鉢	口縁部				ナデ?	ナデ			84, 62
160	W F 3 I-n	IV層	深鉢	口縁部				ナデ, L,R横	ミガキ,口縁部:沈線1			84, 62
161	W F 3 I-n	IV層	深鉢	胴部				L,R横	ナデ			84, 62

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(㎝)	高さ(㎝)	容量(㎖)	外面装束	内面装束	保存者 及び 内面	備考	図録写真
162	ⅢF 4c	Ⅲ層	深鉢	口縁部			不明	不明	不明			84 62
163	ⅢF 4e	Ⅲ層	深鉢	腹部			ナテ, 焼文不明		ナテ			81 62
164	ⅢF 4e	Ⅲ層	深鉢	口縁部			ナテ		ナテ			81 60
165	ⅢF 5g	5層	深鉢	口縁部			表面がぼろしく不明		ナテ		5号作匠頭に人	84 62
166	ⅢF 5g	5層	深鉢	口縁部			ナテ		ナテ		5号作匠頭に人	84 62
167	ⅢF 5h	Ⅲ層	深鉢	口縁部			ナテ, 口縁部:沈線1, 次期に属み日		ナテ		口内面白色(内面一様磨き)	84 62
168	ⅢF 5b	Ⅲ層	深鉢	口縁部			ナテ, 口縁部:磨み日		ナテ			81 62
169	ⅢF 5i	Ⅲ層	深鉢	口縁部	(8.4)		ナテ		ナテ			81 62
170	ⅢF 5i	Ⅲ層	深鉢	口縁部			ナテ, R.L.跡み		ナテ			81 60
171	ⅢF 5f	Ⅲ層	深鉢	口縁部			口縁部:粗任→小波状口縁, 焼文装束不明		ナテ			84 62
172	ⅢF 15f	Ⅲ層	深鉢	口縁部			口縁部:磨み日 口縁部:磨部:上, R.横		ナテ			84 62
173	ⅢF 15f	Ⅲ層	深鉢	口縁部			ナテ		ナテ		焼文部分は, 磨部が強い	84 63
174	ⅢF 15f	Ⅲ層	深鉢	口縁部			口縁部:沈線1		3ガキ, 口縁部:沈線2			84 63
175	ⅢF 15f	Ⅲ層	深鉢	口縁部			口縁部:ナテ		ナテ, 口縁部:沈線1			84 63
176	ⅢF 15f	Ⅲ層	深鉢	口縁部	(14.4)		ナテ, 口縁部:磨部(磨部)0.5位?		ナテ, 口縁部:沈線1			84 63
177	ⅢF 15f	Ⅲ層	内開付浅鉢	口縁部	(9.0)		35 3ガキ, 口縁部:沈線1		ミガキ, 口縁部:沈線1			84 63
178	ⅢF 15f	Ⅲ層	内開付浅鉢	口縁部			ナテ		ミガキ			81 63
179	ⅢF 15・10g, 6号 溝	Ⅲ層下, Ⅲ層上	深鉢	口縁部	(19.6)		ナテ, 口縁部:突起, 2極, 沈線1, L.R.跡み		ナテ			81 63
180	ⅢF 15g	Ⅲ層下	深鉢	口縁部		6.0	L.R.横		ナテ			84 63
181	ⅢF 15g	Ⅲ層下	深鉢	口縁部		(6.6)	ナテ, L.R.跡み		ナテ			84 63
182	ⅢF 15g	Ⅲ層下	深鉢	口縁部			ナテ, 口縁部:磨み日, L.R.横		ナテ, 口縁部:沈線1			84 63
183	ⅢF 15h	Ⅲ層	深鉢?	口縁部			ナテ, 口縁部:沈線1		ナテ, 口縁部:沈線1			81 63
184	ⅢF 15h	Ⅲ層	深鉢?	口縁部			3ガキ, 口縁部:沈線1, L.R.横		ミガキ, 口縁部:沈線1		内外面白色	84 63
185	ⅢF 15i	Ⅲ層	深鉢	口縁部			3ガキ		ナテ			84 63
186	ⅢF 15i	Ⅲ層	深鉢	口縁部			口縁部:磨み日, L.R.跡み		ナテ, 口縁部:沈線1			84 63
187	ⅢF 15j	Ⅲ層	深鉢?	口縁部			ナテ, 口縁部:突起, 磨み		ナテ, 口縁部:沈線1			84 63

※ () は口径・高さが確定、器高が推定。

第11表 古代土器観察表

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(㎝)	高さ(㎝)	容量(㎖)	外面装束	内面装束	保存者	図録写真
1	1号住居	灰面	土師器 杯	口縁部	(13.4)	(4.9)	(6)	ヘラミガキ(磨)	ヘラミガキ(磨) 一色色磨	香クワ焼影	74 37
2	1号住居	灰面	土師器 杯	口縁部	(13.4)		(5.5)	ヘラミガキ(磨)	ヘラミガキ	香クワ焼影, 白色底磨 磨	74 37
3	1号住居	灰面	土師器 深鉢	口縁部	(17.6)	(7.7)	(24.2)	口縁部:ヨコナテ 体部:ヘラミガキ(磨)	口縁部:ヨコナテ 体部:ヘラミガキ	木製板 にかけて入付木, 輪車板 切磨	74 57

No	出土地点	職位	時期	形態	部位	口内(m)	口外(m)	等量(m)	外観調整	内観調整	処理	備考	国庫号
4	1号住居	床面、カマ下履 取、2層、床板	土留造	梁	口縁～底壁	19.8	8.1	28.8	口縁部:ヨコナデ体部:ヘラケズリ(梁)	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ(横)ヘラナデ	木素直	縁積直造	74 37
5	1号住居	床面、2層	土留造	梁	口縁～断部	(18.2)	(8.2)	(24.3)	口縁部:ヨコナデ体部:ヘラナデ(梁) 下壁:ヨコナデ→ヘラケズリ(梁) 体部:ヘラナデ(横)ヘラナデ	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ(横)ヘラナデ	木素直	縁積直あり、間面上下板云	74 37
6	1号住居	床面	土留造	柱脚梁	口縁～底壁	7.4	16.8		口縁部:ヨコナデ 断部:ヨコナデ→ヘラナデ(梁) ヨコナデ→一部ヘラナデ ヨコナデ→一部ヘラナデ	口縁部:ヨコナデ ヨコナデ→ヘラミガキ ヘラミガキ		非ロクロ敷彩	74 37
10	2号住居	ベネト、壁土1層	土留造	坪	口縁～断部				口縁部:ヨコナデ	口縁部:ヨコナデ		内外面着色処理	75 38
11	2号住居	ベネト	土留造	坪	断部				口縁部:ヘラミガキ	断部:ヘラミガキ		内外面着色処理、梁成下貫	75 38
12	2号住居	2層	土留造	坪	口縁～断部				口縁部:ヨコナデ	口縁部:ヨコナデ		内外面着色処理	75 38
13	2号住居	床面	土留造	坪	口縁～断部	(14.5)	(14.0)		口縁部:ヨコナデ→一部ヘラケメ(梁)	口縁部:ヨコナデ 断部:ヘラケメ(梁)		縁積直あり	75 38
14	2号住居	6層	土留造	梁	口縁～断部				口縁部:ヨコナデ 断部:ヘラナデ(梁)	口縁部:ヨコナデ 断部:ヘラナデ(横)		縁積直あり、口縁部外周に ヘラ1尺板	75 38
15	2号住居	ベネト	土留造	梁	口縁～断部				口縁部:ヨコナデ	口縁部:ヨコナデ			75 38
16	2号住居	ベネト	土留造	梁	口縁部				口縁部:ヨコナデ	口縁部:ヨコナデ			75 38
17	2号住居	床面	土留造	梁	口縁部				口縁部:ヨコナデ 断部:ヘラナデ(梁)	口縁部:ヨコナデ 断部:ヘラナデ(横)			75 38
18	2号住居	ベネト	土留造	梁	口縁部～断部				口縁部:ヨコナデ 断部:ヨコナデ→ヘラケメ	口縁部:ヨコナデ 断部:ヨコナデ→一部ヘラナデ			75 38
19	2号住居	ベネト	土留造	梁	断部～断部				断部:ヨコナデ 断部:ヘラナデ	断部:ヨコナデ 断部:ヘラナデ		成成不良及び口縁部断部 縁積直あり	75 38
20	3号住居	棟出面、周土3・ 5層	土留造	坪	口縁～底壁	(14.2)	(4.2)	(6.7)	口縁部:断部:ロクロナデ	口縁部:ヨコナデ 断部:ヘラナデ			76 58
21	3号住居	棟出面、周土2層	土留造	坪	口縁～底壁	(15.0)	(5.4)	(4.8)	ロクロナデ	ロクロナデ→ヘラミガキ			76 58
22	3号住居	3層	土留造	坪	口縁～底壁	(14.2)	(6.4)	(4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ			76 58
23	3号住居	5層	土留造	坪	口縁～断部	15.2	6.8	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ			76 58
24	3号住居	棟出面、周土3層	土留造	高台巾環	口縁～底壁	(16.2)	(7.2)	(5.4)	ロクロナデ	ロクロナデ			76 58
25	3号住居	5層	土留造	坪	口縁部				ロクロナデ	ロクロナデ			76 58
26	3号住居	棟出面、周土3層	土留造	梁	口縁～底壁	(15.6)	7.7	14.1	口縁部:断部:ロクロナデ	口縁部:断部:ロクロナデ			76 58
27	3号住居	5層	土留造	梁	口縁～断部	(14.8)	(7.6)	(12.8)	口縁部:断部:ロクロナデ	口縁部:断部:ロクロナデ			76 58
28	3号住居	棟出面、周土3・ 5層	土留造	梁	口縁～底壁	19.4	9.5	25.0	口縁部:断部中央:ロクロナデ 口縁部:断部中央:ロクロナデ→ヘラケズリ(梁) 断部:断部:ロクロナデ	口縁部:断部:ロクロナデ 断部:断部:ロクロナデ			76 59
29	3号住居	棟出面、5層	土留造	梁	口縁～断部	(20.0)	(17.7)		断部:断部:ロクロナデ→ヘラナデ(梁)	断部:断部:ロクロナデ			76 59
30	3号住居	周土3層	土留造	梁	断部～底壁		(7.4)	(8.1)	断部:断部:ロクロナデ	断部:断部:ロクロナデ			77 59

No.	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	文 様	図録写真
157	出土地点 Ⅱ層 F 3 F	Ⅱ層	210	165	0.80	180	文 様	85 63
No.	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	文 様	図録写真
158	出土地点 Ⅱ層 F 3 F	Ⅱ層	(41)	34	0.8	174	文 様	85 63
159	出土地点 Ⅱ層 F 3 F	Ⅱ層	45	(28)	0.7	91	文 様	85 63

No.	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	文 様	図録写真
31	3号中層 出土部	出土部	3.5層	18.0	(28.2)			
32	3号中層 出土部	出土部	3層					
33	3号中層 出土部	出土部	3層	(100)	(138)			
34	3号中層 出土部	出土部	3層	(82)	(78)			
35	4号中層 出土部	出土部	4層					
36	5号中層 出土部	出土部	5層					
37	1号地城遺構 出土部	出土部	1層	(7.6)	(0.7)			
38	1号地城遺構 出土部	出土部	1層	(9.3)	(11.0)			
39	6号中層 出土部	出土部	6層					
40	17号中層 出土部	出土部	17層					
41	18号中層 出土部	出土部	18層					
42	19号中層 出土部	出土部	19層					
43	20号中層 出土部	出土部	20層					
44	21号中層 出土部	出土部	21層					
45	22号中層 出土部	出土部	22層					
46	23号中層 出土部	出土部	23層					
47	24号中層 出土部	出土部	24層					
48	25号中層 出土部	出土部	25層					
49	26号中層 出土部	出土部	26層					
50	27号中層 出土部	出土部	27層					
51	28号中層 出土部	出土部	28層					
52	29号中層 出土部	出土部	29層					
53	30号中層 出土部	出土部	30層					
54	31号中層 出土部	出土部	31層					
55	32号中層 出土部	出土部	32層					
56	33号中層 出土部	出土部	33層					
57	34号中層 出土部	出土部	34層					
58	35号中層 出土部	出土部	35層					
59	36号中層 出土部	出土部	36層					
60	37号中層 出土部	出土部	37層					
61	38号中層 出土部	出土部	38層					
62	39号中層 出土部	出土部	39層					
63	40号中層 出土部	出土部	40層					
64	41号中層 出土部	出土部	41層					
65	42号中層 出土部	出土部	42層					
66	43号中層 出土部	出土部	43層					
67	44号中層 出土部	出土部	44層					
68	45号中層 出土部	出土部	45層					
69	46号中層 出土部	出土部	46層					
70	47号中層 出土部	出土部	47層					
71	48号中層 出土部	出土部	48層					
72	49号中層 出土部	出土部	49層					
73	50号中層 出土部	出土部	50層					
74	51号中層 出土部	出土部	51層					
75	52号中層 出土部	出土部	52層					
76	53号中層 出土部	出土部	53層					
77	54号中層 出土部	出土部	54層					
78	55号中層 出土部	出土部	55層					
79	56号中層 出土部	出土部	56層					
80	57号中層 出土部	出土部	57層					
81	58号中層 出土部	出土部	58層					
82	59号中層 出土部	出土部	59層					
83	60号中層 出土部	出土部	60層					
84	61号中層 出土部	出土部	61層					
85	62号中層 出土部	出土部	62層					
86	63号中層 出土部	出土部	63層					
87	64号中層 出土部	出土部	64層					
88	65号中層 出土部	出土部	65層					
89	66号中層 出土部	出土部	66層					
90	67号中層 出土部	出土部	67層					
91	68号中層 出土部	出土部	68層					
92	69号中層 出土部	出土部	69層					
93	70号中層 出土部	出土部	70層					
94	71号中層 出土部	出土部	71層					
95	72号中層 出土部	出土部	72層					
96	73号中層 出土部	出土部	73層					
97	74号中層 出土部	出土部	74層					
98	75号中層 出土部	出土部	75層					
99	76号中層 出土部	出土部	76層					
100	77号中層 出土部	出土部	77層					
101	78号中層 出土部	出土部	78層					
102	79号中層 出土部	出土部	79層					
103	80号中層 出土部	出土部	80層					
104	81号中層 出土部	出土部	81層					
105	82号中層 出土部	出土部	82層					
106	83号中層 出土部	出土部	83層					
107	84号中層 出土部	出土部	84層					
108	85号中層 出土部	出土部	85層					
109	86号中層 出土部	出土部	86層					
110	87号中層 出土部	出土部	87層					
111	88号中層 出土部	出土部	88層					
112	89号中層 出土部	出土部	89層					
113	90号中層 出土部	出土部	90層					
114	91号中層 出土部	出土部	91層					
115	92号中層 出土部	出土部	92層					
116	93号中層 出土部	出土部	93層					
117	94号中層 出土部	出土部	94層					
118	95号中層 出土部	出土部	95層					
119	96号中層 出土部	出土部	96層					
120	97号中層 出土部	出土部	97層					
121	98号中層 出土部	出土部	98層					
122	99号中層 出土部	出土部	99層					
123	100号中層 出土部	出土部	100層					
124	101号中層 出土部	出土部	101層					
125	102号中層 出土部	出土部	102層					
126	103号中層 出土部	出土部	103層					
127	104号中層 出土部	出土部	104層					
128	105号中層 出土部	出土部	105層					
129	106号中層 出土部	出土部	106層					
130	107号中層 出土部	出土部	107層					
131	108号中層 出土部	出土部	108層					
132	109号中層 出土部	出土部	109層					
133	110号中層 出土部	出土部	110層					
134	111号中層 出土部	出土部	111層					
135	112号中層 出土部	出土部	112層					
136	113号中層 出土部	出土部	113層					
137	114号中層 出土部	出土部	114層					
138	115号中層 出土部	出土部	115層					
139	116号中層 出土部	出土部	116層					
140	117号中層 出土部	出土部	117層					
141	118号中層 出土部	出土部	118層					
142	119号中層 出土部	出土部	119層					
143	120号中層 出土部	出土部	120層					
144	121号中層 出土部	出土部	121層					
145	122号中層 出土部	出土部	122層					
146	123号中層 出土部	出土部	123層					
147	124号中層 出土部	出土部	124層					
148	125号中層 出土部	出土部	125層					
149	126号中層 出土部	出土部	126層					
150	127号中層 出土部	出土部	127層					
151	128号中層 出土部	出土部	128層					
152	129号中層 出土部	出土部	129層					
153	130号中層 出土部	出土部	130層					
154	131号中層 出土部	出土部	131層					
155	132号中層 出土部	出土部	132層					
156	133号中層 出土部	出土部	133層					
157	134号中層 出土部	出土部	134層					
158	135号中層 出土部	出土部	135層					
159	136号中層 出土部	出土部	136層					
160	137号中層 出土部	出土部	137層					
161	138号中層 出土部	出土部	138層					
162	139号中層 出土部	出土部	139層					
163	140号中層 出土部	出土部	140層					
164	141号中層 出土部	出土部	141層					
165	142号中層 出土部	出土部	142層					
166	143号中層 出土部	出土部	143層					
167	144号中層 出土部	出土部	144層					
168	145号中層 出土部	出土部	145層					
169	146号中層 出土部	出土部	146層					
170	147号中層 出土部	出土部	147層					
171	148号中層 出土部	出土部	148層					
172	149号中層 出土部	出土部	149層					
173	150号中層 出土部	出土部	150層					
174	151号中層 出土部	出土部	151層					
175	152号中層 出土部	出土部	152層					
176	153号中層 出土部	出土部	153層					
177	154号中層 出土部	出土部	154層					
178	155号中層 出土部	出土部	155層					
179	156号中層 出土部	出土部	156層					
180	157号中層 出土部	出土部	157層					
181	158号中層 出土部	出土部	158層					
182	159号中層 出土部	出土部	159層					
183	160号中層 出土部	出土部	160層					
184	161号中層 出土部	出土部	161層					
185	162号中層 出土部	出土部	162層					
186	163号中層 出土部	出土部	163層					
187	164号中層 出土部	出土部	164層					
188	165号中層 出土部	出土部	165層					
189	166号中層 出土部	出土部	166層					
190	167号中層 出土部							

第12表 土製品観察表

No.	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	文 様	図取位置
200	ⅧF 5. i	Ⅷ層	4.3	2.1	1.9	13.5		85 63

小形

No.	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	文 様	図取位置
7	1号土坑	Ⅷ上中	2.65	1.45	0.90	3.60		75 63
8	1号土坑	Ⅷ中	3.90	0.90	0.90	2.20		75 63
74	ⅧF 1	Ⅷ上	2.20	1.90	0.90	3.90		80 63
201	ⅧH 15 f	Ⅷ層	(7.40)	(6.00)	(0.40)	27.90		85 63

※ () は残存量。

第13表 陶器観察表

No.	出土地点	層位	材質分類	器種	部位	寸法 (cm)		容量	胎土	胎製作地	時期	備考	図取位置
						口径	底径						
49	6号土坑	Ⅷ上1	磁器	皿	底部	(4.3)	(2.1)	透明釉	乳白	肥前系	18世紀	ロクロ削り高砂	78 2
50	6号土坑	Ⅷ上1	磁器	皿	口縁部			透明釉	乳白	肥前系	19世紀		78 2
51	6号土坑	Ⅷ上1	陶器	碗	口縁部			灰釉 (緑)	緑灰色 (密)	大津部属	18世紀		78 2
52	6号土坑	Ⅷ上3	陶器	碗	口縁部			灰釉	灰色 (密)	存高部	19世紀		78 2
53	6号土坑	Ⅷ上2	磁器	紅皿	胴部一底部	(4.6)	(1.6)	内面：白磁釉 外面：彫化文	白色	肥前系	19世紀前半	外面：無釉	78 2
54	6号土坑	Ⅷ上1	ガラス	おぼしき		1.7	0.6		-	不明	不明	市瀬橋：長さ×幅×厚さ	78 2
67	ⅧF 5層	Ⅷ上下	陶器	皿	口縁部			灰釉 (緑)	緑灰色 (密)	肥前・美濃	16世紀		79 2
76	1号土坑	Ⅷ上	陶器	底部	底部	3.9	(1.8)	透明釉	淡黄白色 (稀)	肥前系	18世紀前半	胎土に打ち火いてい る。	80 2
81	7号土坑	Ⅷ上	陶器	底部	底部	4.8	(2.7)	透明釉 (緑)	淡黄白色 (稀)	肥前系	17後半～18前半		80 2
95	ⅧF 5層	Ⅷ上	磁器	碗	胴部			灰釉	灰白色 (密)	大津部	18世紀	胎土に打ち火いてい る。	80 2
96	ⅧF 5層	Ⅷ上	陶器	碗	口縁部			灰釉	明黒色 (密)	存高部	19世紀		80 2
196	ⅧH 14c	Ⅷ上	磁器	皿	底部	(1.8)	(0.8)	灰付 (青)	白色	肥前系	17世紀前半	高内砂口	85 2

※ () は口径・底径が推定値、備考が現存量。

第14表 石器観察表

No.	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図取位置
46	砥石	1号土坑	底層	14.4	5.5	3.4	383.8	石質・産地・時代 頁岩 北上山麓 立生代後期	78 61
56	砥石	14号土坑	1層	22.1	6.7	5.7	1372.6	アモサイト 奥羽山麓 新生代新第三紀	79 65
58	砥石	21号土坑	Ⅷ上	1.54	1.03	0.33	0.31	赤色頁岩 奥羽山麓 新生代新第三紀	79 64

No	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質・産地・時代	図録写真
61	打製石斧	6号溝	Ⅱ土	23.9	8.5	2.7	723.7	頁岩 北上山麓 新石器前期	79 04
62	打製石斧	8号溝	Ⅱ土下部	10.6	7.5	5.0	522.0	頁岩 北上山麓 新石器前期	79 05
202	石鏃	ⅡB 9 b	Ⅱ層	2.18	1.21	0.43	0.35	頁岩 奥羽山麓 新石器前期	85 04
203	石鏃	ⅡC 14 x	カタラン	1.31	0.80	0.21	0.19	頁岩 奥羽山麓 新石器前期	85 04
204	石鏃	ⅡC 14 c	Ⅱ層	2.64	0.90	0.44	0.69	赤色頁岩 奥羽山麓 新石器前期	85 04
205	石鏃	ⅡB 20 m	Ⅱ層上	(1.75)	1.10	0.26	0.15	頁岩 奥羽山麓 新石器前期	85 04
206	石鏃	ⅡF 3 f	Ⅱ層	2.55	1.11	0.26	0.64	頁岩 奥羽山麓 新石器前期	85 04
207	石鏃	ⅡG 12 f	カタラン	3.20	1.80	0.30	0.99	頁岩 奥羽山麓 新石器前期	85 04
208	石鏃	ⅡF 25 c	Ⅱ層	0.41	2.66	1.53	58.18	頁岩 奥羽山麓 新石器前期	85 04
209	打製石斧	ⅡA 8 1	Ⅱ層	16.6	7.6	4.1	568.3	カマンフェルス 北上山麓 中石器前期	86 04
210	打製石斧	ⅡB 21 n	Ⅱ層	20.1	10.5	4.3	690.6	カマンフェルス 北上山麓 中石器前期	86 04
211	打製石斧	ⅡB 21 n	Ⅱ層	16.2	9.9	3.1	332.7	アイウイト 奥羽山麓 新石器前期	86 04
212	打製石斧	ⅡB 21 a	Ⅱ層	12.5	10.6	2.1	258.0	アイウイト 奥羽山麓 新石器前期	86 04

※ () は残存値

第 15 表 石製品観察表

No	器種	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質・産地・時代	図録写真
213	砥石片?	ⅡB 9 a	Ⅱ層	6.1	7.5	3.5	273.3	玄武岩 奥羽山麓 新石器前期	86 05
214	打刀	ⅡB 10 b	Ⅱ層下	20.6	3.9	1.5	116.6	頁岩 北上山麓 中石器前期	86 05

第 16 表 金属遺物観察表

No	出土地点	層位	器種	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図録写真
9	1号住	2号溝	鏃	鉄	14.28	4.40	0.28	987.0	軸は最大幅	75 05
82	7号墓溝	Ⅱ土	鍔首 (薄首)	銅	6.65	1.70	0.10	5.10		80 05
83	7号墓溝	Ⅱ土	鍔首 (厚首)	銅	7.50	1.10	0.10	10.00		80 05
85	8号墓溝	Ⅱ土	鍔首 (薄首)	銅	3.75	1.45	0.10	10.20		80 05
90	10号墓溝	Ⅱ土	鍔首 (厚首)	銅	4.95	1.75	0.09	5.30		80 06
91	10号墓溝	Ⅱ土	鍔首 (厚首)	銅	6.20	1.10	0.09	4.70		80 06
92	10号墓溝	Ⅱ土	短状鉄製品	鉄	6.65	2.75	0.85	20.26		80 05
93	10号墓溝	Ⅱ土	鍔首?	鉄	4.03	3.90	1.39	13.87		80 05
94	大寺	各属器物存留館に90号溝につけられるものと判別し取組番号を付したため。								
105	15号墓溝	Ⅱ土	鍔首 (厚口)	銅	(5.00)	(1.15)	0.03	1.80		80 06
215	ⅡE 18 c	Ⅱ層	鍔首 (厚口)	銅	3.10	1.30	0.03	4.90		86 06

※ () は残存値

第16表 全風遺物観察表

高橋町出土土遺物

No	出土地点	層位	器名	素材	胴径(A)/(D)(mm)	口径(C)/(D)(mm)	線径(mm)	量口(L/g)	備考	所属		
77	3号墓跡	層上下	灰水通土	制	24.36	21.06	18.36	18.19	2.89	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 厚肉拍置	80/66	
78	3号墓跡	層上下	灰水通土	制	22.87	23.08	18.59	19.10	0.93 - 1.57	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 厚肉拍置	80/66	
79	3号墓跡	掘土下	灰水通土	制	21.77	21.86	17.51	17.18	1.21 - 1.45	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 厚肉拍置	80/66	
80	3号墓跡	掘土下	灰水通土	制	22.37	22.38	18.27	18.16	0.92 - 1.35	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 厚肉拍置	80/66	
81	7号墓跡	掘土	灰水通土	鉄	24.31	21.06	19.20	19.42	1.59 - 1.56	鉄一文銭 (1739 - 1867)。頭水。裏面は磨を食む。	80/66	
86	8号墓跡	掘土	灰水通土	制	23.58	23.58	19.97	19.42	0.96 - 1.09	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 頭水山置	80/66	
87	8号墓跡	掘土	灰水通土	制	24.73	24.68	19.69	19.55	1.35 - 1.46	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 正文	80/66	
88	8号墓跡	掘土	灰水通土	制	22.81	22.76	17.05	16.75	0.97 - 1.47	古貨水 (1636 - 1659)	80/66	
89	8号墓跡	掘土	灰水通土	制	24.07	24.07	19.49	19.75	1.19 - 1.42	古貨水 (1636 - 1659)	80/66	
97	11号墓跡	掘土	灰水通土	制	23.82	21.35	19.65	18.77	1.24 - 1.36	2.91	80/66	
98	11号墓跡	掘土	灰水通土	制	24.25	24.62	19.66	19.24	1.23 - 1.20	2.31	80/66	
99	11号墓跡	掘土	灰水通土	制	22.52	22.31	18.41	17.94	1.14 - 1.35	2.43	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 厚肉拍置?	80/66
100	11号墓跡	掘土	灰水通土	制	23.13	22.76	18.82	18.47	0.86 - 1.16	2.49	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 厚肉拍置	80/66
101	11号墓跡	掘土	灰水通土	制	21.77	21.76	19.26	19.42	1.07 - 1.18	2.96	古貨水 (1636 - 1659)	80/66
102	11号墓跡	掘土	灰水通土	制	23.93	23.87	20.19	19.51	0.95 - 1.10	2.76	古貨水 (1636 - 1659)	80/66
103	12号墓跡	掘土	灰水通土	鉄	24.41	24.04	19.04	19.05	1.08 - 1.24	7.03	鉄一文銭 (1739 - 1867)。3枚	80/66
104	12号墓跡	掘土	灰水通土	鉄	22.61	22.53	18.70	18.84	1.14 - 1.42	1.77	鉄一文銭 (1739 - 1867)。3枚	80/66
105	13号墓跡	掘土	灰水通土	制	23.50	24.68	20.33	19.13	1.13 - 1.52		江戸亀戸村跡 (相隣1668) 正文背文	80/66
106	13号墓跡	掘土	灰水通土	制	25.09	25.08	20.08	19.92	1.23 - 1.27	3.39	江戸亀戸村跡 (相隣1668) 正文背文	80/66
107	15号墓跡	掘土	灰水通土	制	22.97	22.99	18.81	18.80	1.04 - 1.16	2.87	江戸亀戸村跡 (相隣1708) 裏水	80/66
108	15号墓跡	掘土	灰水通土	制	25.06	25.36	20.39	19.87	1.05 - 1.18	2.88	江戸亀戸村跡 (相隣1668) 正文背文	80/66
109	15号墓跡	掘土	灰水通土	制	25.12	25.19	19.62	19.98	0.93 - 1.10	2.83	古貨水 (1636 - 1659)	80/66
110	15号墓跡	掘土	灰水通土	制	25.07	25.09	20.00	19.84	1.08 - 1.20	3.36	江戸亀戸村跡 (相隣1668) 正文背文	80/66
111	15号墓跡	掘土	灰水通土	制	22.08	22.33	18.03	18.14	0.83 - 0.91	1.99	下野白米跡 (相隣1708) 印子	80/66
112	15号墓跡	掘土	灰水通土	制	22.94	22.90	18.63	18.46	1.22 - 1.33	3.13	江戸亀戸村跡 (相隣1700) 厚肉拍置?	80/66
113	15号墓跡	掘土	灰水通土	制	(21.18)	(23.54)		(0.76 - 1.29)	(1.23)		80/66	

※胴径(A)・口径(C)は概方向、線径(B)・口径(D)は縦方向の長さを計測したものである。

(6) 煙 管

ⅣE18cグリッド第Ⅳ層上面から215が出土した。215は煙管吸口である。対応する雁首は調査区内からは出土しなかったため、詳細の時期は不明であるが18世紀前半以降に属するものと思われる。215が出土した周辺は民家等が昭和時代まで存続し、地形変更等が幾度となく加えられた区域である。

6 ま と め

遺跡が所在する地形は、北上川左岸に形成された自然堤防上であるが、北上川に向かって注いでいたものと推測される旧沢跡等が見られ、この自然堤防上にも微かな起伏がある。遺構は起伏の高低に関わらず検出された。遺物は、基本土層第Ⅲ層からが最も多く出土した他、第Ⅳ層上面からも出土している。

調査は、従前の舟渡Ⅰ及びⅡ遺跡の範囲に加え隣接地も対象とした。その結果は、旧来の遺跡範囲に納まるものではなく、出土遺物及び遺構等の時期も類似していたことから、調査成果のまとめについても、時代毎に一つの遺跡として考察することとする。

(1) 縄 文 時 代

微量ではあるものの、中期末葉から晩期終末までに属するものと思われる遺物が、基本土層第Ⅲ層から出土した。しかし、縄文時代に構築されたと思われる遺構は検出されなかった。発掘調査に先立って県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘調査においても、後晩期の遺物は出土しているが、遺構は検出されていない。調査区外に竪穴住居跡等の遺構が所在していると思われる。

(2) 弥 生 時 代

大コンテナ約3箱分の遺物が出土し、弥生時代に属すると思われる1～3号土坑、1号溝が検出された。1号土坑からは、弥生時代前期に属する土器片、焼粘土塊、敲打石が出土し、埋土の一部に十和田火火山灰と思われる灰白色粒子が微量に含まれていた。貯蔵穴あるいは墓墳の可能性があるとされる。2号土坑は、出土遺物から弥生時代中期に構築されたものと思われるが、調査区境界で検出されたため、完掘しておらず用途は不明である。3号土坑からは遺物は出土していないが、フラスコ状の断面形をしており、貯蔵穴の可能性があるとされる。弥生土器は、当該時期に構築された遺構から出土したもの、他時代に構築された遺構に混入したものの、遺構外から出土したもので、時期については、弥生時代前期前半～中期中葉に属するものと思われるが、ほとんどが弥生時代前期のものであった。弥生土器は調査区全体から出土しているが、1・3号土坑が検出された区域周辺のⅢA・ⅣA大グリッドからも弥生時代前期の上器が比較的多く出土し、2号土坑が検出されたⅣG大グリッドに隣接したⅣF・ⅣH大グリッドからも数多く出土している。遺構が検出されていること、遺跡の立地が類似している野沢Ⅱ遺跡から弥生時代の竪穴住居跡が1棟検出されていることなどから、調査区外ではあるため推定の域を出ないが、ⅢA・ⅣA大グリッド隣接区域、ⅣF～ⅣH大グリッド隣接区域の2箇所に当該期の集落が存在している可能性があると思われる。

(3) 古 代

要穴住居跡5棟、焼成遺構1基が検出された。検出された要穴住居跡は、同時に存在していたのではなく、時期差があると思われる。出土遺物と共存関係から1・2号住居は8世紀、5号住居は8世紀～9世紀前半、3・4号住居は9世紀に属すると思われる。2号住居跡についてであるが、カマド及び燃焼部等の痕跡すら検出されていない。しかしながら、焼土、炭化物及び炭化材(クリ)が床面の広範囲で検出されている。住居壁面等に火を受けたと思われる痕跡は確認できなかった。検出状況から焼失住居であると思われるが、詳細は不明である。3～5号住居跡は一部のみの精査であった。1号焼成遺構は4号住居廃絶後に構築されている。隣接する野沢Ⅱ遺跡からは焼成遺構が5基検出され、1～4号焼成遺構は概ね要穴住居跡分布域で検出されている(岩文振埋文セ2010)。検出状況・立地等から1号焼成遺構は上器焼成遺構の可能性はあるが、野沢Ⅱ遺跡で検出された焼成遺構とはその平面プランにおいて相違している。1～5号住居は、ⅡF大グリッドの比較的標高の高い畑地及び水田から、互いに隣接して検出されている。このことに加え、遺構外から出土した古代土器の約75%が同大グリッドから出土していることも考え合わせると、当該区域は本遺跡における8～9世紀にかけて営まれた集落の中心域であると推定される。

(4) 近 世 以 降

堤防構築(昭和40年代頃)以前まで民家等が所在していた区域を中心に近世に属する土坑、柱穴状土坑、溝、墓塚が検出された。墓塚16基は比較的標高の高い荒地で検出され、この場所にあった墓地は耕地整理前に改葬したとの話を地元で聞いたが、今回の調査で検出された墓塚は改葬されずに残ったものであると思われる。出土遺物から、この区域は、江戸初期から幕末・明治期にかけて墓地として使用されていたものと思われる。11号溝からは16世紀に属すると思われる瀬戸・美濃産陶器皿の口縁部片が出土し、6号土坑から18～19世紀に属する遺物も出土していること等から、16世紀から現代までも集落が営まれていたと思われる。

以上のことから、本遺跡は、複数の時代に集落が営まれていた場所であることがわかった。また、時代毎でその中心域が変遷していたと推定される。最後であるが、複数年にわたる発掘調査で得られた資料は、大切な共有財産であり、本遺跡を含めた地域の歴史を紐解く一助となっていくものと思う。

参考文献

- 岩手県教育委員会 1981 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-XⅡ-(石田遺跡)』
(岩手県文化財調査報告書第61集)
- 北上市教育委員会 1997 『南部工業団地内遺跡Ⅲ』(北上市埋蔵文化財調査報告第27集)
2002 『文花南遺跡』(北上市埋蔵文化財調査報告第49集)
2006 『八幡遺跡(2004年度)』(北上市埋蔵文化財調査報告第78集)
2009 『八幡遺跡(2006・2007年度)』(北上市埋蔵文化財調査報告第98集)
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
1996 『江川鉄山跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第237集)
1997 『瀬原Ⅰ遺跡第2次・3次発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第257集)
2006 『河崎の縄文定地発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集)

- 2006 『金府遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集)
- 2007 『網谷地遺跡第15次発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第514集)
- 2008 『市の川Ⅰ遺跡・市の川Ⅱ遺跡・山口遺跡・小川屋敷遺跡・六日市遺跡・
八天北遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第543集)
- 2010 『野沢Ⅰ・Ⅱ遺跡・戸塚遺跡・舟渡Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第567集)
- 小泉 弘 1985 「江戸の町の出土遺物」『季刊考古学』第13集51-55頁
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
- 杉本 良 2001 「赤彩球胴甕片考(1)」『北上市立博物館研究報告第13集』北上市立博物館1-8頁
- 2002 「赤彩球胴甕片考(2)」『北上市立埋蔵文化財センター紀要第2号』
北上市立埋蔵文化財センター15-24頁
- 高橋千晶 2007 「第Ⅱ章 東北・北海道における6-8世紀の土器変遷と地域の相互関係 vii.岩手県南部」
『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト文化交流の研究』210-244頁
- 永井久美男編 1996 『日本出土銭総覧1996年版』兵庫県埋蔵文化財調査会
- 1998 『近世の山十銭Ⅱ-分類図版篇-』兵庫県埋蔵文化財調査会

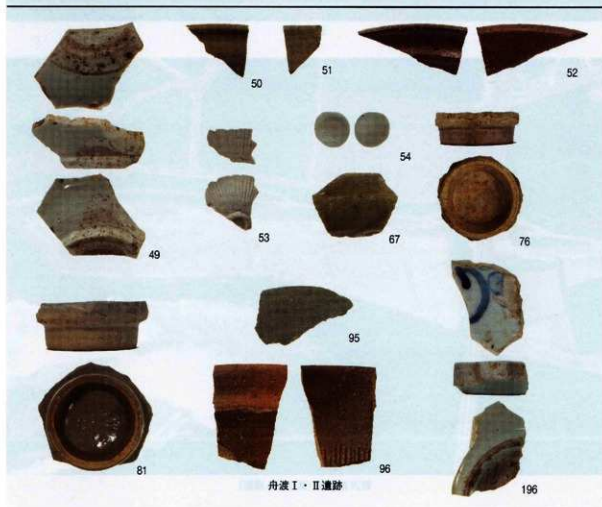
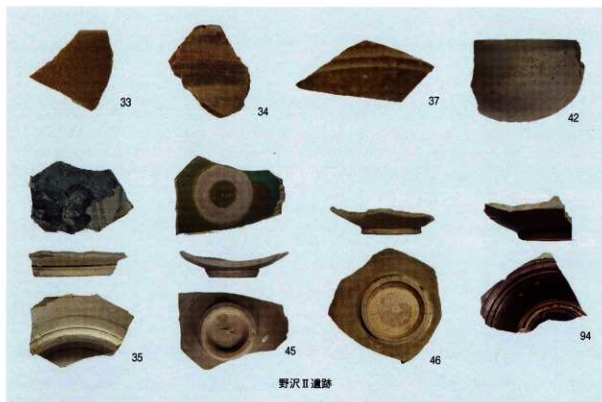
写 真 图 版



遺跡遠景



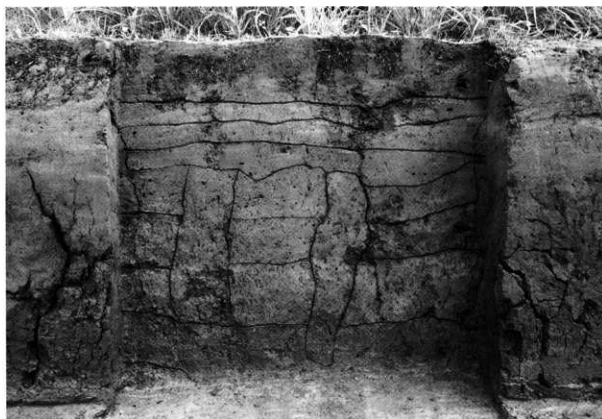
野沢Ⅱ遺跡（真上から撮影）



写真図版2 出土陶磁器



調査前風景 (E→)

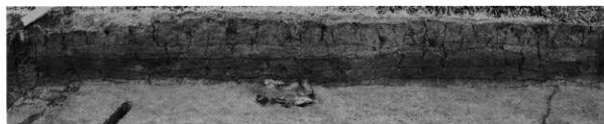


基本土層 (N→)

写真図版3 調査区近景、基本土層



1号住居跡平面 (W→)



埋土断面 (N→)



炉平面 (N→)



埋土断面 (N→)



断ち割り (W→)



断ち割り (N→)



2号住居跡平面 (N→)



埋土断面N-Sベルト (W→)



カマド煙道部平面 (SE→)



カマド煙道部断面 (NE→)



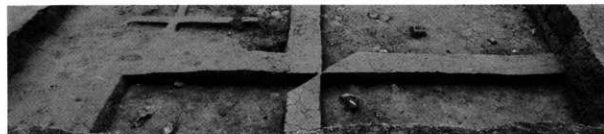
土器出土状況 No. 1 (・W→)



住居完掘 (NE→)



3号住居跡古段階平面 (W→)



埋土断面E-Wベルト (N→)



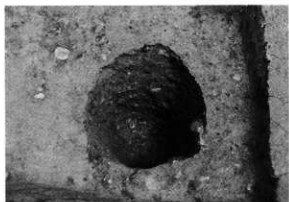
埋土断面N-Sベルト (W→)



カマド平面 (W→)



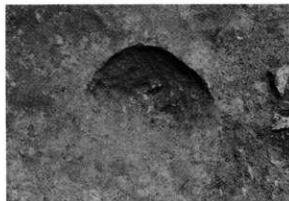
カマド煙道部断面 (N→)



PP1平面 (S→)



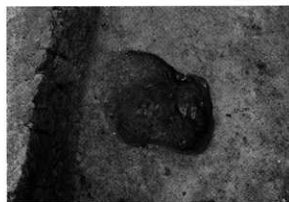
PP1断面 (W→)



PP2平面 (S→)



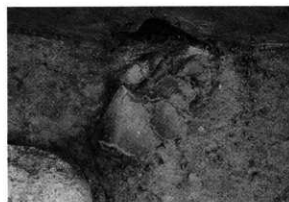
PP2断面 (W→)



PP3平面 (S→)



PP3断面 (W→)



土器 No. 5 出土状況 (S→)



住居完掘 (W→)



3号住居跡新段階平面 (S→)



埋土断面 N-Sベルト (W→)



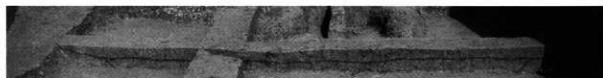
土器出土状況 No.15 (N→)



土器出土状況 No.12 (SW→)



4号住居跡平面 (W→)



埋土断面N-Sベルト (W→)



カマド平面 (W→)



カマド煙道部 (N→)



カマド燃焼部断面 (N→)



遺物出土状況 (N→)



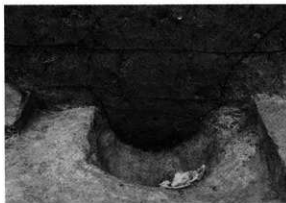
PP1平面 (W→)



PP1断面 (W→)



PP2平面 (N→)



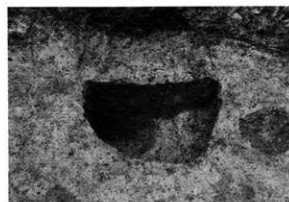
PP2断面 (N→)



PP3断面 (W→)



PP4断面 (S→)



PP5断面 (S→)



住居完掘 (W→)



5号住居跡平面 (N→)



埋土断面 SW - NE ベルト (SE→)



カマド平面 (NW→)



カマド煙道部断面 (NE→)



カマド袖部・燃焼部断面 (NW→)



カマド袖部・燃焼部断ち割り (NW→)



カマド燃焼部断ち割り (NE→)



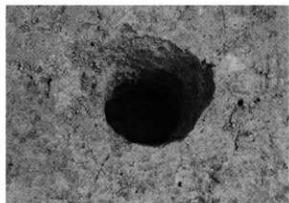
焼土1断面 (NW→)



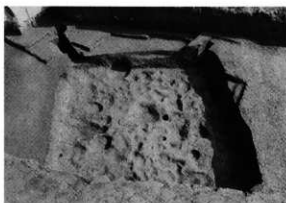
PP1平面 (N→)



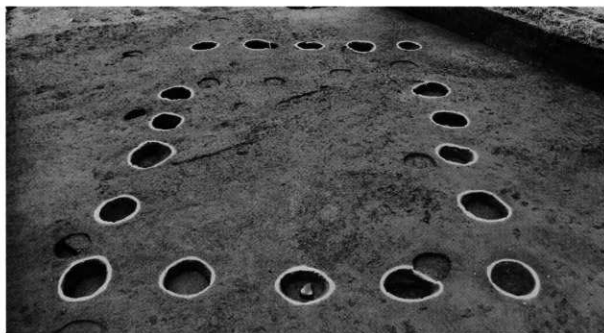
PP1断面 (N→)



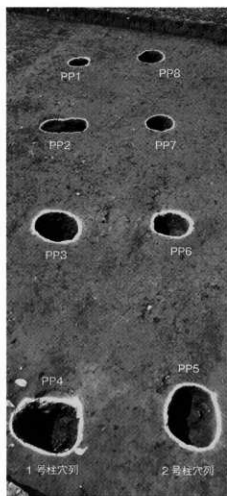
PP6平面 (N→)



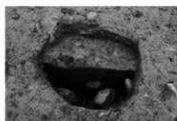
住居完掘 (N→)



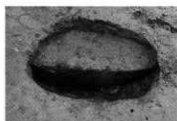
1号掘立柱建物跡 (SE→)



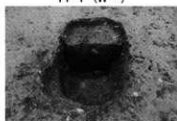
1・2号柱穴列 (S→)



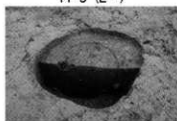
PP 1 (W→)



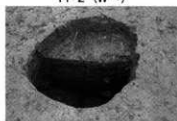
PP 5 (E→)



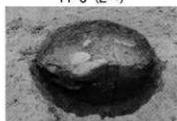
PP 2 (W→)



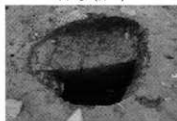
PP 6 (E→)



PP 3 (W→)



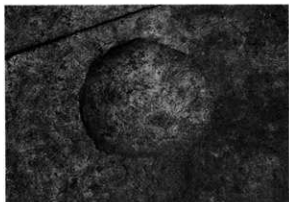
PP 7 (E→)



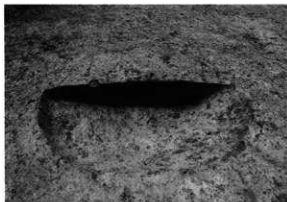
PP 4 (W→)



PP 8 (E→)



1号土坑平面 (S→)



1号土坑断面 (SW→)



2号土坑平面 (N→)



2号土坑断面 (N→)



3号土坑検出 (E→)



3号土坑断面 (N→)



3号土坑平面 (E→)



3号土坑完掘 (E→)



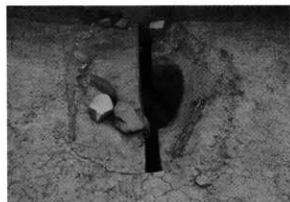
性格不明遺構平面 (N →)



性格不明遺構内焼土断面 (NW →)



性格不明遺構内焼土完掘 (N →)



1号井戸跡平面 (S →)



1号井戸跡断面 (E →)



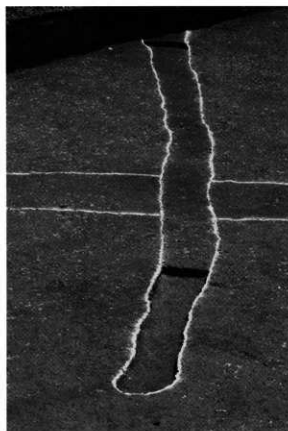
1号溝平面 (SE→)



1号溝北側断面 (SE→)



1号溝南側断面 (SE→)



2号溝平面 (SW→)



2号溝北側断面 (SW→)



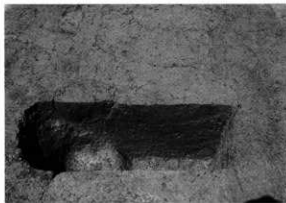
2号溝南側断面 (SW→)



3号溝平面 (SE→)



3号溝北側断面 (SE→)



3号溝南側断面 (SE→)



4号溝平面 (SE→)



4号溝北側断面 (SE→)



4号溝南側断面 (SE→)



5号溝平面 (SE→)



5号溝北側断面 (SE→)



5号溝南側断面 (SE→)



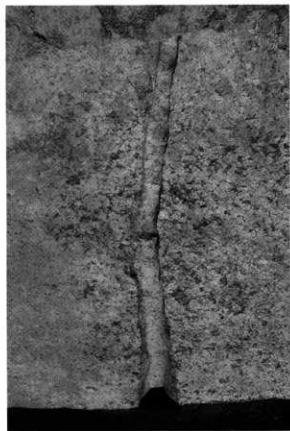
6号溝平面 (SE→)



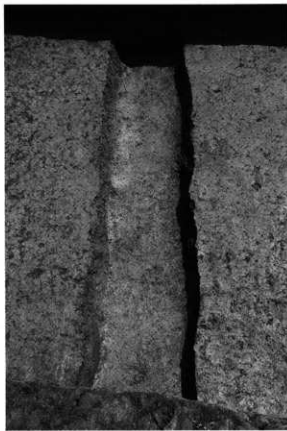
6号溝北側断面 (SE→)



6号溝南側断面 (SE→)



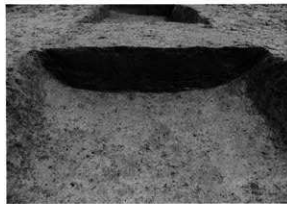
8号溝平面 (N→)



9号溝平面 (N→)



8号溝断面 (S→)



9号溝断面 (S→)



7号溝平面 (S→)



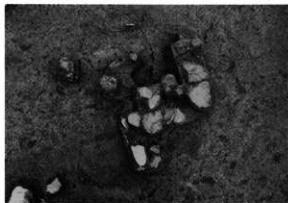
7号溝断面 (S→)



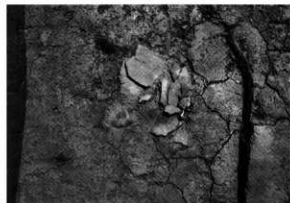
弥生土器出土状況ⅩⅩ3pグリッド付近 (E→)



土器出土状況 No.65 (W→)



土器出土状況 No.68 (E→)



土器出土状況 No.60 (W→)



土器出土状況 No.61 (W→)



舟波 I・II 遺跡 (西側真上)



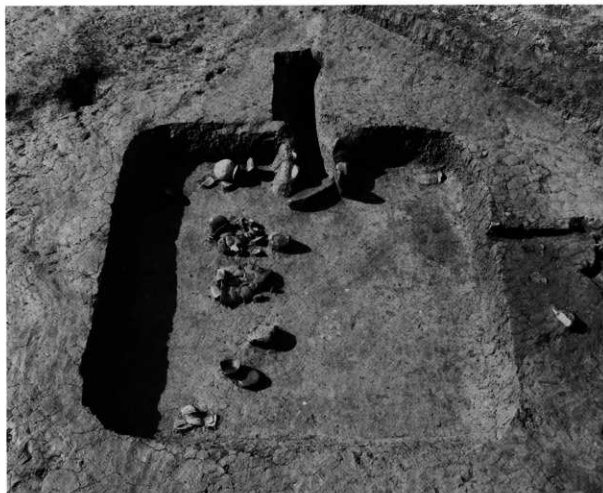
調査前風景 (国道より東側)



基本土層 A-A' (渠道東側)



基本土層 B-B' (渠道西側)



1号住居跡 (SE→)



埋土断面SW-NEベルト (SE→)



埋土断面NW-S Eベルト (SW→)



カマド平面 (SE→)



カマド平面 (SE→)



カマド煙道部断面 (SW→)



カマド燃焼部断面 (SE→)



カマド燃焼部断面 (NW→)



貼り床SW-NEベルト (NW→)



貼り床断面 (SE→)



完備平面 (SE→)



2号住居跡平面 (NW→)



埋土断面NE-SWベルト (NW→)



埋土断面SE-NWベルト (NE→)



貼床断面NE-SWベルト(NW→)



貼床断面SE-NWベルト(NE→)



完掘平面(NW→)



検出状況 (NE→)



住居埋土断面 (NE→)



トレンチ発掘状況 (NE→)



遺物出土状況 (NE→)



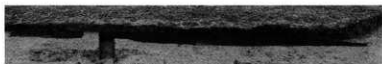
遺物出土状況 (NE→)



4号住居跡検出状況 (SE→)



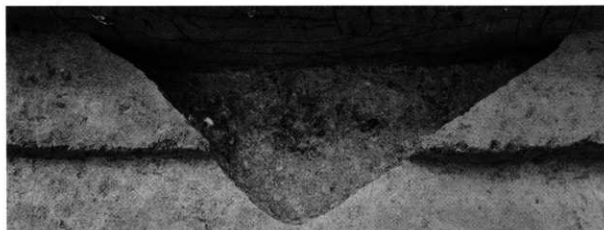
検出状況 (S→)



埋土断面N-Sベルト (NW→)



埋土断面W-Eベルト (SW→)



5号住居跡検出状況平面 (N→)



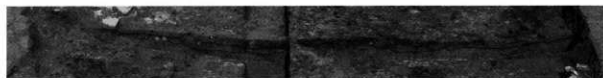
埋土断面E-Wベルト (N→)



1号焼成遺構検出状況 (NW→)



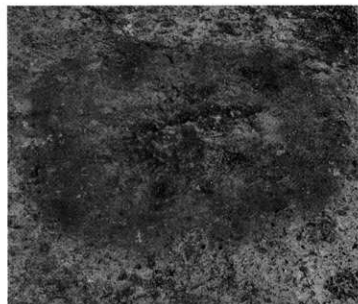
1号焼成遺構完掘状況 (NW→)



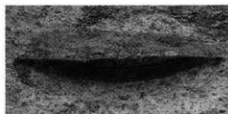
1号焼成遺構埋土断面NW-SEベルト (SW→)



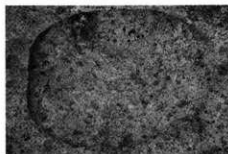
1号焼成遺構埋土断面NE-SWベルト (NW→)



1号焼土検出状況 (S→)



1号焼土断面 (S→)



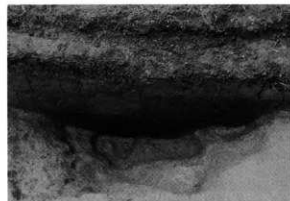
1号焼土平面 (S→)



1号土坑平面 (W→)



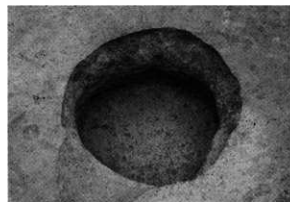
1号土坑断面 (W→)



2号土坑平面 (N→)



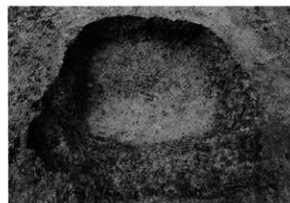
2号土坑断面 (N→)



3号土坑平面 (SW→)



3号土坑断面 (SW→)



4号土坑平面 (S W→)



4号土坑断面 (S W→)



5号土坑平面 (NE→)



5号土坑断面 (NE→)



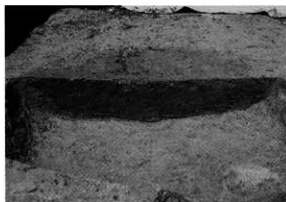
6号土坑平面 (N→)



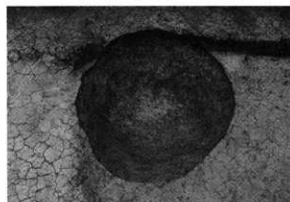
6号土坑断面 (N→)



7号土坑平面 (SE→)



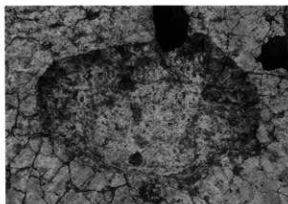
7号土坑断面 (SE→)



8号土坑平面 (S→)



8号土坑断面 (S→)



9号土坑平面 (SE→)



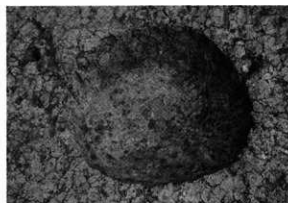
9号土坑断面 (SE→)



10号土坑平面 (SE→)



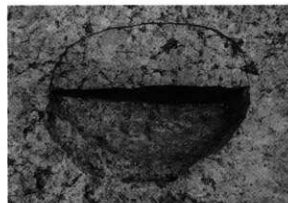
10号土坑断面 (SE→)



11号土坑平面 (SW→)



11号土坑断面 (SW→)



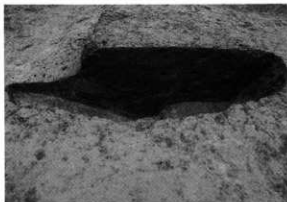
12号土坑検出段階平面 (S→)



12号土坑断面 (S→)



13号土坑平面 (SW→)



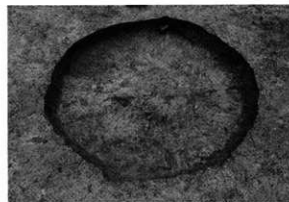
13号土坑断面 (SW→)



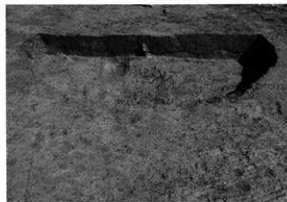
14号土坑平面 (S→)



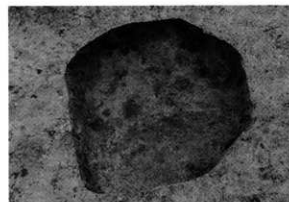
14号土坑断面 (S→)



15号土坑平面 (SW→)



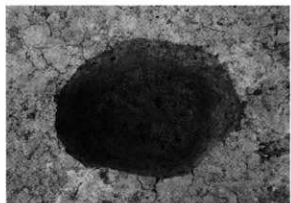
15号土坑断面 (SW→)



16号土坑平面 (SW→)



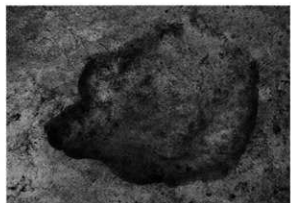
16号土坑断面 (SW→)



17号土坑平面 (NW→)



17号土坑断面 (NW→)



18号土坑平面 (NE→)



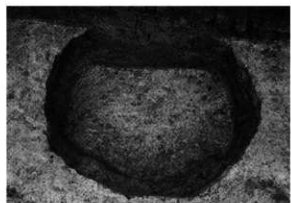
18号土坑断面 (NE→)



19号土坑平面 (NE→)



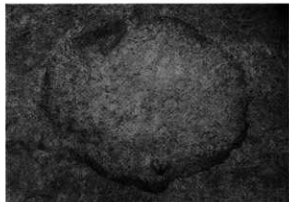
19号土坑断面 (NW→)



20号土坑平面 (S→)



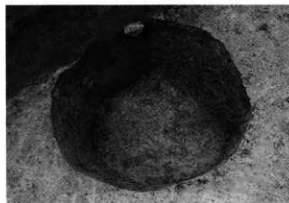
20号土坑断面 (S→)



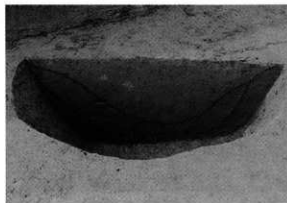
21号土坑平面 (E→)



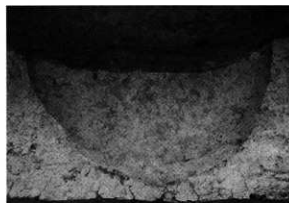
21号土坑断面 (W→)



22号土坑平面 (NE→)



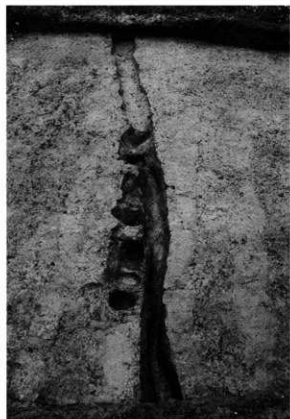
22号土坑断面 (NE→)



23号土坑平面 (N→)



23号土坑断面 (N→)



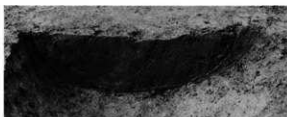
1号溝平面 (S→)



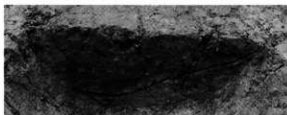
2号溝平面 (S→)



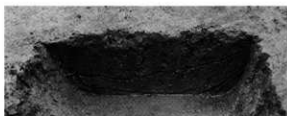
3号溝平面 (S→)



1号溝断面 (S→)



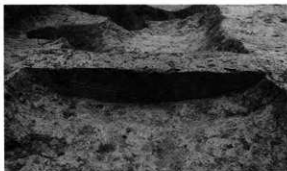
2号溝断面 (N→)



3号溝断面 (S→)



4号溝平面 (SW→)



4号溝北側断面 (S→)



4号溝南側断面 (SW→)



5号溝平面 (E→)



5号溝西側断面 (W→)



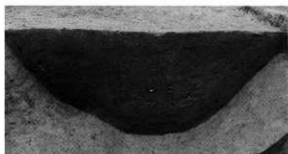
5号溝東側断面 (W→)



6号溝平面 (S→)



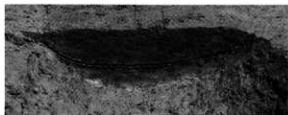
7号溝平面 (S W→)



6号溝断面 (S→)



7号溝北側断面 (S W→)



7号溝南側断面 (S W→)



8号溝平面 (SE→)



9号溝平面 (S→)



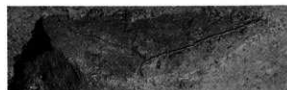
8号溝北側断面 (SE→)



13号溝平面 (S→)



8号溝南側断面 (SE→)



13号溝断面 (S→)



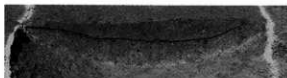
9号溝断面 (S→)



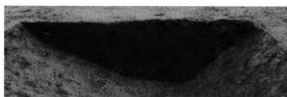
10・11号溝平面 (NE→)



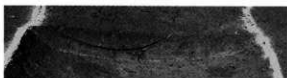
12号溝平面 (SE→)



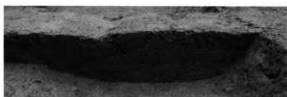
10号溝北側断面 (SW→)



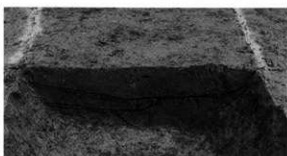
10号溝南側断面 (SW→)



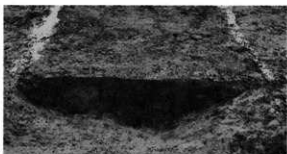
11号溝北側断面 (SW→)



11号溝南側断面 (SW→)



12号溝北側断面 (SE→)



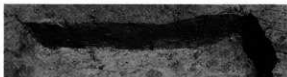
12号溝南側断面 (SE→)



14号溝平面 (SW→)



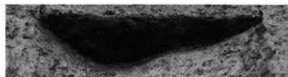
14号溝北壁断面 (SW→)



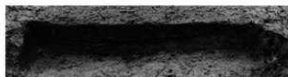
14号溝南側断面 (SW→)



15号溝平面 (SW→)



15号溝北側断面 (SW→)



15号溝南側断面 (SW→)



16号溝平面 (N→)



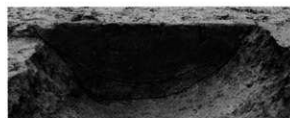
16号溝断面 (S→)



17号溝平面 (NW→)



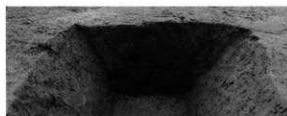
17号溝東側断面 (NW→)



17号溝西側断面 (NW→)



18号溝 確認調査区平面 (SE→)



18号溝 確認調査区断面 (SE→)



18号溝平面 (SE→)



18号溝断面 (SE→)



20号溝平面 (SW→)



20号溝北側断面 (SW→)



20号溝南側断面 (SW→)



21号溝平面 (SE→)



21号溝北側断面 (SE→)



21号溝南側断面 (SE→)



19号溝平面 (SW→)



23号溝平面 (S→)



19号溝断面 (SW→)



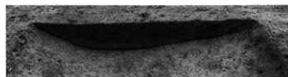
23号溝北壁断面 (S→)



22号溝平面 (SW→)



22号溝南側断面 (S→)



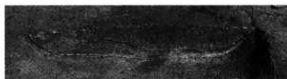
22号溝断面 (SW→)



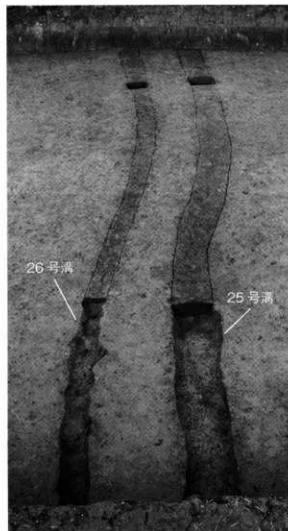
24号溝平面 (SW→)



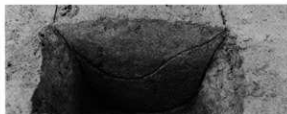
24号溝北壁断面 (SW→)



24号溝南側断面 (SW→)



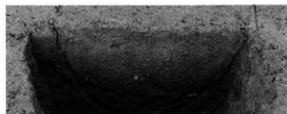
25・26号溝平面 (SW→)



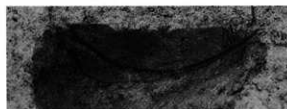
25号溝北側断面 (SW→)



25号溝南側断面 (SW→)



26号溝北側断面 (SW→)



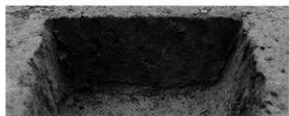
26号溝南側断面 (SW→)



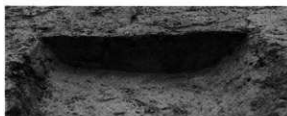
27号溝平面 (SW→)



28号溝平面 (SW→)



27号溝断面 (SW→)



28号溝断面 (SW→)



29号溝平面 (W→)



29号溝東側断面 (W→)



29号溝西側断面 (W→)



30号溝平面 (SE→)



30号溝北側断面 (SE→)



30号溝南側断面 (SE→)



31号溝平面 (SW→)



31号溝東側断面 (SW→)



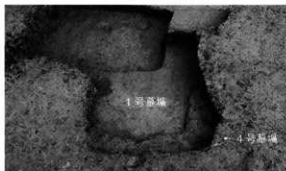
31号溝西側断面 (SW→)



1号墓墳平面 (SW →)



2号墓墳平面 (SW →)



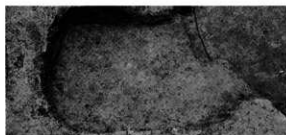
4号墓墳平面 (NW →)



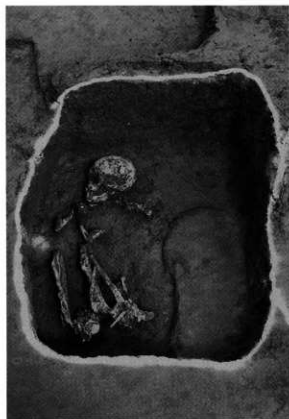
3号墓墳平面 (SW →)



5号墓墳平面 (SW →)



6号墓墳平面 (NE →)



7号墓墳平面 (SW→)



8号墓墳平面 (S→)



9号墓墳平面 (SE→)



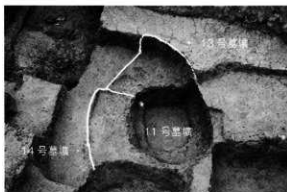
10号墓墳平面 (SW→)



11号墓墳平面 (S→)



12号墓坑平面 (NW →)



13·14号墓坑平面 (S →)



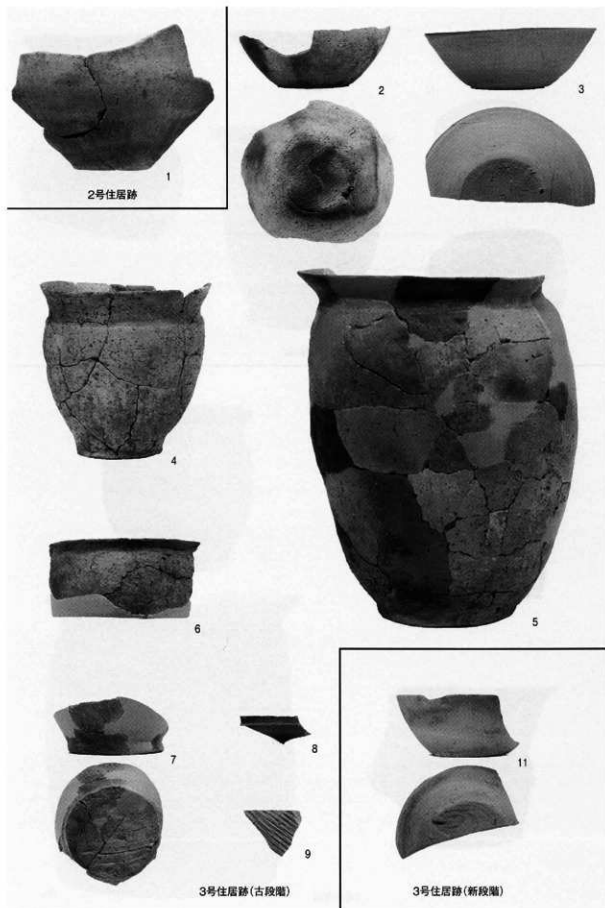
15号墓坑平面 (SW →)



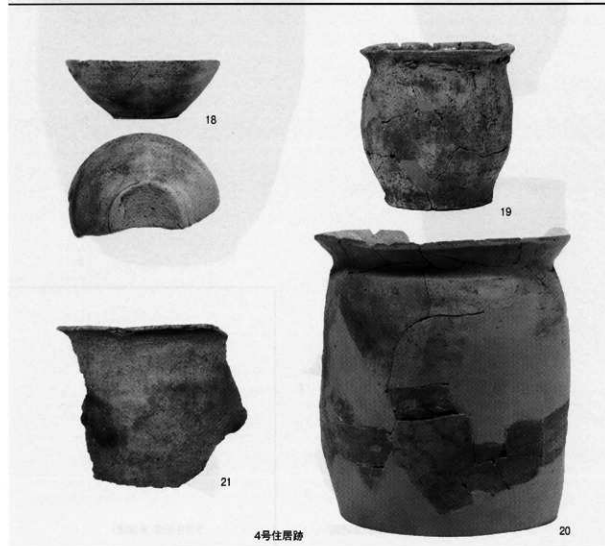
16号墓坑平面 (SW →)



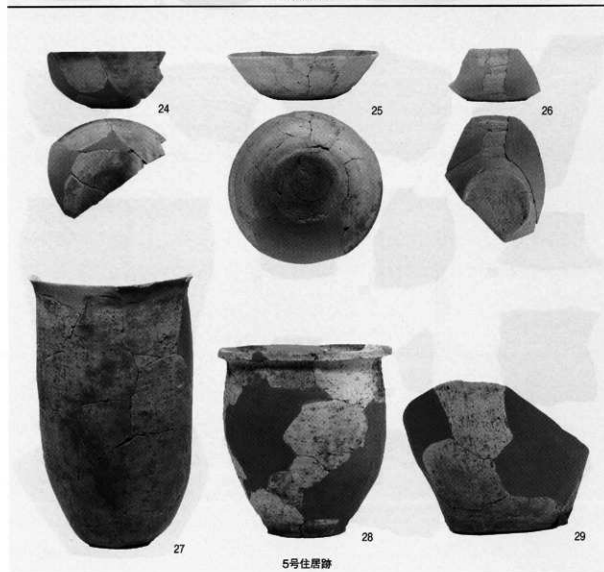
墓域全景平面 (NW →)



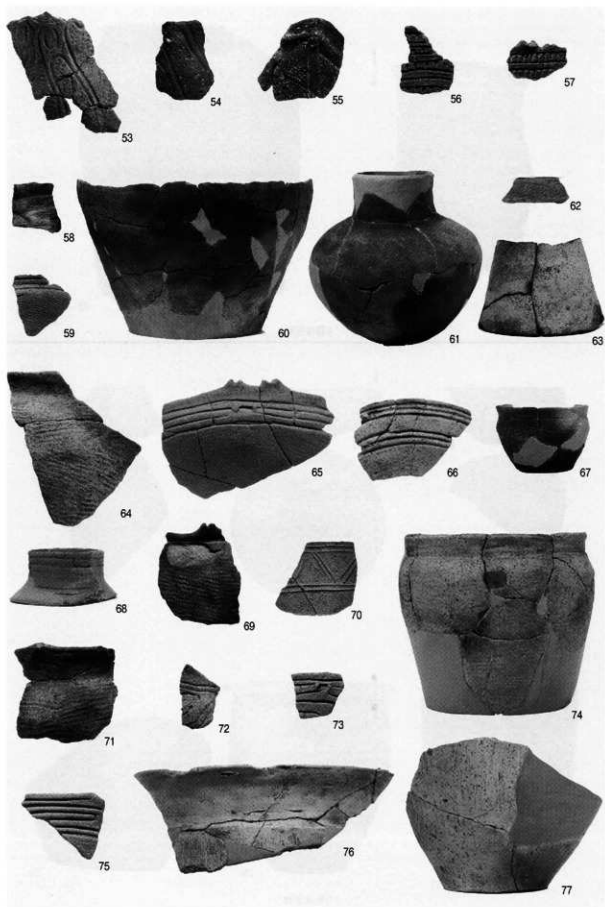
写真図版 51 遺構内出土土器 (1)



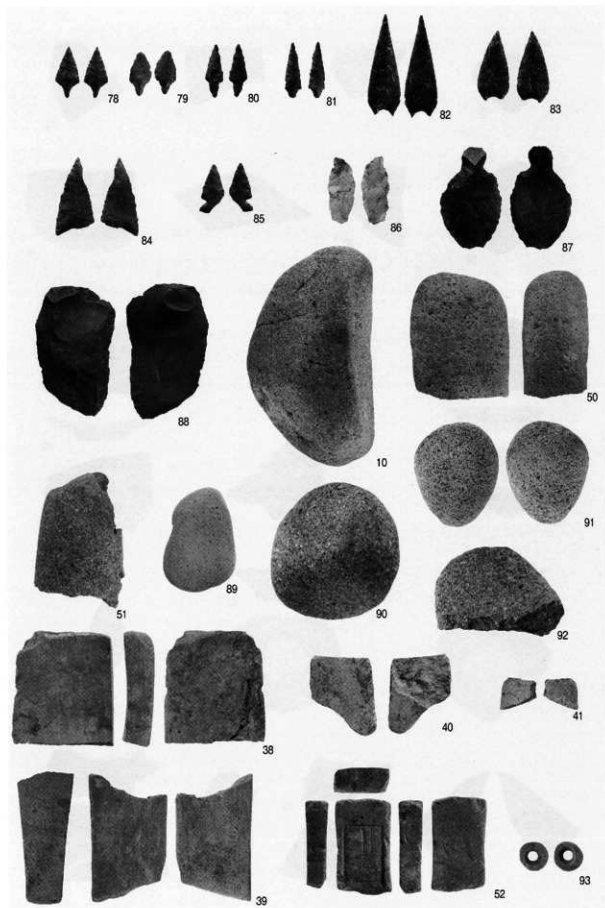
写真図版 52 遺構内出土土器 (2)



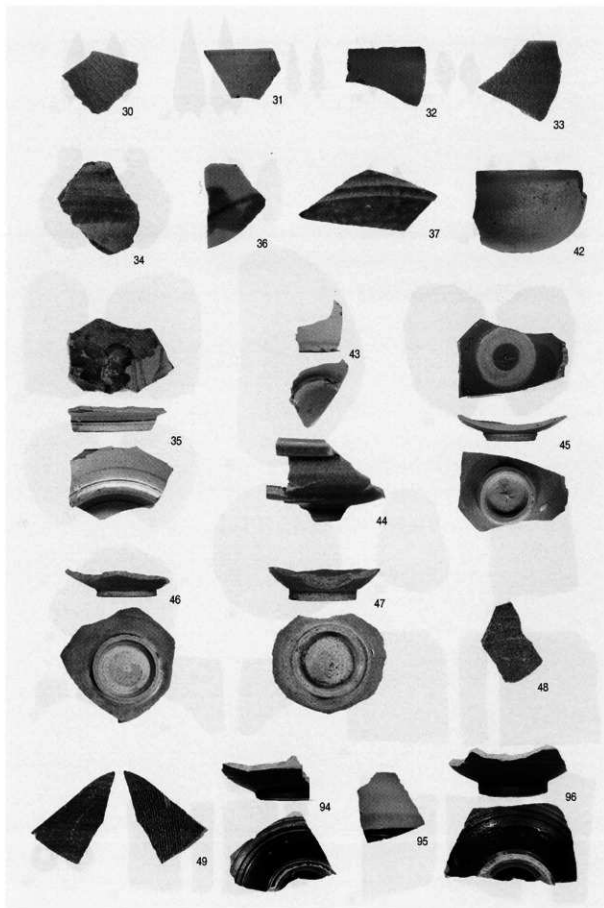
写真図版 53 遺構内出土土器 (3)



写真図版 54 遺構外出土器



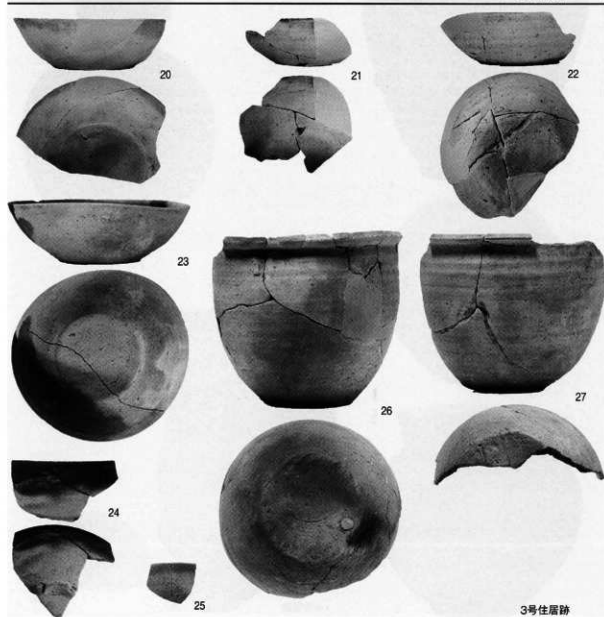
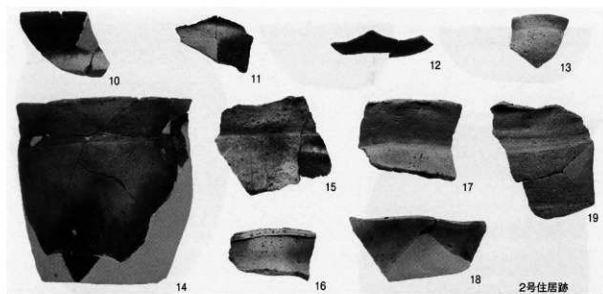
写真図版 55 石器



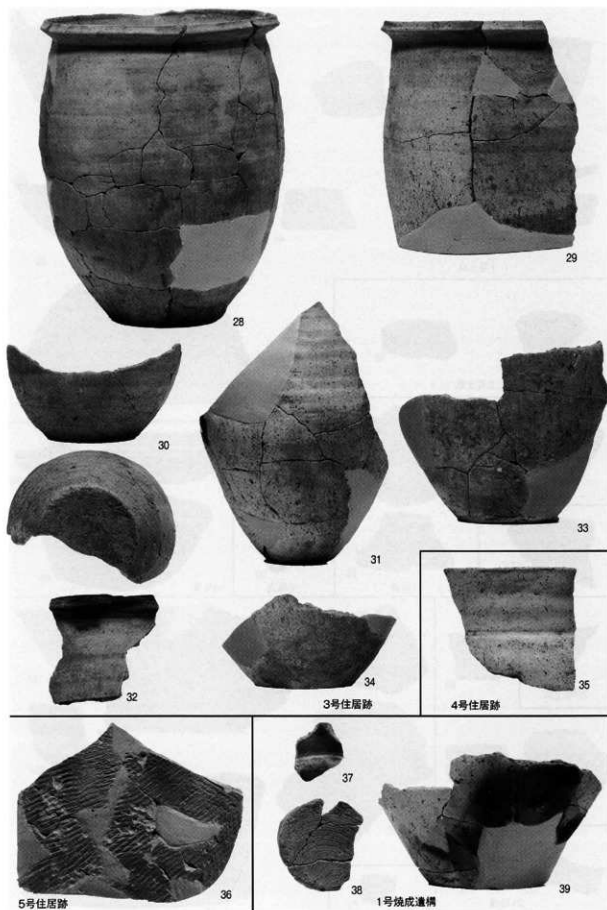
写真図版 56 陶磁器



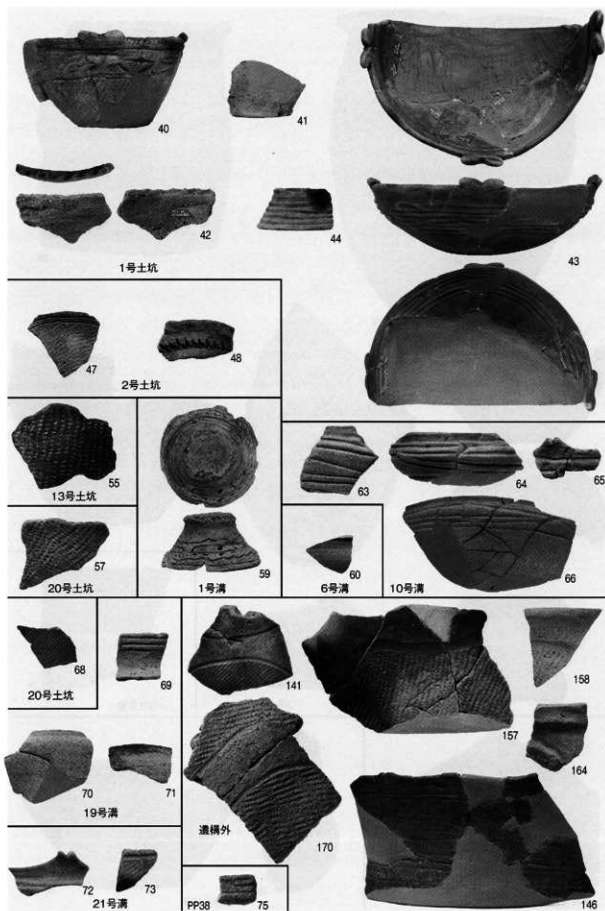
写真図版 57 遺構内出土遺物 (1)



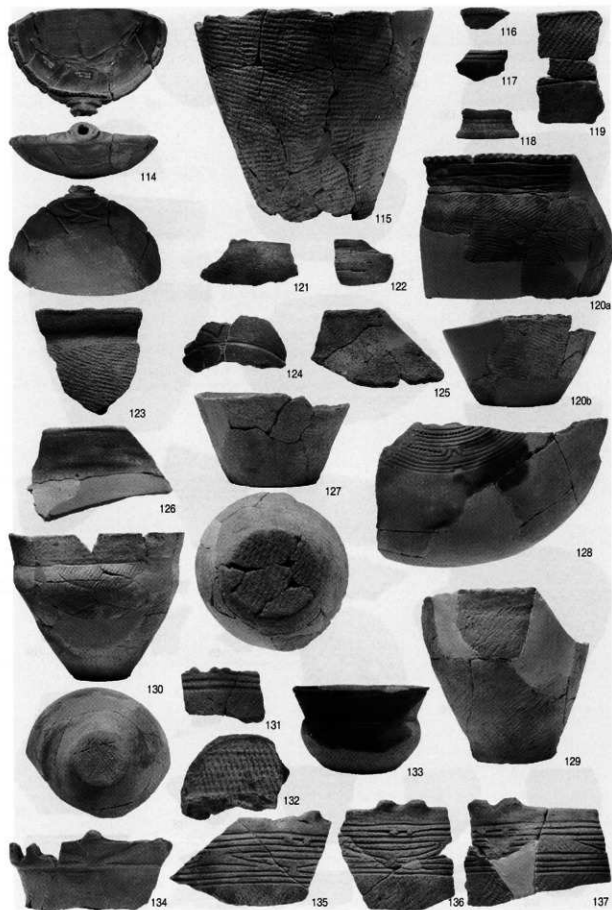
写真図版 58 遺構内出土遺物 (2)



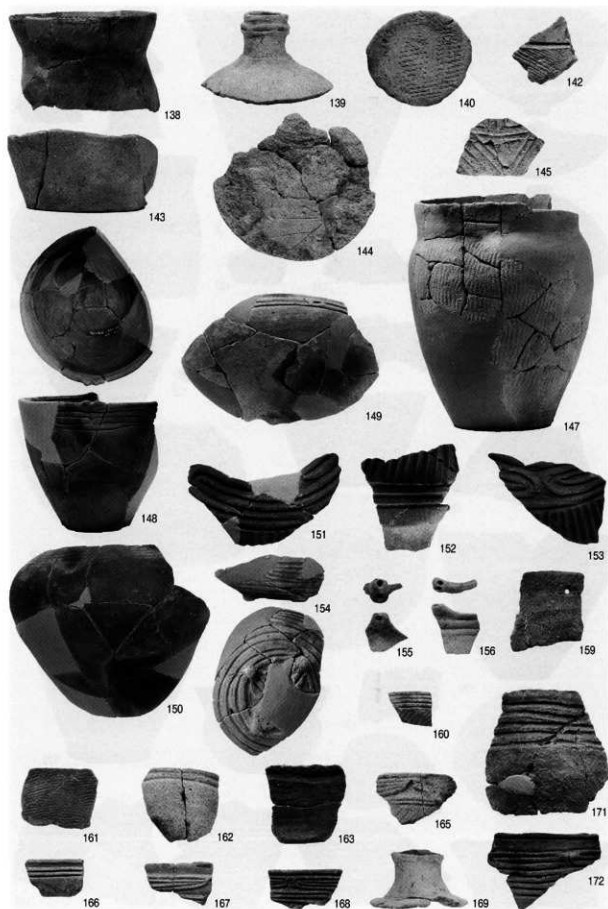
写真図版 59 遺構内出土遺物 (3)



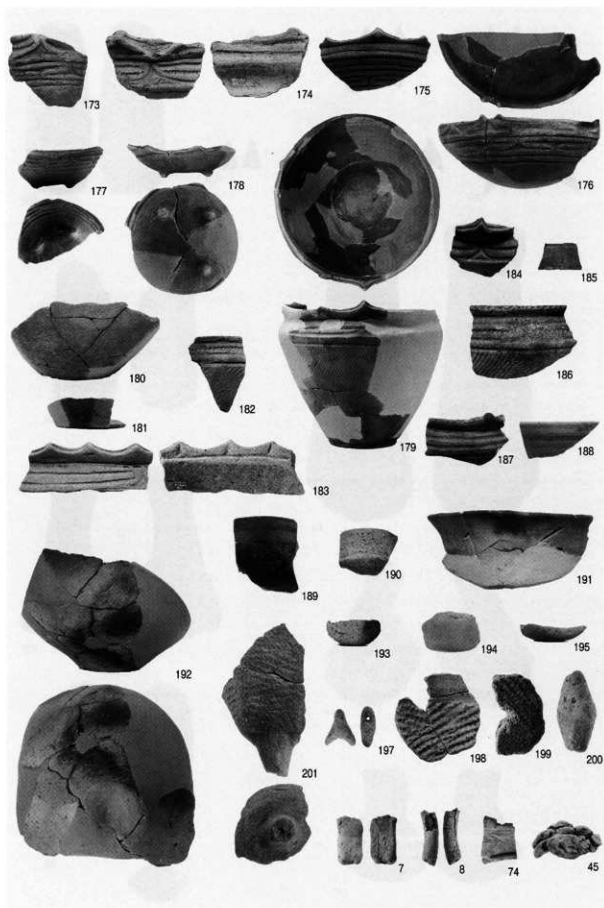
写真図版 60 遺構内出土遺物 (4)、遺構外出土土器 (1)



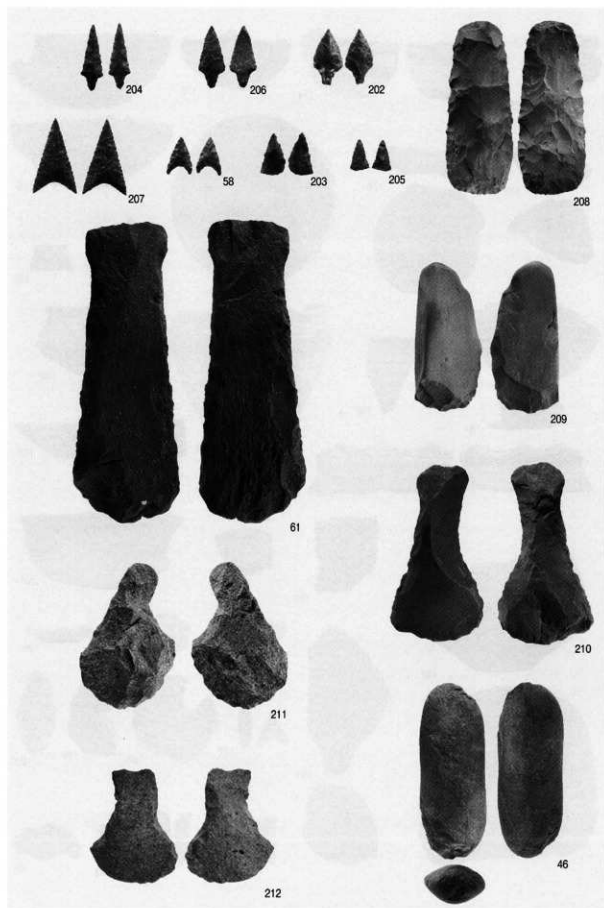
写真図版 61 遺構外出土土器 (2)



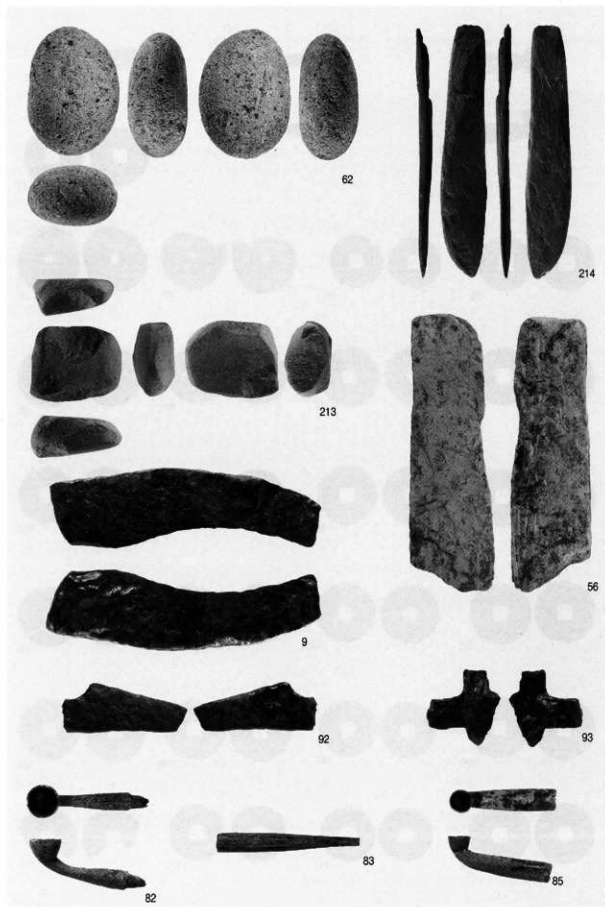
写真図版 62 遺構外出土土器 (3)



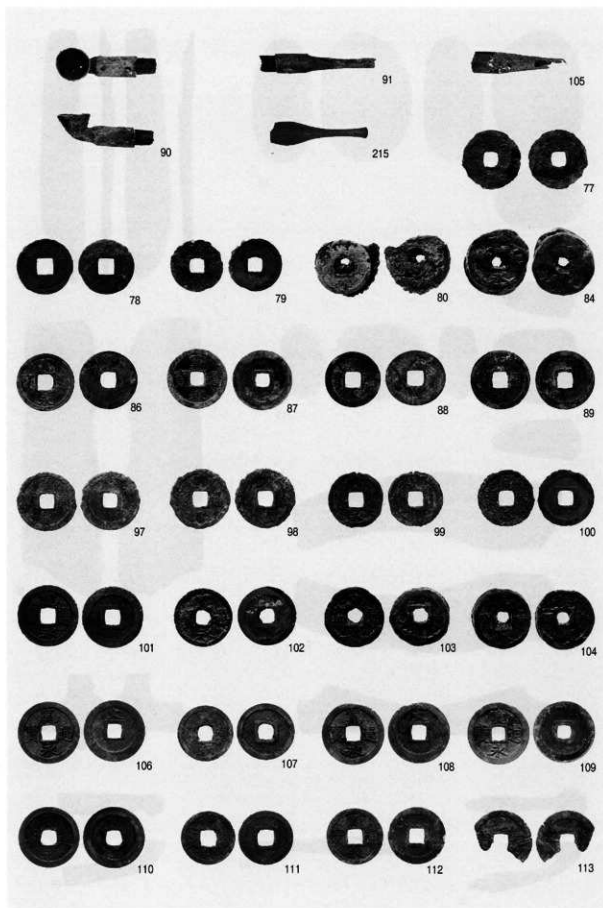
写真図版 63 遺構外出土土器 (4)、土製品



写真図版 64 石器 (1)



写真図版 65 石器 (2)、石製品、金属遺物 (1)



写真図版 66 金属遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	のぞわいせき・ふなと1・2いせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第586集							
編著者名	菅 常久・濱 浩二郎・山田めぐみ							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下坂面11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2011年1月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ...	東経 ...	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のぞわいせき 野沢Ⅱ遺跡	いわてけんふなとし 岩手県北上市 さくらぎ ちむり 更木19地割79 -1ほか	03206	ME46-2306	39度 20分 02秒	141度 09分 09秒	2009.04.10 ～ 2009.08.05	4,500㎡	経営体育成 基盤整備事業 更木新田 地区事業に伴う緊急発 掘調査
ふなと1・2いせき 舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	いわてけんふなとし 岩手県北上市 さくらぎ ちむり 更木6地割61 -1ほか	03206	ME46-1390 ME46-2314	39度 20分 15秒	141度 08分 25秒	2009.05.11 ～ 2009.11.13	11,847㎡	
所収遺跡名	種別	おもな時代	おもな遺構		おもな遺物		特記事項	
野沢Ⅱ遺跡	散布地	縄文・弥生時代	堅穴住居跡1棟 土坑1基		縄文・弥生土器、石器、 石製品		弥生・平安時代の集落跡	
	集落跡	平安時代	堅穴住居跡4棟 溝跡1条		土師器、須恵器			
		近世以降	掘立柱建物跡1棟 土坑2基 井戸跡1基 溝8条 柱穴状土坑137個 性格不明遺構1基		陶磁器			
舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡	散布地	縄文・弥生時代	土坑3基 溝跡1条		縄文・弥生土器、石鏡、 石製品		平安時代の集落跡、近世 墓地	
	集落跡	平安時代	堅穴住居跡5棟 焼成遺構1基		土師器、須恵器、土製品、 金銅遺物			
		近世以降	土坑20基 焼土1基 溝跡30条 柱穴状土坑65個 墓壇16基		陶磁器、金属遺物			
要約	今回調査を行った野沢Ⅱ遺跡、舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡は縄文～近世まで断続的に利用されてきた複合遺跡で、縄文～弥生時代は土器散布地、古代・近世は集落跡であったことが判明した。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第586集

野沢Ⅱ遺跡・舟渡Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業更木新田地区関連遺跡発掘調査

印刷 平成23年1月24日

発行 平成23年1月28日

- 編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
TEL(019)638-9001
- 発行 岩手県東南広域振興局農政部北上農村整備センター
〒024-8520 岩手県北上市芳町2-8
TEL(0197)65-2733
- (財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
TEL(019)654-2235
- 印刷 有限会社シロー印刷企画
〒020-0066 盛岡市上田二丁目17番4号
TEL(019)651-6644
FAX(019)652-2610

